

日本

生理学

雑誌

JOURNAL OF THE PHYSIOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

28巻 9号 1966

綜 説

山 野 俊 雄：ミクロゾームの電子伝達と生理機能……………469

速 報

堀 内 暎 子・林 秀 生・高 橋 憲：ザリガニ頭部神経節における内側巨大
神経の走向……………477

論 文 表 題 集

昭和40年度生理学論文表題集……………479

短 報

〔会報〕生理学者を主対象とする「物理学基礎」講習会の経過報告……………525

会員移動……………526

〔編集後記〕……………526

日本生理誌
J. Physiol. Soc. Japan

日本生理学会

新製品

実験動物飼育管理に理想的な

強力殺菌・消毒・洗浄剤

ハイクレーン10

● 実験動物用ケージに!!

● 動物施設に!!

● 実験器具に!!

特長

- 殺菌力・洗浄力確実
- 安定性が大きく保存性優秀
- 毒性がない
- 使用法簡便
- 繊維類の生地を傷めない
- 経済性が高い

営業品目

動物	SPF・マウス SPF・ラット
飼料	CLEA固型飼料各種
ケージ	CLEAケージ各種
機械	自動ケージ洗滌機、オートクレーブ、自動給水装置、消毒機各種



日本クレア株式会社

東京都目黒区上目黒 6-1256 第2いなりビル Tel(719)7141(代)
大阪市西区江戸堀北通り 2-25 とみたビル Tel(441)1362・1408

第44回日本生理学会総会開催の御案内

(第 1 報)

下記の要領にて第44回日本生理学会総会を開催致します。なお、詳細は追ってお知らせ致します。

- 1) 会 期 昭和42年 3 月29日 (水) 午後, 30日 (木), 31日 (金)
- 2) 会 場 名古屋大学教養部 (東山地区)
名古屋市千種区不老町
- 3) 演題申込 1 講座下記A及びB各々1 題までとし、演題申込みと同時に研究報告の概要を記した 200 字以内の予稿を添えて下さい。
A : 口演12分, 討論 3 分の予定
B : 口演 8 分, 討論 2 分の予定
- 4) 演題及び参加申込締切期日
昭和41年11月30日
(申込用紙は後日お送り致しますが、ほかにご入要の方は下記当番幹事宛にお申出下さい)
- 5) 宿 泊 第17回日本医学会総会の方針に従い次頁の風見鳥ニュース No. 6 の要領にて取扱われますので御了承下さい。

昭和 41 年 9 月

当番幹事 名古屋大学医学部生理学教室 (名古屋市昭和区鶴舞町)

伊 藤 龍

高 木 健 太 郎



第17回日本医学会総会および分科会の宿泊予約申込要項決まる

4万人の参加が予定される第17回日本医学会総会ならびに各分科会の宿泊につきましては、かねてより十分に意を払い、検討を重ねてまいりました。その結果、宿泊関係事務については、関係各機関協力のもとに、日本交通公社に一括委託し、同社内に総会宿泊事務局を設置することにいたしました。したがって宿泊予約はすべて同事務局を通じて行なわれることになり、その予約申込要領が下記の如く決定されましたのでご報告いたします。

■ 総会および分科会 宿泊予約申込要項

申込期間・昭和41年7月1日→昭和42年1月31日

申込方法・宿泊予約申込書に必要事項をご記入のうえ、1名1泊につき1,000円あての予約金（郵便振込）を添えて、下記までお申込みください。

- ・宿泊予約申込書は、各大学の医学部各教室、各研究所、各都道府県の医師会にごさいます。
- ・宿泊予約申込書をいただき次第、予約金領収書に宿泊先名を明記して送付いたします。
- ・予約金は宿泊料金から差し引き精算いたしますので、予約金領収書は必ずご持参ください。
- ・お申込みはお早めに、できるだけ2人以上のグループをお願いします。お申込みが遅くなりますと、名古屋市の近郊の旅館となることがあります。
- ・総会前後の各分科会の宿泊も含めてお申込みください。
- ・お申込みの変更、取消しは直ちに ご通知ください。
- ・昭和42年2月末日までにお取消しの場合、予約金の全額をお返しいたしますが、その後はお返しいたしかねますのでご了承ください。

申込場所・名古屋市千代田区広井町2の54 交通ビル内
日本交通公社中部支社
第17回日本医学会総会宿泊事務局
電話 名古屋(052)―(571)1461

宿泊料金・（税・サービス料別）

- ・旅館（1泊2食付）
A：3,000円 B：2,500円 C：2,000円
D：1,500円 E：1,200円

・ホテル（一泊食事なし）

シングル

- F：2,500円以上 G：2,000円
H：1,500円

ツイン

- I：4,500円以上 J：4,000円
K：3,500円 L：3,000円

- ・ホテルの場合は料金に多少の上下があります。
- ・旅館は各級とも原則として2～3帖に1名の割合の料金です。
- ・ご同伴その他やむを得ない特殊事由で部屋を専有される場合は3～5割の割増になります。
- ・ホテルは収容力が限られておりますので、満員の場合は旅館に変更させていただきます。

昭和41年7月

第17回日本医学会総会 準備委員会

〔綜説〕 ミクロゾームの電子伝達と生理機能 612. 014. 12/3

Electron transport system and physiological function of microsomes

山 野 俊 雄 (Toshio Yamano)*

Ⅰ. ま え お き

核ミトコンドリア, ミクロゾームの機能を論じる場合, 特に注目されるのはミクロゾームの機能が組織によって著しく異なることである. よく知られているようにミトコンドリアの機能は酸化リン酸化によって ATP を産生して細胞活動の直接のエネルギーを供給することである. ミトコンドリアの酸化還元にあずかるフラビン酵素, チトクローム, 種々の脱水素酵素はいろいろの組織を通じて量的にも質的にもある程度共通するところがある. しかし種々の組織から取ったミクロゾームの成分については, 肝臓のミクロゾームに見出される成分が脳に見出されなかったり, 逆に脳に見出される Na^+ , K^+ dependent ATPase が肝臓に見出されないなど臓器によって成分組成がずいぶん異っている. このことは種々な臓器の機能の特異性がミクロゾームの物質代謝系と関係している可能性を示唆している. 生理学で重要な課題とされている Na^+ イオン, K^+ イオンの能動輸送の問題も何らかの意味でミクロゾームの膜および酵素系との関連を持っていることと思われる. したがってミクロゾームの代謝研究は将来ますます重要性をおびてくると思われる. これを反映してミクロゾームの研究者が最近急に増えつつある.

細胞内で endoplasmic reticulum (ER) と呼ばれる構造体を電子顕微鏡のもとに確立したのは K. R. Porter, G. E. Palade, F. S. Sjöstrand らの功績である^{1,2)}. ミクロゾームとは細胞のホモジネートから ER を超遠心によって細胞核, ミトコンドリア, 可溶性成分から分離した

ものについて名付けられた呼称である. したがって細胞内にあつては細胞質の全体にわたって広く組織化され, 臓器細胞の重要な機能に関係している. その量はたんぱく濃度で比較すると細胞の全たんぱくの20%以上を占めると考えられる. ER の観察がくわしくなされるようになって電顕像に ER の2重膜の上にリボゾームの顆粒が観察された. リボゾームは細胞内たんぱく合成と関係しているが, ミクロゾームの電子伝達系とリボゾームの間の直接の関係は現在わかっていない. ミクロゾームに含まれる電子伝達系の成分の濃度はミトコンドリアに劣らず高濃度であるが, 酸素消費はミトコンドリアの数十分の一である. またミクロゾームではミトコンドリアのような酸化リン酸化反応の存在は認められていない. ミクロゾームの酸素消費は直接エネルギー源となり得るようなものではない. しかし酸素を利用して水酸化反応を行なうなど組織の機能を維持するための重要な物質の合成を行なっていることは注目される. また水酸化反応, それに類似する脱メチル反応は, 外来の異物, 薬剤の無毒化の手段となり, 細胞の生命保持に必要な1つの役割をミクロゾームはになっている. ミクロゾームの生理的役割の解明は研究のはじまりにあるという状態であり, 標題の電子伝達系と生理的機能の関連も現在は限られた組織で簡単な事実を挙げ得るに過ぎないが, 将来ひらけゆく研究分野であることは充分予測される.

Ⅱ. ミクロゾームの電子伝達系の研究
方法と関与する酵素

すでに述べたようにミクロゾームは細胞のホモジネートから Schneider Hogeboom または Mitoma の方法によって調整できる³⁾. ミトコン

* 大阪大学医学部第1生化学教室
First Department of Biochemistry, Osaka University Medical School

ドリヤ、細胞核を分離した後、超遠心によって可溶性成分から分けられるが、さらに density gradient centrifugation によって粗面ミクロゾーム、滑面ミクロゾームに分けられるとともに精製される (図1)⁴⁾。粗面ミクロゾームは表1からわかるように膜成分はだいたい滑面ミクロゾームと同じであるが、リボゾームが膜に付着するためにたんぱくあたりの成分濃度が少なく検出されるものと思われる。ミクロゾームにおける酸素消費または水酸化反応の測定にはインタクトなミクロゾームを必要とする。ミクロゾームをこわして再構成することにまだ誰も成功していない。ミクロゾームの電子伝達の状態を観察するためには混濁液の測定可能な分光器による光学的方法、水酸化反応の生成物を定量す

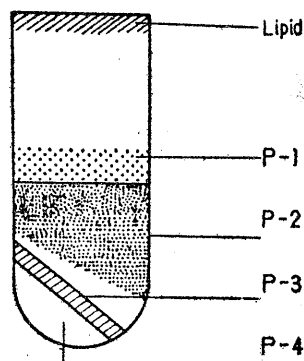


図 1

兎肝ミクロゾームの超遠心による分画、P-1:浮遊層、P-2:滑面ミクロゾーム、P-3:粗面ミクロゾーム、P-4:グリコーゲン層。

$1 \times 10^4 g$ と $1 \times 10^5 g$ の間で集めたミクロゾーム分画を $1.3 M$ ショ糖溶液に重層超遠心した結果である。

る方法などがあるが、特に有効な方法として電子スピン共鳴法 (ESR) がある。この方法の詳細は別にゆずるが⁸⁾ ミクロゾームに適用される理由は、ミクロゾームに存在するへムたんぱくが電子スピン共鳴で特有のシグナルをあらわすからである。図2に細胞ホモジネート、ミトコ

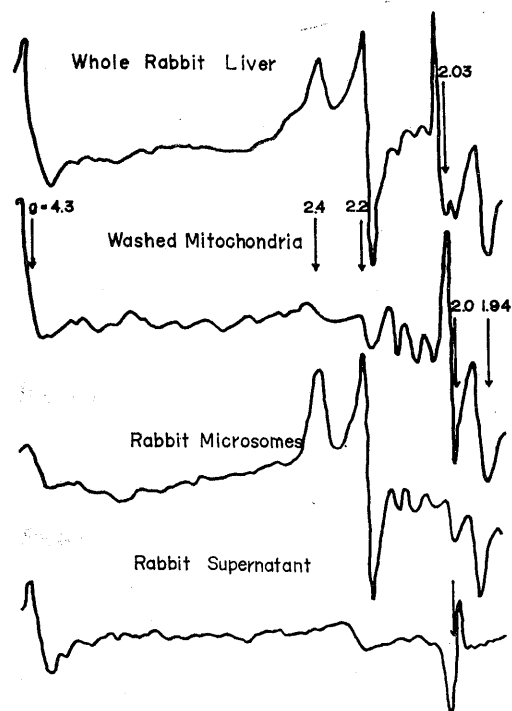


図 2

肝組織の ESR シグナル⁷⁾ 肝ホモジネートのシグナルはミトコンドリア、ミクロゾーム可溶性分画の和になっている。ミクロゾームのシグナルでは $g=2.4, 2.2, 1.9$ のシグナルが目される。上段よりそれぞれ $0.1 ml$ あたり $39 mg, 8.4 mg, 7.2 mg, 2.8 mg$ のたんぱく濃度で測定された。

表 1
ミクロゾームについての化学的分析値の一部

滑面ミクロゾーム	フラビン*	へム*	チトクローム b_5^*	総鉄*	文献
豚肝 (Garfinkel)	0.20	0.43	0.38		(5)
牛肝 (Penn and Mackler)	0.60	0.3			(6)
兎肝 (われわれの数値)	FMN	0.14	1.19	36.0	(7)
	FAD	0.29			
粗面ミクロゾーム					
豚肝 (Garfinkel)	0.35	0.55	0.25		(5)
兎肝 (われわれの数値)	FMN	0.11	0.62	26.2	(7)
	FAD	0.29			

* 数値は mg たんぱくあたりの $\mu mole$ の値を示している

ンドリア, ミクロゾームの ESR のシグナルを示してある。特に著明なのはミクロゾームの ESR のシグナルでホモジネートでも観察される。このシグナル物質は図3の NADPH の電子伝達系に属するヘムたんぱくであることがわかったがその経過はあとで述べる。

肝ミクロゾームの電子伝達系をシェーマで示すと図3のようになる。このシェーマで示される NADPH 系の酸素添加反応ではステロイドの代謝, リピド, 薬剤の代謝に関係する酸化還元酵素が含まれる。

図3における NADH に関する電子伝達系の成分は Garfinkel⁹⁾, Chance, Strittmatter, Velick ら¹⁰⁾ の努力によってフラボプロテイン, チトクローム b_5 が抽出精製化されて明らかになったが, 酸素消費は NADPH に関する系の数分の1に過ぎず生理的な定常状態ではチトクローム b_5 は還元型の状態を保つと考えられるほど自動酸化能は低い。これに対し NADPH 系に関する電子伝達系の確立はずうっとあとである。1958年

Klingenberg¹¹⁾, Garfinkel⁵⁾ によってミクロゾームには還元型で CO に結合して 450 $m\mu$ に吸収を示す物質があることが発見された (P-450)。しかし光照射によって 450 $m\mu$ の吸収が消失しないことからヘムたんぱくであるこの確証は得られなかった。1962年大村, 佐藤ら¹²⁾ は肝ミクロゾームより1つのヘムたんぱくを精製し CO-結合性を有して還元型-CO 結合物が 420 $m\mu$ に

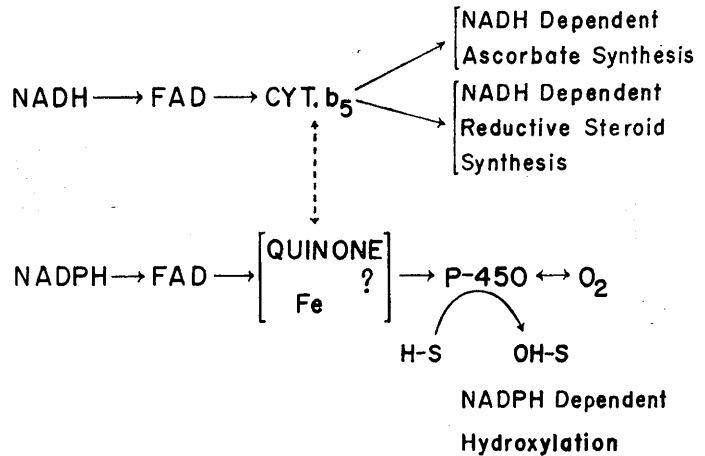


図 3
ミクロゾームにおける電子伝達のシェーマ

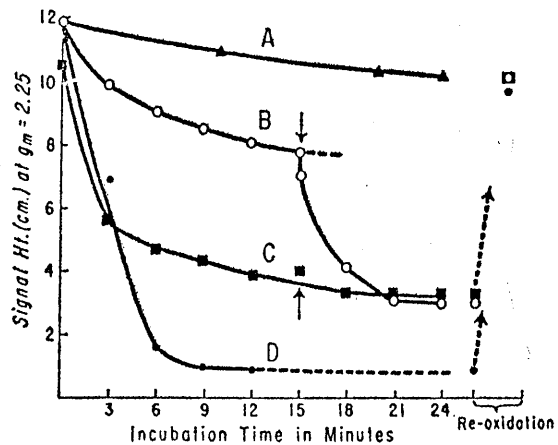


図 4
NADPH (TPNH triphosphopyridine nucleotide) による microsomal Fex の還元。無酸素状態において NADPH を加えると NADH より速やかに還元をうけてシグナルが消える。CO 存在下では CO-P-450が生じるためシグナルが消失する。矢印で NADPH 追加。
A: コントロール, B: NADH 添加, C: NADPH 添加, いずれも無酸素状態, D: NADPH+CO 通気。

吸収を示すことより P-420 と名付けてチトクローム b_5 と異なるものであることを見出した。蛇毒, デオキシコール酸の処理の過程で P-450 の消失と P-420 の出現が相俤うことより生理的な P-450 が変化して P-420 になるのであってチトクローム b_5 の変性物でないと考えた¹²⁾。このようにして P-450 はヘムたんぱくと考えられたが, 取り出した P-420 は NADPH

表 2

種々の組織におけるヘムたんぱくの分析値と P-450 と Microsomal Fe_x の並行性

肝 臓					
1	2	3	4	5	6
Sources	Cyt. b ₅ *	P ₄₅₀ *	Microsomal Fe _x *. **	Ratio of Column 4 to 3	Ratio of Column 4 to 2
Rabbit (f ⁺)	0.88	1.72	1.7	1.0	1.9
Bovine	0.39	0.44	0.5	1.1	1.3
Pig	0.29	0.42	0.4	1.0	1.4
Guinea-pig (m ⁺⁺)	0.55	0.79	0.7	0.9	1.3
Rat (f)	0.51	0.71	0.7	1.0	1.4
Mouse (m)	0.40	0.61	0.6	1.0	1.5

腎 臓						
1	2	3	4	5	6	
Sources	Cyt. b ₅ *	P ₄₅₀ *	Microsomal Fe _x *. **	Ratio of Column 4 to 3	Ratio of Column 4 to 2	
Rabbit (f)	0.10	0.16	0.15	0.9	1.5	
Pig	Cortex	0.17	0.18	0.20	1.0	1.1
	Medulla	0.09	0.04	—	—	—
Guinea-pig (m)	0.12	0.14	0.13	0.9	1.1	
Rat (f)	0.08	0.07	0.07	1.0	0.9	
Mouse (m)	0.10	0.06	0.06	1.0	0.6	

その他の組織					
1	2	3	4	5	6
Sources	Cyt. b ₅ *	P ₄₅₀ *	Microsomal Fe _x *. **	Ratio of Column 4 to 3	Ratio of Column 4 to 2
Bovine					
Cerebellum	0.04	—	—	—	—
Pituitary gland	0.07	0.07	0.07	1.0	1.0
Pancreas	0.08	—	—	—	—
Rabbit					
Small Intestine	0.02	0.07	0.08	1.1	4.0

* mμ moles/mg protein +femal
 ** estimated from ESR study ++male

表 3

副腎ミクロゾームのヘムたんぱく

	Cyt. b 559	Cyt. b ₅	P 450	Mic. Fe _x
Beef Adrenal Cortex	—	0.13	0.78	0.76
Medulla	0.82	—	—	—
Pig Adrenal Cortex	—	0.24	1.14	1.00
Medulla	0.20	0.10	0.61	0.60
Horse Adrenal Cortex	—	0.51	0.76	0.74
Medulla	0.91	—	0.01	0.01
Sheep Adrenal Cortex	—	0.08	0.80	0.82
Medulla	0.11	0.12	0.55	0.52

μmoles per mg microsomal protein

からの電子伝達の作用には活性をもたなかった。1962年著本, Mason, と著者ら¹³⁾は前記ミクロゾームの ESR のシグナルが 厳重な無酸素条件で NADPH の添加により消失していくこと, 酸素を入れるとただちにシグナルがあらわれることにより NADPH の電子伝達系に属し, しかも自動酸化能の強いことを知った (図 4). このシグナルは g 値の異方性を示すのが特徴で g_z=2.41, g_y=2.25, g_x=1.91 となる。図 2 のミクロゾームの ESR シグナルでこの 3 つの g 値が同一 species に属することは ESR 吸収が還元剤によって同じ高さの比で減少していくこと, また温度によるシグナルの高さの勾配が同じであることなどよりほぼ明らかである。この species がチトクローム b₅ と関係ないことは取り出したチトクローム b₅ がこのような ESR の吸収を示さないことおよびミクロゾーム内における被還元速度が著しく異なることから理解できる。P-450 は上記のように無酸素状態で NADPH を添加してようやく還元をうける。ミクロゾームに含まれる ESR のシグナルを示す species は microsomal Fe_x と呼ばれた。Microsomal Fe_x の ESR シグナルは低スピン状態にあるヘム特有の吸収であることが後で述べるように理論的に示しうる。Microsomal Fe_x がヘムたんぱくであることがわかったが, このものとすでに述べた P-450 あるいは P-420 との同一性が問題と

なる。市川, 山野は種々の組織における P-450 の量と microsomal Fe_x 量との関係をしらべた。この両者はどの組織をとって見ても厳密に並行関係が成立するほか動物の成長過程においてもまた薬剤によって酵素量に変化する場合でもやはり P-450 と microsomal Fe_x の量が並行することが見出された¹⁴⁾。したがってこの両者は 1 つのヘムたんぱくの属性のあらわれとして観察されるものといえる。表 2 でわかるように P-450 の量は肝ミクロゾームで最も高く副腎皮質, 腎臓がこれにつき小腸, 脳下垂体にも認められる。しかし脾臓にはほとんど認められなかった。脾臓にはチトクローム b₅

は明らかに認められた。P-450 はミクロゾームを蛇毒またはデオキシコレイトで処置すると P-420 になることを述べたがこのようにして得られた P-420 には ESR のシグナルは見出されなかった。P-420 の可視部分光の吸収の位置は 559, 529, 427 mμ である。副腎髄質のミクロゾームは還元状態で 557 mμ 吸収を示す豚の場合と 559 mμ を示す牛の場合とがあることが報告されていたが、髄質のミクロゾームのチトクロームには ESR シグナルを示さないで可視部吸収の位置が 559 mμ にある別のヘムたんぱく(チトクローム 559)の存在が確かめられた。このものと P-450, チトクローム b₅ の含量の違いによって副腎ミクロゾームの還元型吸収が 557 mμ の吸収であったり 559 mμ の吸収であったりすることが理解される。これらを表にすると表 3 のようになる¹⁵⁾。このほか心筋にはペルオキシダーゼ活性のある b 型チトクロームの存在が報告されている¹⁶⁾。

II. P-450 の物性

P-450 は水酸化反応の key substance であり

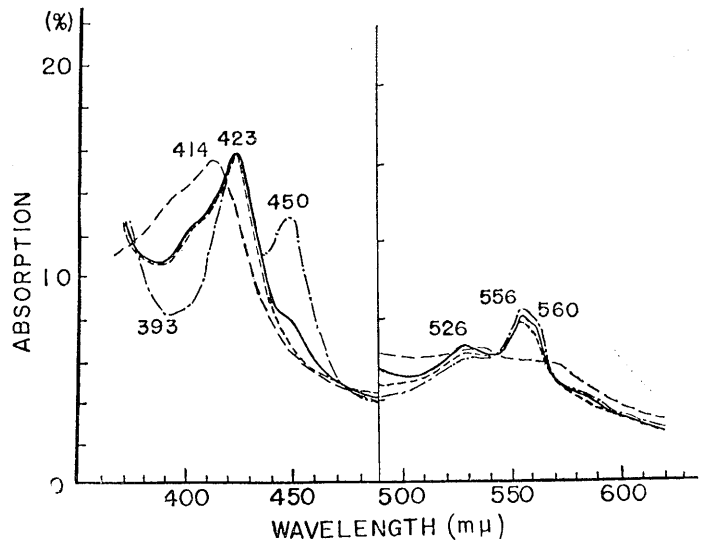
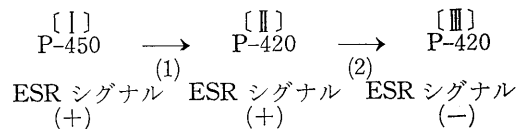


図 5
 兎肝ミクロゾームのスピリットビーム分光器による分光曲線
 --- 酸化型, ---- 無酸素状態で NADH 添加, — 無酸素状態で NADPH 添加, ····· NADPH+CO 通気

その性質も複雑である。P-450 は自動酸化能に富み還元型が CO に結合すると 450 mμ の可視部吸収を示すことを述べたが、この波長における吸収は b 型チトクロームとしてきわめて特異なものである。われわれはスピリットビーム分光光度計で観察した結果 CO が結合しない還元型でも 555, 450 mμ に吸収の極大が存在することを見出した (図 5)¹⁷⁾。ESR の性異なるシグナルと 450 mμ の吸収が P-450 の最も重要な特性で水酸化反応に関与する能力もこの性質が失われると消失すると思われる。P-450 は種々の



処置によって順次その特性を失っていく、(1)の処置としてミクロゾームをトリプシンなどの水解酵素によって処置することがあげられる。

[I] はミクロゾーム内の状態, [II] はパーティクルとして取り出された状態である。[II] の状態では ESR のシグナルは保たれるが 450 mμ の吸収はすでになく還元型は 559, 529, 427 mμ の

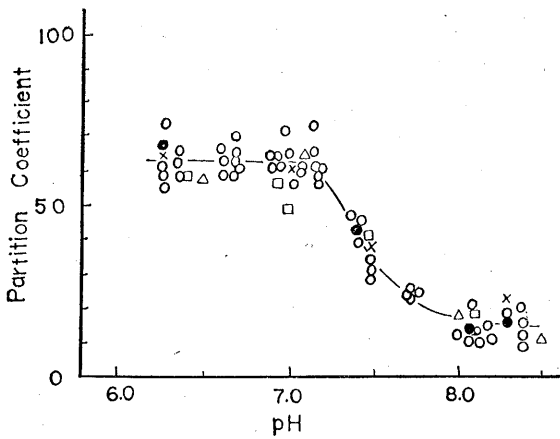


図 6

Partition coefficient の pH 変化曲線

□, ○: 兎肝マイクロゾーム, ●: 牛副腎皮質マイクロゾーム, ×: P-420

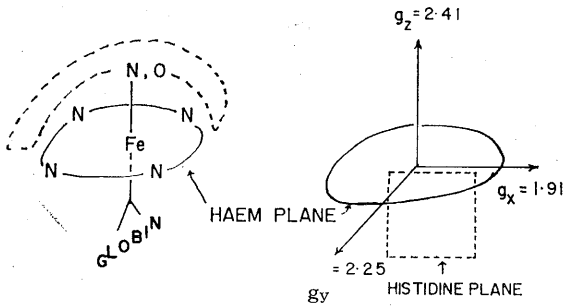


図 7

P-450 のリガンド結合状態のシエーマ

表 4
d_e 軌道** の分離

	P-450	CN-Complex	Et-NC-Com.	OH-Com.
g_z	2.41	2.53	2.43	2.48
g_y	2.25	2.32	2.29	2.25
g_x	1.91	1.85	1.87	1.86
$E_\xi-E_\eta$	4.0a*	3.4a	4.2a	3.8a
$E_\xi-E_\zeta$	8.0a	5.0a	6.6a	9.0a

*spin-orbit coupling constant

**ヘム鉄の 3d 軌道は正八面体構造では 2 重縮退の d_{xy} , 3 重縮退の d_e 軌道にわかれる。 d_e 軌道に 5 つの電子を収容すれば low spin state の Fe^{+++} -ヘムとなる。 Microsomal Fe_x の場合, d_e の軌道はスピン-軌道相互作用により d_{xy} , d_{zx} , d_{yz} の 3 つの軌道がちがったエネルギー値 E_ζ , E_η , E_ξ をもつようになる。 この数値は P-450 では第 6 配位子と Fe^{+++} との相互作用が大きいことを示している。

吸収を示す。この状態ではすでに水酸化活性は失われているがヘムの配位子の状態は変化がないと思われる。すなわち図 1 における未知の factor が抜けたのではないかと考えられる。しかし [II] の状態では水酸化反応の基質である steroid, aniline などを結合しうることが分光的に観察される。 [II] のパーティクルは多くの phospholipid を含んでいる。蛇毒のフォスホリパーゼの処置によって phospholipid がパーティクルからはずされると P-420 は可溶化されて水溶性となり [III] の状態にうつる。この状態では水酸化基質を結合する能力を失う。

Cooper, Estabrook ら¹⁸⁾は CO が副腎皮質 NADPH 系の 17 hydroxyprogesterone の 21 の位置の水酸化を抑制し、この抑制は光によって恢復することを見出した。その際光の波長をかえて恢復を見たところ、450 $m\mu$ の波長で恢復が最大で action spectrum が CO-450 の吸収スペクトルと類似し、CO の抑制はヘムたんぱくに CO が結合するためであると提唱した。われわれは P-450 と CO, O_2 の結合の強さを知るために分光と酸素圧の同時測定をおこなった。この方法は亘らが考案したヘモグロビンの酸素飽和曲線を簡単に求める方法にしたがったもので分光セルに酸素電極を装着した容器を用いた。プロットは XY レコーダーの Y 軸に 450 $m\mu$ の吸収を記録し X 軸に酸素濃度を示す酸素電極の電圧を記録する。450 $m\mu$ の吸収が 1/2 になった時の CO/O_2 の比が partition coefficient と定義される。はじめ $CO/N_2=50\%/50\%$ の気体を通じ 450 $m\mu$ の吸収が最大に達した後、 $CO/O_2=50\%/50\%$ の気体を通じると N_2 は追出されて O_2 の圧が高まる。その結果 partition coefficient が求められる。この値は pH 6~7 では 50~90 の大きな値であるが pH が 8 以上になると小さくなり pH 7.5 で変曲点が求められる (図 6)。ヘモグロビ

ンのポーア効果の類推から P-450 の第 5 配位座はたんぱくのヒスチジンであろうと推察される。第 6 配位座は上記 (2) の処置によって ESR のシグナルが消失することより phospholipid が占めていると考えるのが妥当と思われる。さきに P-450 の ESR のシグナルが low spin state のへムに特有であることに触れた¹⁹⁾が, Griffith²⁰⁾, 小谷²¹⁾らはミオグロビンの ESR の吸収について, g 値の異方性よりへムの *de* 軌道のエネルギーの分離の理論的計算を行なっている。われわれもその方式にしたがって, P-450 のへムについて軌道エネルギーの分離について計算を行なった。その結果は表 4 に一括して示した。図 7 に P-450 のへム部分のリガント結合状態をシェーマで示した。

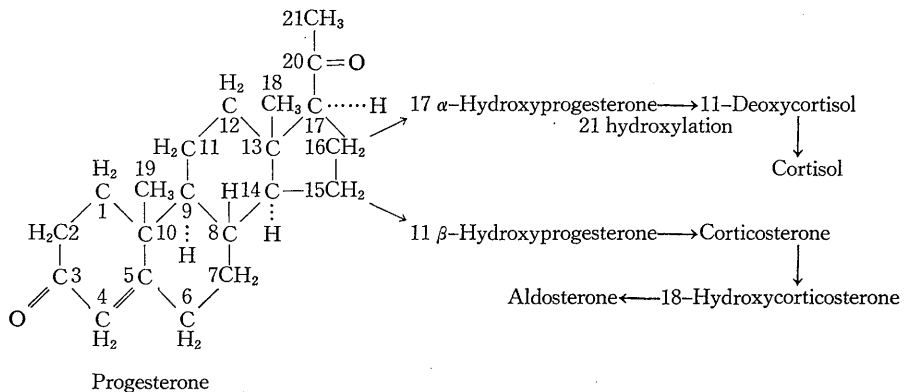
IV. ミクロゾーム電子伝達と生理的機能

図 3 のシェーマで示した NADPH 酸化系の中なかで flavoprotein はたやすく可溶化される。すなわちトリプシンなどの水解酵素をマイクロゾームに働かせると NADH 酸化系と NADPH チトクローム *c* 還元酵素 (フラボプロテイン*) は 100,000 *g* の遠心によって透明な上澄にうつる。これに反して P-450 は沈査に残る。すでに述べたようにこの沈査に含まれる P-450 はデオキシコール酸などの処置によって可溶化す

ることはできるが, その時には ESR のシグナルを失って生理的な機能状態から離れたものとなる。このことと P-450 を含むマイクロゾームのリピド相とが密接に関係しているということは充分考えられる。図 3 のシェーマで NADPH の水素は O₂ の 1 原子と反応して水をつくるが 1 原子の O が水酸化基質と反応すると考えられる。P-450 のへムの 2 価 Fe⁺⁺ に対する O₂ の親和性が大きいこと, リピドと P-450 との相互作用などが水酸化反応に意味をもつと思われる。各論的に重要と思われる水酸化反応系を以下に取りあげる。

Steroid hydroxylase : Cholesterol からコル酸, 副腎皮質ホルモン, 性ホルモンなどが作られるがこれらの反応でマイクロゾームの電子伝達系が関係するものが多い。このうち 17 hydroxy progesterone の 21 の位置の水酸化反応についてはすでに述べたが 21 の位置の水酸化反応は progesterone からコルチコステロン, コーチゾールを生じる途中の反応であり, 副腎 corticosteroid の生合成に重要な step である。このほか 11 β hdroxylase が副腎のミトコンドリアに存在することが知られてきたが²²⁾, 興味あることは副腎のミトコンドリアには肝マイクロゾームに見られる P-450 の存在が認められることである。ほ乳動物の細胞分割によって得られたミトコンドリアに P-450 が観察されるのは現在のところ副腎だけである。肝臓でもミトコンドリア画分に P-450 のシグナルが見られることがある

* このフラボプロテインは Williams, C. H., ら²⁵⁾によって精製された。



が、数回の洗じようによって消失するから、ミトコンドリア画分へのミクロゾームの混入がその原因と考えられる。ともかく 17 α -hydroxyprogesterone の 21 hydroxylation, progesterone の 11 β -hydroxylation の両反応に P-450 が関与する可能性は非常に強い。

Proline hydroxylase : コラーゲンの分子の中には多くの hydroxyproline が含まれるが, hydroxyproline は proline の水酸化によって生じる。この反応はミクロゾームで行なわれる。遊離の proline が hydroxyproline になってからペプチドに取り込まれるのではなく, proline rich のポリペプチドが水酸化反応の基質となる²³⁾。ミクロゾームに付着するリボゾームで合成されたポリペプチドが直接ミクロゾームに結合した状態で水酸化を受けると考えられる。

非特異的水酸化反応 : このなかには薬剤の水酸化を含む多種の水酸化反応が含まれる。フェノバルビタールなどの薬剤を動物に注射し続けると aniline, acetoanilide などの芳香族化合物の水酸化反応活性が数倍増加することが知られていたが, Orrenius & Ernster²⁴⁾によって特に P-450 の含量が増加することが報告された。アミノピリンなどの脱メチル化による無毒化もミクロゾームの非特異的水酸化反応系によって行なわれる。

この小論では触れることができなかったが cholesterol の合成に関係する squalene synthetase, squalene cyclizing enzyme なども NADPH を水素供与体とするミクロゾームの酵素である。また癌腫瘍形成と関連して, アゾ色素, メチルコラントレンなどの起癌剤が P-450 を増量することが報告されているがくわしいことは省略する。

V. 結 論

ミクロゾームの酸化還元酵素の含量は相当高い。またリピド含量も高く脂溶性物質の代謝には重要な反応の場を提供していると考えられる。ミクロゾームの母体である endoplasmic

reticulumは細胞のなかの重要な構造体であり, それぞれの臓器の特異的機能との結びつきの度が大いと思われる。

文 献

- 1) Palade, G. E. (1958) "Microsomal Particles and Protein Synthesis", (ed. R. B. Roberts), p 36, Pergamon Press. (London).
- 2) Siekevitz, P. (1959) "Regulation of Cell Metabolism", Ciba Foundation Symposium. p 17, Churchill Ltd. (London).
- 3) Mitoma, C., Posner, H. S., Reitz, H. C. and Udenfriend, S. (1956) Arch. Biochem. Biophys., **61**, 431
- 4) Fouts, R. (1961) Biochem. Biophys. Research Commun., **6**, 373
- 5) Garfinkel, D. (1958) Arch. Biochem. Biophys., **77**, 493
- 6) Penn, N. and Mackler, B. (1958) Biochim. Biophys. Acta, **27**, 539
- 7) Mason, H. S., Yamano, T., North, J. C., Hashimoto, Y. and Sakagishi, P. (1965) Oxidases and related Redox Systems (ed. T. E. King et al.) vol. II, 879, John Wiley (New York)
- 8) 山野俊雄 (1965) 蛋白質核酸酵素 **10**, 999
- 9) Garfinkel, D. (1957) Arch. Biochem. Biophys. **71**, 100
- 10) Strittmatter, P. and Velick, S. (1965) J. Biol. Chem., **221**, 253
- 11) Klingenberg, M. (1958) Arch. Biochem. Biophys., **75**, 376
- 12) Omura, T. and Sato, R. (1962) J. Biol. Chem. **237**, pc 1375
- 13) Hashimoto, Y., Yamano, T. and Mason, H. S. (1962) J. Biol. Chem., **237**, pc 3343
- 14) Ichikawa, Y. and Yamano, T.; Arch. Biochem. Biophys., in Press.
- 15) Ichikawa, Y. and Yamano, T. (1965) Biochem. Biophys. Res. Commun. **20**, 263
- 16) 志知 均・外 (1965) 酵素化学シンポジウム第17回予稿集 49
- 17) Ichikawa, Y., Hagihara, B. and Yamano, T.; Arch. Biochem. Biophys., in Press.
- 18) Estabrook, R. W., Cooper, D. Y. and Rosenthal, O. (1963) Biochem. Z., **338**, 741
- 19) 山野俊雄・市川佳幸・萩原文二 (1965) 日本生物物理学会 第4回一般講演予稿集 81
- 20) Griffith, J. S. (1957) Nature **180**, 29
- 21) Kotani, M. (1961) Prog. Theor. Physics, Suppl. **17**, 4
- 22) Harding, B. W., Wong, S. H. and Nelson, D. H. (1962) Biochim. Biophys. Acta, **92**, 415
- 23) Peterkofsky, B. and Udenfriend, S. (1963) J. Biol. Chem., **238**, 3966
- 24) Orrenius, S. and Ernster, L. (1964) Biochem. Biophys. Research Commun. **16**, 6
- 25) Williams, C. H. and Kamin, H. (1962) J. Biol. Chem., **237**, 587

〔速報〕

ザリガニ頭部神経節における内側巨大神経の走向 612. 822. 5 : 595. 384

Median giant fiber system in the crayfish cephalic ganglion

堀内 噓子・林 秀生・高橋 意

Etsuko Horiuchi, Hideo Hayashi and Isao Takahashi

日本医科大学第2生理学教室
Department of Physiology, Nippon Medical School, Tokyo

〔昭和41年7月27日受付〕

ザリガニ腹側神経における内側および外側巨大神経系については Johnson (1) の記載がある。即ち外側巨大神経は数個の夫々細胞体をもった軸索が融合して形成されており、更にこのシナプスについては電子顕微鏡的 (Hama 2) にまた電気生理学的 (Watanabe & Grundfest 3) に詳細に検討されている。これに反して内側巨大神経の細胞体については判明しておらず、少なくとも食道側神経より尾側には存在しないことは確かめられている (Johnson 1)。従って、内側巨大神経が単一の細胞体を有しているのか或いは頭足類で観察された (Young 4) 様に小細胞体から発した細い線維が合して内側巨大神経を形成しているかは、まだ明らかになっていない。一方 Allen (5) は lobster embryo について、頭部神経節 (脳) の腹側の細胞体から発して背側にまわり反対側の食道側神経を通り第6腹部神経節に達している線維があると記載している。しかしこれは内側巨大神経と同定されており、脳内の分岐と走向の詳細な記載にも乏しい。本論文の目的はザリガニ脳内における内側巨大神経線維の走向の全経過とその細胞体の存在を

証明し、よって内側巨大神経の生理学的研究の基礎を与えようとするものである。

雌雄のザリガニの脳を背甲を開いて切り出し、

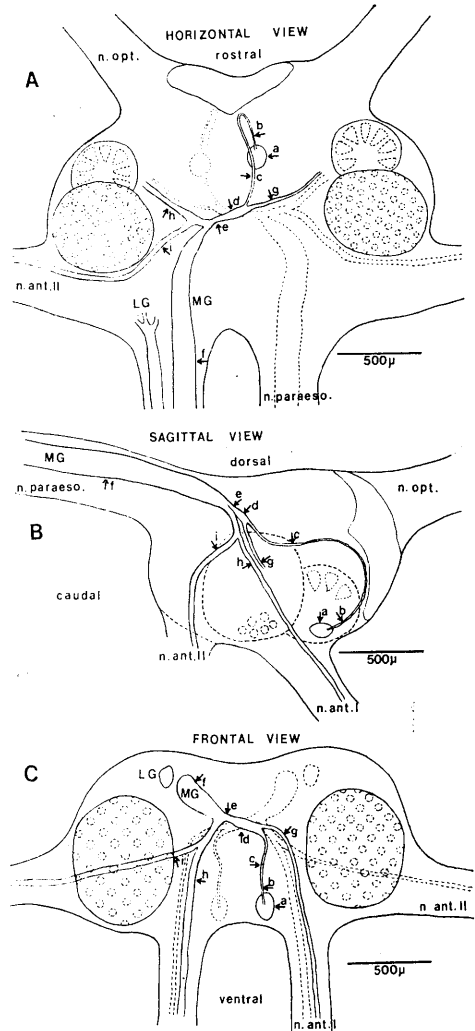


Fig. 1. Diagrammatic views of median giant fiber in the crayfish cephalic ganglion

Position	a	b	c	d	e	f	g	h	i
\bar{x} *	105.5	15.8	15.1	43.0	20.1	115.0	16.0	40.0	35.0
u **	13.8	8.1	4.7	24.2	5.5	21.7	6.9	12.6	5.0
N	11	5	10	8	11	10	3	6	5

*: mean diameter of fibers (μ)
**: unbiased estimates of standard deviation

Table 1.

Mean diameter of median giant fiber in the crayfish cephalic ganglion (Alphabets in position correspond to the arrows in Fig. 1)

10% formalin-Harreveld 液で1日固定した後パラフィン包埋した。約8 μ の厚さで水平、矢状、前頭の3方向の連続切片標本を総計31例作製した。標本はAzan染色をほどこし、400倍の拡大率でスクリーンに投影し、トレースした。

第1図にザリガニの頭部神経節内の内側巨大神経線維の走向とその細胞体の位置をトレースから再構成して半模式図として示した。外側巨大神経(LG)は、脳に入ってから、少くとも3つの細い線維に分れるが、その先の脳内の走向は現在のところ不明である。

食道側神経中の内側巨大神経(MG)は前方に走り脳に入る。内方に向かって曲がった後、外方に分枝を出し、この分枝は更に2つに分れて外側下方に向い、遂に同側の第1および第2触角神経に入る。内側巨大神経の本幹は更に内側下方に向い正中線で交叉し、他側から来た巨大神経線維と密に接触している。交叉後、この線維は更に2つの細い線維に分れ、一方は外側下方に走り遂に反対側の第1触角神経に入る。他方は初めは前方に走るのが吻側の細胞群の真後で下方に転ずる。脳の腹側表面の近くで再び後方に転じ、直径が最大180 μ にもおよぶ腹側巨大神経細胞体と連結している。食道側神経から細胞体に至る途中の経過での線維の直径の平均を第1表に示す。食道側神経内での内側巨大神経の太さに比して、途中では著しく線維が細くなることは興味深い。

以上の線維の走向の途中5個所で、いわゆるseptum様の膜構造が線維内に認められた。これらはいずれも分岐部に存在した。しかしながら光学顕微鏡の所見では外側巨大神経線維に認められ

たような完全なseptumではなく、一部切れており、完全に線維を途中で分けているようには観察されなかった。

筆者等は以上の解剖的所見を基にして若干の生理学的実験を行なっている。腹側神経細胞体の電氣的性質、特に電流-電圧曲線が時間と共に変化する非直線性を示し、脱分極性および過分極性反応を示すこと等については別に報告する予定である(Hayashi & Takahashi 6)。

文 献

- 1) Johnson, G. E. (1924) Giant nerve fibers in crustaceans with special reference to *Cambarus* and *Palaemonetes*. *J. Comp. Neurol.* **36**, 323-373
- 2) Hama, K. (1961) Some observations on the fine structure of the giant fibers of the crayfishes (*Cambarus virilis* and *Cambarus clarkii*) with special reference to the submicroscopic organization of the synapses. *Anat. Rec.* **141**, 275-293
- 3) Watanabe, A. and Grundfest, H. (1961) Impulse propagation at the septal and commissural junctions of crayfish lateral giant axons. *J. Gen. Physiol.* **45**, 267-308
- 4) Young, J. Z. (1939) Fused neurons and synaptic contacts in the giant nerve fibers of cephalopods. *Proc. Roy. Soc. B.* **229**, 465-503
- 5) Allen, E. J. (1894) Studies on the nervous system of crustacea. *Quart. J. Micr. Sci.* **36**, 461-482
- 6) Hayashi, H. and Takahashi, I. : Time-dependent non linear properties of ventral large soma in crayfish cephalic ganglion (in preparation)

[昭和40年度生理学論文表題集]

(日本生理学雑誌に掲載の分を含む)

北海道大学医学部第1生理学教室

- 1) 小関利行・有村 章・伊藤真次 (1965. 2) 寒冷曝露時におけるラッテ血中 TSH 値の変動と下垂体後葉の役割 日本内分泌誌 **40** (特別号), 53
- 2) 吉村啓一・有村 章・伊藤真次 (1965. 2) Ethionine の ACTH 分泌抑制作用の検討 日本内分泌誌 **40** (特別号), 119
- 3) 奥野晃正・塚田守雄 (1965. 2) Vasopressin の代謝抑制効果について 日本生理誌 **27**, 116
- 4) 広重 力 (1965. 2) Visceral organism に対するインシュリンの糖利用促進作用 日本生理誌 **27**, 116-117
- 5) 中村治雄 (1965. 2) 肝における代謝制御 最新医学 **20**, 380-392
- 6)* Schally, A. V., Bowers, C. Y., Kuroshima, A., Ishida, Y. et al. (1964. 2) Effect of the lysine vasopressin dimers on blood pressure and some endocrine functions. Amer. J. Physiol. **207**, 378
- 7) Schally, A. V., Kuroshima, A., Ishida, Y., Redding, T. W. & Bowers, C. Y. (1965. 2) The presence of prolactin inhibiting factor (PIF) in extracts of beef, sheep and pig hypothalami. Proc. Soc. Exp. Biol. & Med. **118**, 350
- 8) 今野則道・有村 章・伊藤真次 (1965. 2) 甲状腺機能に対する食塩摂取の影響 日本内分泌誌 **40** (特別号), 130
- 9) 石田祐一・黒島農汎・C. Y. Bowers, A. V. Schally (1965. 2) In Vivo 及び In Vitro における視床下部粗抽出物の FSH 放出作用について 日本内分泌誌 **40** (特別号), 60
- 10) Sargent, F. II and S. Itoh (1965. 2) Bioclimatology. Science **117**, 761
- 11)* Hiroshige, T. and C. N. H. Long (1964. 4) Effect of insulin on the visceral organism in the rat. Fed. Proc. **23**, 461
- 12)* Schally, A. V., Bowers, C. Y., Kuroshima, A., Ishida, Y. et al. (1964. 4) Biological properties of lysine vasopressin dimers. Fed. Proc. **23**, 206
- 13) Kuroshima, A., Ishida, Y., Bowers, C. Y. and Schally, A. V. (1965. 5) Stimulation of release of folliclestimulating hormone by hypothalamic extracts in vitro and in vivo. Endocrinol. **76**, 614
- 14) Arimura, A., T. Koseki, A. Kuroshima & S. Itoh (1965. 5) Influence of the neurohypophysial hormone on the plasma PB¹³¹I level during repeated blood collections. Jap. J. Physiol. **15**, 198
- 15) Sargent, F., II and S. Itoh (1965. 5) Bioclimatology. BioScience **15**, 371
- 16) Arimura, A., T. Yamaguchi, K. Yoshimura, Y. Matsuoka and S. Itoh (1965. 6) Sensitive assay method for ACTH using an increase in secretion rate of adrenal venous corticosterone in hypox rats. Jap. J. Physiol. **15**, 270
- 17) Arimura, A., T. Yamaguchi, K. Yoshimura, T. Imazeki and S. Itoh (1965. 6) Role of the neurohypophysis in the release of adrenocorticotrophic hormone in the rat. Jap. J. Physiol. **15**, 278
- 18)* Tsutomu Hiroshige and C. N. H. Long (1964. 6) Effect of dexamethasone on gluconeogenesis in the visceral organism. Progr. 46th Meeting U. S. A. Endocrine Soc. 100
- 19) Schally, A. V., Bowers, C. Y. Reddings, T. W., Ishida, Y. and Kuroshima, A. (1965. 6) Neurohumoral factors in pig hypothalamus. Progr. 47th Meeting U. S. A. Endocr. Soc. 125
- 20) Kuroshima, A. and Y. Ishida (1965. 6) Depletion of pituitary growth hormone content by hypothalamic extracts. Progr. 47th Meeting U. S. A. Endocr. Soc. 28
- 21)* Schally, A. V., Bowers, C. Y., Redding, T. W., Kuroshima, A. and Ishida, Y. (1964. 6) Hypophysiotropic releasing factors of beef hypothalamus. Progr. 46th Meeting U. S. A. Endocr. Soc. 50
- 22)* Kuroshima, A., Ishida, Y., Bowers, C. Y., and Schally, A. V. (1964. 6) Follicle-stimulating hormone (FSH)-releasing activity of bovine and ovine hypothalamic extracts. Progr. 46th Meet. U. S. A. Endocr. Soc. 110
- 23) Okuno, A., J. Yamamoto and S. Itoh (1965. 8) Lowering of the body temperature induced by vasopressin. Jap. J. Physiol. **15**, 378
- 24) Tsukada, M., A. Okuno and S. Itoh (1965. 8) Influence of vasopressin on the metabolic rate in rats. Jap. J. Physiol. **15**, 388
- 25)* Hiroshige, T. and C. N. H. Long (1964. 8) The preparation, maintenance and use of a visceral organism for metabolic studies in the rat. Yale J. Biol. & Med. **37**, 75
- 26) 伊藤真次 (1965. 8) 褐色脂肪組織の生理的意義 日本医事新報ジュニア版 42号, 6-8
- 27) 有村 章・奥野晃正 (1965. 9) ACTH 測定値の意義, 下垂体後葉と ACTH 日本内分泌誌 **41**, 707-711
- 28) Schally, A. V., Bowers, C. Y., Kuroshima, A., Ishida, Y., Redding, T. & Kastin, A. J. (1965. 9) Hormonal activities of beef and pig hypothalamus. Proc. Intern. Union Physiol. Sci. **4**, 275
- 29) Nakamura, H. (1965. 9) Effect of ornithine-aspartate on liver lipid synthesis in ethanol-treated mice. Abstr. Papers XXIII Intern. Congr. Physiol.

- Tokyo 231
- 30) Kuroshima, A., Ishida, Y., Redding, T. W., Bowers, C. Y. and Schally, A. V. (1965. 9) Studies on hypothalamic growth hormone releasing factor. Abstr. Papers XXIII Intern. Congr. Physiol. Tokyo 248
 - 31) Hiroshige, T. and C. N. H. Long (1965. 9) Effect of dexamethasone and insulin on gluconeogenesis in the adrenalectomized-diabetic visceral organism. Abstr. Papers XXIII Intern. Congr. Physiol. Tokyo 259
 - 32) Arimura, A. (1965. 9) Role of the neurohypophysis and its hormones in the regulatory mechanisms of thyroid activities. Abstr. Papers XXIII Intern. Congr. Physiol. Tokyo 267
 - 33) Shinji, Itoh (1965. 9) Neurohypophysial participation in the release of corticotrophin. Abstr. Papers XXIII Intern. Congr. Physiol. Tokyo 255
 - 34) Ishida, Y., Kuroshima, A., Bowers, C. Y. and Schally, A. V. (1965. 9) Hypothalamic follicle-stimulating hormone (FSH) releasing factor. Abstr. Papers XXIII Intern. Congr. Physiol. Tokyo 276
 - 35) Itoh, S., T. Hiroshige, T. Koseki and T. Nakatsugawa (1965. 9) The release of thyrotropin in relation to cold exposure. Intern. Symp. Environ. Physiol. Kyoto
 - 36) Ishida, Y., Kuroshima, A., Bowers, C. Y. and Schally, A. V. (1965. 10) In vivo depletion of pituitary growth hormone by hypothalamic extracts. Endocrinol. **77**, 759
 - 37) Schally, A. V., Bowers, C. Y., Kuroshima, A., Ishida, Y., Redding, T. W. and Kastin, A. J. (1965. 10) Hypothalamic factors affecting the release of six anterior pituitary hormones. Excerpta Med. Intern. Congr. Endocrinol. 104
 - 38) 今野則道 (1965. 11) 甲状腺機能に対する食塩摂取の影響 日本生理誌 **27**, 543-549
* 印は前年度脱落分
- 北海道大学医学部第2生理学教室**
- 1) 藤森聞一 (1965) 末梢自律神経系 新生理学(上)問田, 内齒編 医学書院 245~305
 - 2) 藤森聞一 (1965) 錐体路系および錐体外路系の機能と γ 系 新生理学(上)問田, 内齒編, 医学書院 1055-1101
 - 3) 藤森聞一 (1965) 最近の神経生理学からみた固縮と痙縮の発現機序について 臨床神経病学の最近の進歩, 椿, 里吉編, 医歯薬出版 10-36
 - 4) 藤森聞一 (1965) 錐体路系の機能, I, 錐体路系の解剖生理の概要 脳と神経 **17** (11), 19-22
 - 5) 藤森聞一・森 茂美 (1965) 錐体路系の機能. IV. 錐体路線維の脊髓節支配と脊髓傷害にともなう痙縮の発現機序 脳と神経 **17** (11), 35-39
 - 6) 藤森聞一 (1965. 5) 錐体路の脊髓々節支配とその傷害 シンポジウム「錐体路系の機能」日本生理誌 **27**, 64
 - 7) 森 茂美・藤森聞一 (1965. 2) 脊髓半切慢性ネコにおける γ 系の機能について 日本生理誌 **27**, 151
 - 8) 島村宗夫・森 茂美・山内俊雄・藤森聞一 (1965. 2) 脊髓・延髄・脊髓反射と脊髄節反射との相互関係について 日本生理誌 **27**, 82
 - 9) 島村宗夫 (1965. 2) 脳幹網様体を經由する種々なる径路と眼振シンポジウム「眼振」日本生理誌 **27**, 55
 - 10) 森 茂美 (1965. 4) 脊髓半切慢性ネコにおける γ 系の機能 日本生理誌 **27**, 214
 - 11) 島村宗夫・山内俊雄 (1965. 4) 四肢伸筋, 屈筋反射におよぼすSBS反射の影響について 精神々経誌 **67**, 69
 - 12) 藤森聞一・森 茂美・永井千恵 (1965. 9) Studies of the mechanisms of spasticity following spinal cord hemisection in cats. XXVIII International Congress of Physiol. Sciences, 413P
 - 13) 島村宗夫・山内俊雄 (1965. 9) Effect of spino-bulbo-spinal reflex on extensor motoneuron in cats. XXVIII International Congress of Physiol. Sci. 413
 - 14) 山内俊雄・島村宗夫・藤森聞一 (1965. 10) 腱反射の神経機構の分析について 日本筋電図学会抄録集 32
 - 15)* Wilson, V. J., Talbot, W. H., 加藤正道 (1964) Inhibitory convergence upon Renshaw cells. J. Neurophysiol., **27**, 1063-1079
 - 16) Wilson, V. T., 加藤正道, Thomas, R. C. (1965) Excitation of lateral vestibular neurones. Nature, **206** (4999), 96
 - 17) Wilson, V. J., 加藤正道 (1965) Excitation of extensor motoneurons by group II afferent fibers in ipsilateral muscle nerve. J. Neurophysiol., **28**, 545-555
 - 18) Devanandan, M. S., Eccles, R. M., 横田敏勝 (1965) Muscle stretch and presynaptic inhibition of the group Ia pathway to motoneurons. J. Physiol., **179**, 430-441
 - 19) Devanandan, M. S., Eccles, R. M., 横田敏勝 (1965) Depolarization of afferent terminals evoked by muscle stretch. J. Physiol., **179**, 417-429
 - 20) Devanandan, M. S., Holmqvist, B., 横田敏勝 (1965) Presynaptic depolarization of group I muscle afferents by contralateral afferent volleys. Acta Physiol. scand., **63**, 46-54
 - 21) 島村宗夫, K. Akert (1965) Peripheral nervous relations of propriospinal and spino-bulbo-spinal reflex systems. Jap. J. Physiol., **15**, 638-647
 - 22) 藤森聞一・加藤正道・松島少二・森 茂美・島村宗夫 (1965) Studies on the mechanism of spasticity following hemisection in the cat. Nobel Symposium, ed. by R. Granit, 271-282
 - 23) 佐藤昭夫・対馬信子・藤森聞一 (1965) Studies on response patterns of the galvanic skin response

- and photoelectric digital plethysmogram in cats. Jap. J. Physiol., **15**, 413-422
- 24) 佐藤昭夫・対馬信子・藤森聞一 (1965) Reflex potentials of lumbar sympathetic trunk with sciatic nerve stimulation in cats. Jap. J. Physiol., **15**, 532-539
- 25) 佐藤昭夫・藤森聞一 (1965) 腰部交感神経幹における誘発電位の性質について(1) 日本生理誌 **27**, 123
- 26) 佐藤昭夫・対馬信子・小沢達吉 (1965) 腰部交感神経における誘発電位の性質について (2) 日本生理誌 **27**, 214
- 27) 佐藤昭夫 (1965. 9) Studies on reflex potentials of the lumbar sympathetic trunk in cats. XXIII International Congress of Physiol. Sci. 1160
- 28) 藤森聞一・佐藤昭夫・小沢達吉・佐藤典子 (1965) 皮膚血管ならびに汗腺に対する交感神経支配の模様について 第6回日本脈管学会抄録集 48
- 29) 小沢達吉・佐藤典子・藤森聞一 (1965. 10) 脳波の持続電位と速波の相関 第14回日本脳波学会抄録集 144
- * 印は前年度脱落分

北海道大学応用電気研究所生理

- 1) 望月政司 (1965. 5) ガスの運搬 (1) A-aD の解析を中心にして 呼吸と循環 **13**, 351~355
- 2) 望月政司 (1965. 6) ガスの運搬 (2) —O₂ の拡散を中心にして— 呼吸と循環 **13**, 429~433
- 3) Ishitani, K., M. Mochizuki, & K. Sawaguchi (1965. 8) A Catheter-tip Blood Flowmeter with a Semiconductor Strain Gauge. The 6th International Conference on ME and BE **6**, 52
- 4) Kawakami, Y. & Y. Miyamoto (1965. 8) A New Method for Analyzing N₂O and Application to the Cardiac Output Measurement. The 6th International Conference on ME and BE **6**, 66
- 5) Koyama, T., Y., Koyama, & K. Brecht (1965. 9) Effects of Ouabain and Ca⁺⁺ on O₂-consumption and Contractility of Papillary Muscle. The XXIII International Congress of Physiological Science **23**, 272
- 6) Horikawa, I. & M. Mochizuki (1965. 9) Study of Oxygen Velocity of Hb and the Red Cell. The XXIII International Congress of Physiological Science **23**, 408
- 7) Mochizuki, M. (1965. 9) Study of the Effect of Pressure Dependency of Wall Elasticity upon the Arterial Pressure Pattern. The XXIII International Congress of Physiological Science **23**, 303
- 8) Miyamoto, Y. (1965. 9) The Nature of Cardiogenic Oscillations in a Body Plethysmograph. The XXIII International Congress of Physiological Science **23**, 449
- 9) Miyamoto, Y., Y. Kawakami & M. Mochizuki (1965. 10) Pulmonary Capillary Blood Flow in Man Measured by a New N₂O Analyzer. Jap.

J. Physiol. **15**, 505-514

- 10) Mochizuki, M., & Y. Kawakami (1965. 12) A New Detector for a Gas Chromatograph using Electron Current following Glow Discharge. Jap. J. Physiol. **15**, 553-559

北海道大学獣医学部生理学教室

- 1) 本間慶蔵・木村克弥・原田悦守・関根和男 (1965. 2) 皮膚温について 日本生理誌 **27**, 119
- 2) 本間慶蔵・木村克弥・原田悦守・関根和男 (1965. 4) 皮膚温の変動に見られる諸現象 日本生理誌 **27**, 217
- 3) Tokura, H. (1965. 6) The rhythmic swimming activity of carp, *Cyprinus carpio* L. and its "Zeitgeber" I. A design of an apparatus measuring the activity of fish and some data obtained with it. Jap. J. vet. Res. **13**, 64
- 4) Harada, E. (1965. 6) Studies on skin temperature in thermoregulation. Jap. J. vet. Res. **13**, 65
- 5)* 本間慶蔵・木村克弥・原田悦守・関根和男 (1964. 12) 恒室温時に見られる特定部位の皮膚温動揺と体温調節について 日獣医誌 **26**, 413
- 6)* 本間慶蔵・細谷精一・吉成 (1964. 12) 中枢神経系の K, Na について 日獣医誌 **26**, 510
- 7)* 本間慶蔵・木村克弥・原田悦守・関根和男 (1964. 12) ひとつおよび 2, 3 家畜の皮膚温について 日獣医誌 **26**, 511
- * 印は前年度脱落分

北海道大学理学部動物生理学講座

- 1) Tamasige, M. (1965. 9) Neuro-muscular physiology of insect sound production. XXIII Intern. Cong. Physiol. Sci., Tokyo No. 775, 334
- 2) 玉重三男 (1965. 9) 鳴く虫のメカニズム 遺伝 **19**, 13-16
- 3) Hisada, M. and M. Tamasige (1965. 9) Optic nerve responses in the dragonfly flight. Symp. on Comp. Neurophysiol., Tokyo No. 11A-4, 17
- 4) 久田光彦・玉重三男 (1965. 11) トンボ飛翔筋の協調機構 動物誌 **74** No. 11~12 (印刷中)
- 5) Hisada, M., M. Tamasige and N. Suzuki (1965. 12) Control of the flight of the dragonfly, *Sympetrum darwinianum* I. Dorsophotic response. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. VI, Zool. **15** (No. 4), (in press)
- 6) Botelho, S. Y., M. Hisada and N. Fenmayor (1965. 9) Role of sympathetic nerve impulses in activating lacrimal gland. XXIII Intern. Cong. Physiol. Sci., Tokyo No. 1162, 482
- 7) 佐藤俊英・片桐康雄 (1965. 4) 複眼の視覚経路における中枢機構 日本生理誌 **27**, 215
- 8) 青木 清 (1965. 4) ザリガニ歩脚の感覚機構 日本生理誌 **27**, 215-216
- 9) 村本敦子・村山公一 (1965. 7) アメリカザリガニの PD 器官の構造及びその反射機構 動物誌 **74**,

- 216-225
- 10) 菅原 清 (1965. 10) ザリガニ平衡感受器の電氣的反応と神経中枢における伝達 動物誌 **74**, 295-304
 - 11) 村本敦子 (1965. 11) 振動および缺の開閉によるザリガニの PD 器官のもつ反射経路 動物誌 **74**, (No. 11~12) (印刷中)
 - 12) 菅原 清 (1965. 11) ザリガニ平衡感受器の振動刺激により生ずる神経節後反応 動物誌 **74**, (No. 11~12), (印刷中)
 - 13) 佐藤俊英・片桐康雄 (1965. 11) ザリガニ複眼の光刺激に対する脳神経節の反応 動物誌 **74**, (No. 11~12) (印刷中)
 - 14) Sato, T. and T. Yamaguchi (1965. 12) Transmission in the compound eyecentral nervous system of the crayfish, *Procambarus clarkii*. Annot. Zool. Japon. **38**, 155-164
 - 15) Murayama, K. (1965. 12) Proprioceptive reflex responses of the efferent axons to passive and active movements in the cheliped of the crayfish. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. VI, Zool **15**, (No. 4), (in press)
 - 16) Aoki, K. (1965. 12) Responses of sensory hairs of the walking leg of the crayfish, *Procambarus clarkii*. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. VI, Zool. **15** (No. 4), (in press)
 - 17) Muramoto, A. (1965. 12) Proprioceptive reflex of the PD organ of *Procambarus clarkii* by passive movement and vibration stimulus. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. VI, Zool. **15**, (No. 4), (in press)
 - 18) Sato, T. and Y. Katagiri (1965. 12) Response pattern of single fibres in the circum-oesophageal connective to illumination of the compound eye of the crayfish. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. VI, Zool. **15** (No. 4), (in press)
 - 19) Sugawara, K. (1965. 12) Impulse transmission of the statocyst response to vibration through the supra-oesophageal ganglion of the crayfish. J. Fac. Sci. Hokkaido Univ., Ser. VI, Zool. **15** (No. 4), (in press)
- 札幌医科大学生理学第1講座**
- 1)* 谷口元也 (1964. 10-11) 種々なる KCl 濃度下における Glycerol 筋の弛緩 札幌医学誌 **26**, 179-182
 - 2)* 佐々木順一 (1964. 10-11) 骨格筋 Homogenate の各分画における弛緩因子作用 札幌医学誌 **26**, 183-185
 - 3) Takauji, M., I. Nakano, M. Taniguchi & J. Sasaki (1965. 2) Effect of ryanodine on the relaxing factor system of skeletal muscle. Jap. J. Physiol. **15**, 42-52
 - 4) Takauji, M., T. Nakahara and H. Abe (1965. 4) The slowly hydrolysing ATP's and the action of relaxing factor system. Jap. J. Physiol. **15**, 180-182
 - 5) Takauji, M., and M. Taniguchi (1965. 4) Relaxing activity of relaxing factors in various KCl concentrations. Jap. J. Physiol. **15**, 183-187
 - 6) Takauji, M., I. Nakano and M. Taniguchi (1965. 4) Calcium uptake by skeletal muscle microsomes in various conditions. Jap. J. Physiol. **15**, 188-197
 - 7) 山口俊夫 (1965. 4) 骨格筋単一筋線維におけるカフェイン拘縮 動物誌 **74**, 198-204
 - 8) Nagai, T., H. Takahashi and M. Takauji (1965. 7) On the accumulation of divalent cations by skeletal muscle microsomes. Molecular Biology of Muscular Contraction. Igaku Shoin 169-176
 - 9) Fujino, M., S. Fujino, T. Yamaguchi and M. Ono (1965. 9) "Staircase" and the inhibitory effect of hyperosmotic solutions on the contractibility in frog skeletal muscle. Abstracts of Papers Presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences. Tokyo, Japan. 1-9
 - 10) Takauji, M., I. Nakano and T. Nagai (1965. 9) On the relaxing factor system in uterine smooth muscle. Abstracts of Papers Presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences. Tokyo, Japan. 1-9
- * 印は前年度脱落分
- 札幌医科大学生理学教室第2講座**
- 1) 戸塚守夫 (1965. 6) 小腸平滑筋細胞内顆粒系における比較生理学的研究 (その1. ATP-ase 活性について) 札幌医誌 **27**, 268
 - 2) 富田 浩 (1965. 6) グリセロール処理腸管平滑筋の諸性質について (その1. ATP 短縮性) 札幌医誌 **27**, 275
 - 3) 藤本 寛 (1965. 8) 嫌気的条件下における大脳皮質切片の代謝と微細構造の変化 精神神経学誌 **67**, 759
 - 4) 砂野 哲・宮村厚夫・戸塚守夫・富田 浩・藪英世 (1965. 4) 摘出腸管の Caffeine 痙縮 日本生理誌 **27**, 218
 - 5) 宮崎英策・砂野 哲・藪 英世 (1965. 2) 腸平滑筋の Caffeine 痙縮 日本生理誌 **27**, 134
 - 6) 藪 英世・砂野 哲・高橋正樹 (1965. 8) 腸平滑筋の Caffeine 痙縮 日本平滑筋誌 **1**, 120
- 弘前大学医学部第1生理学教室**
- 1)* Ozaki, T., K. Fuziwara and M. Yamamoto (1964. 9) Effect of Acetylcholine and Atropine on Minor Tremor. The proc XIII th Ann. Meet. Japan EEG Soc., 1964 70-73
 - 2) Ozaki, T., M. Yamamoto and K. Fuziwara (1965. 3) On the Relationships between Minor Tremor and Ballistocardiogram in Man. Acta Medica Nagasakiensis Vol. 9 120-134
 - 3) 尾崎俊行・藤原克三 (1965. 2) 緩やかな電位変動 (Slow potential change) に関する 2, 3 の知見について

て日本生理誌 27, 84

- 4) 西館昭典(1965.2)組織抽出液による動脈血圧下降の機転について 日本生理誌 27, 113
 - 5) 尾崎俊行・藤原克三(1965.8)大脳の緩電位変動測定に関する2, 3の知見について 日本生理誌 27, 416-417
 - 6) Ozaki, T. and K. Fuzikawara (1965.9) Cerebral slow potential changes during sensory stimulation. XXIII International cong. physiol. Sciences 444
- * 印は前年度脱落分

弘前大学医学部第2生理学教室

- 1) 高橋政嗣・中村 勉(1965.2)鬚口蓋線毛上皮の活動電位(第2報)日本生理誌 27, 100
- 2) 清水信一郎(1965.2)チスイビル縦走平滑筋の静止及び活動電位 日本生理誌 27, 131

岩手医科大学医学部生理学第1講座

- 1)* 高橋文郎(1962.12)動脈血酸素分圧の変動がERGにおよぼす影響 日眼会誌 66(12), 1437-1443
- 2)* 遠山 昂(1962.12)網膜色素変性の網膜静止電流について 日眼会誌 66(12), 1517-1531
- 3)* 亀井正明(1963.9)網膜色素変性に得られた ERG 日眼会誌 67(9), 1123-1136
- 4)* 鈴木 隆・木川田典爾・三田俊定(1964.2)外側膝状体活動電流の諸性質 日本生理誌 26(2), 84
- 5)* 猪股孝四郎(1964.6)酸素不足が網膜静止電位並びに活動電位に及ぼす影響 岩手医誌 16(2), 96~103
- 6)* 浜津恒男(1964.10)グルタミン酸ソーダおよびヨード酸ソーダ投与家兎における ERG 並に網膜組織像 日眼会誌 68(11), 1621-1636
- 7)* 猪股孝四郎・田沢 豊・小島一夫・持木 太(1964.12)酸素不足が網膜の静止電位並びに活動電位におよぼす影響の研究補遺 岩手医誌 16(5), 323-329
- 8)* 三田俊定・二唐東朔・島崎吉夫(1964.12)各種脊椎動物眼球電位の明暗による変動(回転眼振による新測定法) 岩手医誌 16(5), 338-343
- 9) 三田俊定・二唐東朔・島崎吉夫・猪股孝四郎(1965.2)眼球常存電位の明暗順応による変動 日本生理誌 27(2), 141-142
- 10) 猪股孝四郎・田沢 豊(1965.8)種々の薬物が網膜の活動電位ならびに常存電位におよぼす影響 岩手医誌 17(3), 238-244
- 11) 吉田玄雄(1965.9)ヨード酸ソーダ投与家兎眼における EOG 日眼会誌 69(9), 1249-1262
- 12) 三田俊定・二唐東朔・島崎吉夫(1965.10)視性眼振により測定される各種脊椎動物の眼球常存電位 岩手医誌 17, 297-302
- 13) 三田俊定(1965.10)フリッカーに関する de Lange の理論 岩手医誌 17, 265-270
- 14) 猪股孝四郎・田沢 豊・熊谷茂樹・山田莞爾(1965.12)ネブタール麻酔の網膜酸素分圧 ERG 並びに網膜常存電位におよぼす影響 岩手医誌 17

* 印は前年度脱落分

岩手医科大学医学部第2生理学教室

- 1) 八木舎四・他4名(1965.3)酸素電極法でみた脳組織酸素分圧と脳脊髄圧および脳波の関係 脳と神経 17(3号), 201
- 2) 八木舎四・他3名(1965.2)酸素電極法でみた脳の Oxygenavailability と脳波 日本生理誌 27(2号), 86
- 3) 八木舎四(1965.8)酸素の使い方による機能および形態の分化 生物物理夏の学校予稿集 合-22
- 4) Yagi, S., K. Kojima and F. Mochiki. (1965.9) Behaviors of Colanary Blood Flow Observed by Means of the Polarographic Oxygen Electrode. Abstracts of Papers, XXIII I. C. P. S., p. 149
- 5) 持木 太(1965.10)拍動中のイヌ心臓組織における酸素電極の挙動について 岩手医学誌 17(4号), 302
- 6) 山口光也(1965.10)病的関節液の粘度と比重について 岩手医学誌 17(4号), 313

東北大学医学部第1生理学教室

- 1) 林 曠・青木 健(1965.2)羊の有毛皮膚汗腺の機能 日本生理誌 27(2), 118-119
- 2) 関根 毅(1965.2)胃塩酸分泌細胞の興奮性に対する幽門洞切除並びに迷走神経切断の影響 日本生理誌 27(2), 120-121
- 3) Wada, M. (1965.9) Comparative physiology of axon reflex sweating. XXIII Internat. Congress of Physiol. Sci. Abstract No. 698
- 4) Aoki, T. (1965.9) Cholinesterase in canine eccrine sweat. XXIII Internat. Congress of Physiol. Sci. Abstract No. 700
- 5) 土原晴嗣・青木 健(1965.10)ラット味蕾附近の Cholinesterase に対する苦味, 甘味物質の影響 第5回日本薬学会東北支部総会抄録集 p1

東北大学医学部生理学第2教室

- 1)* 本川弘一(1964.1)大脳生理学 中山書店
- 2)* 本川弘一・和田正男 共編(1964.1)藤田・佐武生理学講義改訂版上・下 南山堂
- 3)* 本川弘一(1964.10)最新生理学 南山堂
- 4)* Edwards, C., Chichibu, S. & Hagiwara, S. (1964.11) Relation between membrane potential changes and tension in barnacle muscle fibers. J. gen. Physiol. 48, 225-234
- 5) Taira, N., Imazawa, Y. & Motokawa, K. (1965.2) Electrical stimulation of on and off units in cat's retina. Tohoku J. exp. Med. 85, 89-104
- 6) Bullock, T. H. & Chichibu, S. (1965.4) Further analysis of sensory coding in electroreceptors of electric fish. Science 148, 664-665
- 7) 本川弘一(1965.4)人間工学について 工業技術 4月号
- 8) 本川弘一・伊藤正男(1965.5)日本の生理学のあゆみ(対談)科学 35, 246

- 9) 本川弘一 (1965. 7) 実験と学説 ——色の問題を中心として 科学と技術の広場 **7**, 1
- 10) Yamamoto, T, Tasaki, K, Sugawara, Y. & Tonosaki, A. (1965) Fine structure of the octopus retina. *J. Cell Biol.* **25**, 345-359
- 11) Norton, A. C., Fukada, Y., Motokawa, K. & Tasaki, K. (1965) An investigation of the lateral spread of potentials in the octopus retina. *Vision Res.* **5**, 253-267
- 12) Ochs, S. & Suzuki, H. (1965) Transmission of direct cortical responses. *EEG clin. Neurophysiol.* **19**, 230-236
- 13) Suzuki, H. & Kato, E. (1965. 8) Cortically induced presynaptic inhibition in cat's lateral geniculate body. *Tohoku J. exp. Med.* **86**, 277-289
- 14) Fukada, Y., Tasaki, K., Norton, A. C. & Motokawa, K. (1965. 9) Functional significance of conduction velocity in the transfer of flicker information in the cat optic nerve. XXIII ICPS Abstract
- 15) Motokawa, K. (1965) Retinal traces and visual perception of movement. in "Readings in the study of Visually perceived movement" ed. by Spigel, I. M. Harper & Row, Ltd. N. Y.
- 16) Motokawa, K. & Suzuki, H. (1965) Central mechanism of vision. in "Progress in Brain Research" ed. by Schade, J. P. Elsevier Publ. Co. Amsterdam
- * 印は前年度脱落分
- 東北大学医学部応用生理学教室**
- 1) Suzuki, T., Nishiyama, A. & Inomata, H. (1965.9) The Inhibitory Potential in Intestinal Smooth Muscle. 23rd International Congress of Physiological Sciences, Abstracts, #818, p. 351
- 2) 鈴木泰三 (1965. 8) 平滑筋における神経筋伝達 医学のあゆみ **54** (9号), 556-560
- 3) 鈴木泰三・長沢純一郎 (1965. 8) 平滑筋の電気生理学的特性 医学のあゆみ **54** (7号), 448-453 および **54** (8号), 498-501
- 4) Kao, C. Y. & Nishiyama, A. (1965. 9) Actions of Saxitoxin on Peripheral Neuromuscular Systems. *J. Physiol.*, **180**, 50-66
- 5) Kao, C. Y. & Nishiyama, A. (1965. 2) Similarity of the Actions of Tetrodotoxin and Saxitoxin on the Excitable Membrane. *Fed. Proc.*, **24** (2), 649
- 6) 西山明德・猪又八郎 (1965. 2) 腸管平滑筋細胞興奮性の電気刺激に対する反応性について 日本生理誌 **27** (2号), 134-135
- 7) 鈴木泰三 (1965. 2) 平滑筋のシナプス 日本生理誌 **27** (2号), 72
- 8) Nagasawa, J. (1965. 2) Calcium Movement in the Smooth Muscle of Guinea Pig Taenia Coli. *Tohoku J. Exp. Med.*, **85**, 72-82
- 9) 水戸士郎・長沢純一郎 (1965. 12) 猫の瞬膜平滑筋の電顕所見 日平滑筋誌 **1** (2号), 229
- 10) 猪又八郎 (1965. 12) 細胞内および細胞外通電による腸管平滑筋細胞の興奮性変化の比較 日平滑筋誌 **1** (2号), 242
- 11) 佐々木陽平 (1965. 12) 血管平滑筋の収縮に対するイオンの影響 日平滑筋誌 **1** (2号), 249
- 12) 水戸士郎 (1965. 12) 猫の瞬膜平滑筋の超微細構造について 日平滑筋誌 **1** (2号), 189-198
- 13)* Nelson, Warren O., Davidson, Oscar W. & Wada, Kenro (1963) Studies on Interference with Zygote Development and Implantation. Allen C. Enders 編集 "Delayed Implantation," pp. 183-192, Univ. of Chicago Press
- 14)* Davidson, Oscar W., Schuchner, Elsa & Wada, Kenro (1964. 2) Effect of Chlomaphene on Rat Zygotes. *Anat. Rec.*, **149**, 274
- 15)* Segal, Sheldon J., Davidson, Oscar W. & Wada, Kenro (1964. 7) The Uterotropic Action of RNA Extracts from Estrogen-Stimulated Rat Uteri. 6th International Congress of Biochemistry, Abstracts IX (Metabolism and its Control)-83, p. 733
- 16)* Davidson, Oscar W., Schuchner, Elsa & Wada, Kenro (1964. 9) Effect of Chlomaphene on Fertilized Rat Zygotes. Abstracts of Official Lectures for 4th World Congress of Gynecology and Obstetrics, p. 256
- 17) Davidson, Oscar W., Wada, Kenro & Segal, Sheldon, J. (1965. 3) Effects of Clomiphene at Different Stages of Pregnancy in the Rat: Implications regarding Possible Action Mechanisms. *Fertil. & Steril.*, **16**, 195-201
- 18) Davidson, Oscar W., Schuchner, Elsa & Wada, Kenro (1965. 7) Effect of Clomiphene on Rat Zygotes. *Fertil. & Steril.*, **16**, 495-501
- 19) Segal, Shedon J., Davidson, Oscar W. & Wada, Kenro (1965. 9) Role of RNA in the Regulatory Action of Estrogen. *Proc. Nat. Acad. Sci.*, **54**, 782-787
- 20) Wada, Kenro, Segal, Sheldon J., & Schuchner, Elsa (1965. 9) Role of RNA in Initiation of Nidation of Blastocysts. 23rd International Congress of Physiological Sciences, Abstracts, #640, p. 278
- * 印は前年度脱落分
- 福島県立医科大学第1生理学教室**
- 1) 横山正松 (1965. 2) 小腸縦走筋層の興奮性 日本生理誌 **27**, 134
- 2) 石井公正・石井和子・本田和正 (1965. 2) Chemoreceptor と shivering 日本生理誌 **27**, 145
- 3) Kazuko Ishii, Kosei Ishii and Kazumasa Honda (1965) The effects of electrical stimulation of the carotid sinus nerve on shivering, blood pressure and respiration in rabbits. *Tohoku J. exp. Med.* **86**, 191-200

福島県立医科大学第2生理学教室

- 1) 塚原 進 (1965) 電気化学的な受容体模型 日本生理誌 **27** (2号), 146
- 2) 山下栄三 (1965) どじょうのひげの触覚 日本生理誌 **27** (2号), 144
- 3)* Forbes, A. E. Yamashita, N. Hayes, S. E. Fox & C. Mahan (1962) Electroretinogram of freshwater turtles: recovery rates from red and orange light adaptation. *J. Neurophysiol.* **25**, 600
- 4)* Forbes, A., S. E. Fox, Mc. Carthy & E. Yamashita (1964) Quantitative response to color shift in diurnal lizards. *Proc. Nat. Acad. Sci.* **52**, 667

* 印は前年度脱落分

群馬大学医学部第1生理学教室

- 1) 松本政雄・渡辺禎二・浅川守胤・伴 真也 (1965. 2) 筋線維の脱分極及び過分極状態に於ける電気的常数について 日本生理誌 **27** (2), 126-127
- 2) 後藤鹿島・反町 貢 (1965. 2) 猫のパチニー氏小体の二重神経支配 日本生理誌 **27** (2), 96
- 3) 松本政雄・渡辺禎二・浅川守胤 (1965. 4) 電位振動を発現する一つの電気化学系 日本生理誌 **27** (4), 197-203
- 4) Masao Matumoto, Teiji Watanabe and Moritane Asakawa (1965. 3) Change in capacity of the electrochemical model of excitation by application of current and in excitation. *Gunma J. Med. Sci.* **14** (1), 23-32
- 5) Masao Matumoto, Shinya Ban and Kunio Nakazato (1965. 3) On the equivalent circuit of the excitable membrane of a single muscle fiber. *Gunma J. Med. Sci.* **14** (1), 33-42
- 6) Kashima Goto, R. K. S. Linn, et al. (1965. 9) Mechanism of analgesia and pain (Film). *International Congress of Physiological Sciences XXIII*

群馬大学医学部第2生理学教室

- 1) Takagi, S. F. and T. Yajima (1965. 3) Electrical activity and histological change in the degenerating olfactory epithelium. *J. gen. Physiol.* **48** 559-569
- 2) Higashino, S., W. R. Loewenstein, S. J. Socolar, Kanno, Y. and N. Davidson (1965. 7) Intercellular Communication: Renal, Urinary Bladder, Sensory and Salivary Gland Cells. *Science* **149**, 295-298
- 3) Takagi, F. S. and G. A. Wyse (1965. 9) The ionic mechanism of the olfactory receptor potentials. *Abstracts of papers, XXIII Internat. Congress of Physiol. Sciences Tokyo, Japan*
- 4) Tucker, D. and T. Shibuya (1965) A physiologic and pharmacologic study of olfactory receptors. *Cold Spring Harbor Symposium XXX Sensory Receptors*
- 5)* 渋谷達明 (1964. 12) カメの嗅粘膜と嗅神経の res-

ponse 動物誌 **73**, 362

* 印は前年度脱落分

群馬大学医学部生化学教室

- 1) 斎藤和子・山添三郎 (1965. 4) β -グルクロニダーゼ作用によるグリチルリチンからのグルクロノイト形成 医学と生物学 **70**, 236
- 2) 上杉四郎・山添三郎 (1965. 5) ブタ副睾丸精子より得た Na-K 促進性 ATPase 活性におよぼす 2, 3 の因子について 第17回酵素化学シンポジウム予講集
- 3) 清水正二郎・堀川謹三・山添三郎 (1965. 5) Na⁺, K⁺ 促進性 ATPase 第3報 Kielly-Meyerhof ATPase 医学と生物学 **70**, 332
- 4) 狩野忠雄・林 浩平・山添三郎 (1965. 5) 脳のフォスファチジン酸 ——代謝中間体として以外の役割を考える —— 化学と生物 **3**, 239
- 5) 清水正二郎・堀川謹三・山添三郎 (1965. 6) Na⁺, K⁺ 促進性 ATPase 第4報 Deoxycholate の作用 医学と生物学 **70**, 332
- 6) 斎藤和子・山添三郎 (1965. 7) アミノピリン中毒に対するグリチルリチンおよびタウリンの効果 医学と生物学 **71**, 55
- 7) 林 浩平・八木原嘉幸・中村 勇・山添三郎 (1965. 9) 脳のイノシタイドとそれへの ³²P 組入れについて 神経研究の進歩 **9**, 534
- 8) 山添三郎・清水正二郎・浅見 裕 (1965. 9) 骨格筋ミクロゾームの諸種 ATPase 生化学 **37**, 489
- 9) 上杉四郎・山添三郎 (1965. 9) ブタ副睾丸精子の Na-K 促進性 ATPase に対する Ca⁺⁺ の影響 生化学 **37**, 517
- 10) 林 浩平・八木原嘉幸・中村 勇・山添三郎 (1965. 9) 脳のポリフォスフォイノシタイドについて 生化学 **37**, 554
- 11) 青柳喜典・真木義次・山添三郎 (1965. 12) Securinine および Galanthamine のコリンエステラーゼ活性におよぼす影響 医学と生物学 **71**, 350

群馬大学附置内分泌研究所第2部門
(生理学)

- 1) 鈴木光雄・渡植貞一郎・湯浅 茂・石川一郎・山本 清・亀井照子 (1965. 1) 急性寒冷曝露時におけるヒトの内分泌機能の変化について ——特に甲状腺機能を中心として 北関東医学 **15**, 110
- 2) 亀井照子・秋草美俊・鈴木光雄・山本 清・渡植貞一郎 (1965. 2) I¹³¹-サイロキソンの腎分布における性差 日本生理誌 **27**, 135
- 3) 鈴木光雄 (1965. 2) 甲状腺ミクロゾームの可溶性酵素によるヨードチロシン生成反応の再編成について 日本生理誌 **27**, 125
- 4) 鈴木光雄 (1965. 2) 3成分系の吸収曲線からそれぞれの濃度を求める方法 化学の領域 増刊67号 225
- 5) 鈴木光雄 (1965. 2) 濁った資料から近似的な濃度を求める方法 化学の領域 増刊67号 216
- 6) 鈴木光雄 (1965. 3) 甲状腺ミクロゾームの性質と機

- 能蛋白質, 核酸, 酵素 **10**, 396
- 7) 鈴木光雄 (1965. 3) 甲状腺ヨウ素代謝と酵素 日本臨床 **23**, 665
 - 8) Kiyoshi Yamamoto and Teiichiro Tonoue (1965. 9) Some aspects of physiological regulation of thyroid hormone metabolism. Abstracts of XXIII. International Congress of Physiological Sciences. p 271
 - 9) Mitsuo Suzuki (1965. 9) Reconstruction of iodination system by solubilized enzymes from thyroid microsome. Abstracts of XXIII. International Congress of Physiological Sciences p 272
 - 10) Mitsuo Suzuki (1965. 9) Pyridine nucleotide metabolism and iodination reaction in the thyroid gland. Abstracts of III. Gunma Symposia on Endocrinology p 28
 - 11) Teiichiro Tonoue and Yoshitoshi Akikusa (1965. 9) The effect of androgen on the renal retention of thyroxine. Abstracts of III. Gunma Symposia on Endocrinology p 51
 - 12) Kiyoshi Yamamoto, David Kanski, Francis E. Cole, and Earl Frieden (1965. 9) Uptake, distribution and excretion of thyroid hormone in *Rana grylio* Tadpoles. Abstracts of III. Gunma Symposia on Endocrinology p 63
 - 13) 秋草美俊・渡植貞一郎 (1965. 9) マウス腎臓の T_4 -Retention の性差 日本内分泌誌 **41**, 793
 - 14) 鈴木光雄・山本 清 (1965. 9) 甲状腺内ヨウ素化反応におけるビリジンヌクレオチドの関与について 生化学 **37**, 618
 - 15) 湯浅 茂・高木 勲・林 久博・鈴木光雄 (1965. 9) 甲状腺内ヨウ素代謝に関与する諸酵素の細胞内分布について 生化学 **37**, 610
 - 16) Teruko Kamei, Teiichiro Tonoue, Mitsuo Suzuki and Kiyoshi Yamamoto (1965. 12) Sex difference in the renal retention of thyroxine in mice. Endocrinology **77**, 879

新潟大学医学部生理学第1教室

- 1) 新島 旭 (1965. 2) 家兎腎臓からの求心性インパルス 日本生理誌 **27**, 72
- 2) 新島 旭 (1965. 10) 内臓の求心性神経支配 —— 家兎腎臓からの求心性インパルスについて —— 新潟医学会誌 **97**, 555
- 3) Nijima, Akira (1965. 9) The baroreceptor in the kidney of the rabbit. Abstracts of paper presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences. No. 895
- 4) Eyzaguirre, C. & Koyano, H. (1965. 6) Effects of hypoxia, hypercapnia, and pH on the chemoreceptor activity of the carotid body. J. Physiol. **178**, 385
- 5) Eyzaguirre, C. & Koyano, H. (1965. 6) Effects of some pharmacological agents on chemoreceptors discharges. J. Physiol. **178**, 410

- 6) Eyzaguirre, C. & Koyano, H. (1965. 6) Effects of electrical stimulation on the frequency of chemoreceptor discharges. J. Physiol. **178**, 438
- 7) Eyzaguirre, C., Koyano, H. & Taylor, J. R. (1965. 6) Presence of acetylcholine and transmitter release from carotid body chemoreceptors. J. Physiol. **178**, 463

新潟大学医学部生理学第2教室

- 1) 島田久八郎 (1965. 2) 迷走神経刺激による延髄呼吸性ニューロンの応答について 日本生理誌 **27** (2号),
- 2) Takagi, K. & S. Kobayasi (1965) Alveolar Gas Exchange During Breath Holding and Consideration on the Breaking Point. Physiology of Breath-Hold Diving and the Ama of Japan pp. 149
- 3) Shimada, K. & S. Kobayasi (1965) Vagal Control of Respiration and Activity of Medullary Respiratory Neurons. Abstract of Papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences pp. 429
- 4) 川崎了二 (1965) フツウミズ搏動性血管におよぼすアセチルコリンの作用 日本動物誌 **74** (11. 12号)

新潟大学医学部附属脳外科研究施設生理部門

- 1) 樋口 卓 (1965. 1) 猫の小脳ニューロンの音刺激による抑制について 日耳鼻会報 **68**, 10-17
- 2) 沢 政一・中村久吾・薄木幹司・内藤明彦・和泉貞次 (1965. 2) てんかん発作時の中脳網様体ニューロンの電気活動 新潟医学会誌 **79**, 38-47
- 3) 丸山直滋・川崎 匡・阿部讓二・加藤 功・山崎久生 (1965. 2) 猫の小脳ニューロンの音刺激に対する反応について 日本生理誌 **27**, 77
- 4) 沢 政一・梶 鎮夫・内藤明彦・和泉貞次 (1965. 2) ストリキニン大脳皮質局所適用時における皮質ニューロン活動について 日本生理誌 **27**, 77
- 5) Sawa, M., Kaji, S., and Usuki, K. (1965) Intracellular phenomena in electrically induced seizures. Electroenceph. clin. Neurophysiol., **19**, 248-255
- 6) Greenwood, D. D. and Maruyama, N. (1965) Excitatory and inhibitory response areas of auditory neurons in the cochlear nucleus. J. Neurophysiol. **28**, 863-892

千葉大学医学部第1生理学教室

- 1)* 本間三郎 (1963. 12) 生体感覚情報とその反射, 特に機械的刺激の受容について 日本生理誌 **26**, 524
- 2)* 本間三郎・小林龍男 (1964. 4) 無線式誘発筋電図の実験供覧 日本生理誌 **26**, 116
- 3)* 本間三郎・三浦光彦・道場信孝・村松 準 (1964. 6) 頸動脈洞壁神経発射のパターンにかんする観察 第15回国際自律神経研究会日本支部会 Vol. 1 (No. 1), 13-14
- 4)* 本間三郎・三浦光彦 (1964. 7) 頸動脈洞神経発射の研究 第6回小児自律神経研究会

- 5)* Takano, K. and Henatsch, H. D. (1964. 9) Direkte Aufnahme von Längen-Reflexspannungs-Diagrammen einzelner Muskeln in situ. Pflügers Arch. **281**, 104
- 6) 本間三郎・小林龍男 (1965) Radio Stimulators for Biological Use. Japan Electronic Engineering. **2**, 36-37
- 7) Takano, K. (1965. 4) Komponenten der Reflexspannung bei verschiedener Dehnungsgeschwindigkeit. Pflügers Arch. **283**, R 40
- 8) 渡部土郎 (1965. 2) 体部位投射からみた視床核興奮回復過程 日本生理誌 **27**, 76
- 9) 鈴木英弘 (1965. 2) 高頻度刺激からみたザリガニ神経膜興奮について 日本生理誌 **27**, 132-133
- 10) 鈴木英弘 (1965) ザリガニ神経線維と巨大線維の持続発射について 千葉医会誌 **41**, 319-332
- 11) Miura, M. and Saitoh, S. (1965) The relationship between pressure gradient and interval constant of baroreceptor in the carotid sinus. 千葉医会誌 **41**, 333-341
- 12) Saitoh, S. Miura, M. and Doba, N. (1965. 9) Influences of carotid sinus wall tonus on carotid baroreceptor discharge. Proc. 23 rd Inter. Cong. Physiol. Sci. 127
- 13) Homma, S. (1965. 9) Accommodation of the cat motoneurone to the excitatory postsynaptic potential. Excerpta Medica International Congress Series. No. 87, 105-109
- 14) Takano, K. and Henatsch, H. D. (1965. 9) Supraspinal influences upon phasic, tonic and static components of stretch reflex tension. Proc. 23 rd Inter. Cong. Physiol. Sci. 441
- 15) Watanabe, S. (1965. 9) Recovery of the thalamic discharges in relation to somatic projection. Proc. 23 rd Inter. Cong. Physiol. Sci. 392
- 16) 本間三郎・高野光司 (1965. 10) 運動効果に対する筋の高頻度振動刺激 第9回日本低周波医学会総会 6
- 17) 渡部土郎 (1965. 10) 視床中継核における高頻度発射 第14回日本脳波学会総会 146
- 18) 本間三郎 (1965. 10) 単シナプス反射伝達の適応について 第18回日本筋電図学会総会抄録 39
- 19) Suzuki, M. (1965. 11) Elektreco kaj vivaĵoj. Med. Internacia Rev. **1**, 74-82
- * 印は前年度脱落分

千葉大学医学部第2生理学教室

- 1) Tokuro Fukuda (1965. 1) Endogenous Shock-inducing Factor in Canine Haemorrhagic Shock. Nature **205**, 392-393
- 2) Masami Iriki. (1965. 3) Der Einfluss der Vagus-ausschaltung auf die Temperaturregulation bei innerer Kühlung. Pflügers Archiv **283**, 203-212
- 3) Tokuro, Fukuda and Kazuo Murata (1965. 4) Species Difference in The Febrile And The

Leukocytic Response to Endotoxin: Endogenous Hepatic Pyrogen in Dogs. Jap. J. Physiol. **15**, 169-179

- 4) 村田和夫 (1965. 4) 副腎皮質ホルモンによる下熱機構 千葉医会誌 **41**, 32-40
- 5) 岡田光生 (1965. 4) 感染症 shock に対する副腎皮質ホルモン奏効機序 千葉医会誌 **41**, 91
- 6) Masami Iriki. (1965. 7) Kältezittern bei zentraler und peripherer Kühlung. Pflügers Archiv **285**, 63-72

横浜市立大学医学部第1生理学教室

- 1) 畠山一平 (1965. 1) 循環と呼吸における feedback の理論と応用 代謝 **2**, 7-15
- 2) 畠山一平・山本 弘・川辺邦彦・安藤陽子 (1965. 2) 生体における加算原理について ——特に循環および呼吸反射を例として 日本生理誌 **27**, 107
- 3) 八木欽治・H. A. Bern (1965. 2) 魚類尾部神経分泌細胞におけるインパルス伝達の意義について 日本生理誌 **27**, 124
- 4) 畠山一平 (1965. 7) 循環力学とアナログ計算機 医用電子装置研究会資料
- 5) Hatakeyama, I. (1965. 8) Artificial modification of biological regulatory system. Digest of the 6th ICME & BE p. 103
- 6) Hatakeyama, I. (1965. 9) The generation mechanism of the rhythmicity of respiratory centre. Abstracts XXIII Int. Cong. Physiol. Sci., p. 431
- 7) Yagi, K. & H. A. Bern (1965. 9) Electrical activity of caudal neurosecretory units in the teleost fish, *Tilapia mossambica*, in response to ionic alterations. Abstracts XXIII Int. Cong. Physiol. Sci., p. 549
- 8) Yagi, K. & H. A. Bern (1965. 10) Electrophysiologic analysis of the response of the caudal neurosecretory system of *Tilapia mossambica* to osmotic manipulations. Gen. Comp. Endocrinol., **5**, 509-526
- 9) 畠山一平 (1965) 血管流床の等価模型における管径, 等長, 本数および短絡の概念について 脈管学 **5**, 31-36
- 10) Bern, H. A. & K. Yagi (1965) Electrophysiology of neurosecretory systems. Excerpta Medica Int. Cong. Ser. no. 83, 577-583
- 11) Bern, H. A., K. Yagi & R. S. Nishioka (1965) Structure and function of the caudal neurosecretory system of fishes. Arch. Anat. Microscop. Morph. Exp., **54**, 217-237

横浜市立大学医学部第2生理学教室

- 1) Kawakami, M., Negoro, H. and Terasawa, E. (1965. 1) Influence of Immobilization Stress upon the Paradoxical Sleep (EEG Afterreaction) in the Rabbit. Jap. J. Physiol. **15**, 1-16
- 2) 川上正澄・寺沢 瑩・石田孜郎・土橋招一 (1965. 2)

- Paradoxical sleep 発現におよぼす視床下部下垂体の影響 日本生理誌 **27**, 86-87
- 3) 川上正澄・根来英雄・柳瀬昌弘・井深謙次郎 (1965.2) 寒冷曝露時における脳活動 日本生理誌 **27**, 119
- 4) 川上正澄・寺沢 瑩 (1965.2) 猫, ウサギにおける性ホルモンの脳局所興奮性並びに Synapse 伝達に及ぼす影響について 日本生理誌 **27**, 124
- 5) Kawakami, M., Terasawa, E., Tsuchihashi, S. and Uemura, T. (1965.5) Sex Hormone Sensitive Components in Advanced the Rabbit Brain and Their Physiological Significance. Abstracts of U. S.-Japan Joint Conference for "Dynamics of Steroid Hormones" p. 1-4
- 6) Kawakami, M., and Yoshida, K. (1965.6) Influences of Related Substances of Tricarboxylic Acid Cycle upon Paradoxical Sleep. *Jap. J. Physiol.* **15**, 140-154
- 7) 川上正澄・寺沢 瑩・高橋俊安・土橋招一・植村次雄 (1965.6) 脳波からみた発情, 排卵妊娠時における脳活動の変化について 臨床脳波 **6**, 181-198
- 8) 川上正澄・腰野富久 (1965.6) Su-4885の視床下部におよぼす影響 日本内分泌誌 **41**, 354-355
- 9) 川上正澄・瀬戸勝男・吉田三知 (1965.6) ウサギの海馬電気刺激による排卵の誘発について 日本内分泌誌 **41**, 355-356
- 10) Seto, K. and Kawakami, M. (1965.9) Ovulation Induced by Electrical Stimulation upon Hippocampus in Rabbits. Abstracts of Papers Presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences **23**, 1004
- 11) Terasawa, E. and Kawakami, M. (1965.9) Differential Control of Oxytocin upon the Evoked Potential in the Hypothalamus. Abstracts of Papers Presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences **23**, 1021
- 12) Negoro, H. and Kawakami, M. (1965.9) Influence of Cold Exposure upon Brain Activity in the Rabbit. Abstracts of Papers Presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences **23**, 1058
- 13) Kawakami, M. (1965.9) Influence of Precursors, Members and Inhibitors of the TCA cycle, or DPNH, DPN, TPNH and 2, 4-Dinitrophenol on the Paradoxical Sleep (EEG Afterreaction) in the Rabbit. Abstracts of Papers Presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences **23**, 1087
- 14) Kawakami, M. (1965.9) Limbic System and Gonadotrophin Release. Program of the Symposium on Structure and Function of the Limbic System. p. 28-29
- 15) 川上正澄・瀬戸勝男・吉田三知 (1965.10) Paradoxical Sleep 発現と血中代謝産物の変動 第14回日本脳波学会総合講演抄録集 p. 65
- 16) 川上正澄・寺沢 瑩・斎藤英郎 (1965.10) 性周期に伴なう末梢刺激の脳活動におよぼす影響 第14回日本脳波学会総合講演抄録集 p. 100
- 17)* Kawakami, M., Sawyer, C. H. and Kanematsu, S. (1964) Neuroendocrine Aspects of Reproduction: In *Endocrines and Central Nervous System. Ass. Res. Nerv. Dis. Proc.*
- 18)* Kawakami, M., Terasawa, T., Tsuchihashi, S. and Uemura, T. (1964.10) EEG Changes in the Rabbit During Estrus, Ovulation and Pregnancy. The XIIIth Annual Meeting of the Japan EEG Society p. 25-30
- 19)* Kawakami, M., Negoro, H. and Yanase, M. (1964.10) Influence of Immobilization Stress upon the Paradoxical Sleep (EEG afterreaction) in the Rabbit. The XIIIth Annual Meeting of the Japan EEG Society p. 174-177
- 20)* Kawakami, M. and Yoshida, K. (1964.10) Influence of Related Substances of Tricarboxylic Acid Cycle upon Paradoxical Sleep. The XIIIth Annual Meeting of the Japan EEG Society p. 178-180
- * 印は前年度脱落分

横浜市立大学体育医学教室

- 1) Ogawa, Y., S. Yusa, F. Nishioka and M. Satoyoshi (1965.3) Cardiovascular Test Using Knee-Bend Exercises. *J. Yokohama City Univ. Ser. C-45 (No. 152)*, 1
- 2) Ogawa, Y., S. Yusa, S. Katao and M. Satoyoshi (1965.3) A Study of Starting Motions. *J. Yokohama City Univ. Ser. C-45 (No. 152)*, 13
- 3) 小川義雄・遊佐清有・里吉政子・鈴木辰雄・片尾周造 (1965.3) 種目別にみた運動選手の反応時間について 横浜市立大紀要 *Ser. C-45 (No. 152)*, 19
- 4)* 小川義雄・遊佐清有・高橋政子 (1964.12) 日本人体力の現状について 横浜市大論叢 三枝先生追悼記念論文集 16-自, I-I
- 5) 小川義雄・遊佐清有・高橋政子 (1965.2) 反応時間についての考察 日本生理誌 **27**, 147
- 6) Ogawa, Y., S. Yusa and M. Takahashi (1965.9) A Study of Arteriovenous anastomoses. Abstracts of papers XXIII International Congress of Physiological Sciences 155
- 7) Ogawa, Y., S. Yusa and M. Takahashi (1965.9) A Study of Reaction Time. Abstracts of papers XXIII International Congress of Physiological Sciences 311
- 8) 小川義雄・遊佐清有・高橋政子・片尾周造 (1965.6) スタート動作の分析 (第2報) 体力科学 **14**, 63
- 9) 小川義雄・遊佐清有・高橋政子・片尾周造 (1965.6) 協調能検査について 体力科学 **14**, 64
- 10) 小川義雄・遊佐清有・高橋政子・片尾周造 (1965.6) 発育時における体力の国際比較について 体力科学 **14**, 66

* 印は前年度脱落分

神奈川歯科大学第1生理学教室

- 1)* Sugaya, E., T. Akiba, M. Tsuchiya, Y. Kiryu, M. Yasuda, Y. Yamaguchi & Y. Fujishiro (1964. 6) Studies on electrophysiological properties of vago-vagal reflex. Keio J. Med. **13**, 77-85
- 2)* Yamaguchi, Y., M. Tsuchiya, T. Akiba, M. Yasuda, Y. Kiryu, T. Hagiwara, Y. Fujishiro & E. Sugaya (1964. 6) Nervous influence upon the heart due to overdistension of the urinary bladder: the relation of its mechanism to vago-vagal reflex. Keio J. Med. **13**, 87-99
- 3)* Sugaya, E., S. Goldring & J. L. O'Leary (1964. 12) Intracellular potentials associated with direct cortical response and seizure discharge in cat. EEG & Clin. Neurophysiol. **17**, 661-669
- 4)* Goldring, S., E. Sugaya & J. L. O'Leary (1964. 12) Maturation of evoked cortical responses in animal and man. Neurological & Electroencephalographic Correlative Studies in Infancy. pp 68-77 Grune & Stratton, Inc.

* 印は前年度脱落分

神奈川歯科大学第2生理学教室

- 1) 関 園子 (1965. 11) 加温による家兔の耳下腺活動に関する研究 歯科基礎医学 **7**

東京大学医学部第1生理学教室

- 1) Kōjiro Matsuda (1965. 9) The effect of electrophoretically applied acetylcholine on the membrane potential of canine atrial muscle. Abstracts of Papers Presented at ICPS 130
- 2) 松田幸次郎・上山章光 (1965. 5) 房室伝導系末梢における興奮伝導 —— 心電図基礎生理における新知見 —— 総合臨床 **14** (5), 754-761
- 3) Takeshi Hoshi (1965. 5) Movement of water and urea across Toad bladder membrane, Effects of metabolis inhibitors. Abstracts of Papers Presented at ICPS 175
- 4) 星 猛 (1965. 3) 尿素の排泄機構 総合臨床 **14** (3), 552-562
- 5) 星 猛 (1965. 2) ガマ膀胱膜に於ける水および尿素の膜透過について 日本生理誌 **27** (2), 136
- 6) Visscher, M. B., Lee, Y. C. P. and Azuma, T. (1965) Catecholamines in organs of immunosympathectomized mice. Proc. Soc. Exp. Biol. Med. **119**, 1232
- 7) Yamagishi, S. and Azuma, T. (1965. 11) Nervous control mechanism of renal vascular tone. Angiology **16**
- 8) Azuma, T. and Binia, A. (1965. 9) The significance of epinephrine in the frog heart. Abstracts of Papers Presented at ICPS 128
- 9) 東 健彦 (1965. 11) 神経生長の液性調節 —— 神経生長促進因子と Immunological Symptrthectomy.

医学のあゆみ **55** (6), 369-375

- 10) 上山章光・松田幸次郎 (1965. 2) 哺乳動物心室個有筋の電気生理学的特性 日本生理誌 **27** (2), 110
- 11) 星山正夫・上山章光・松田幸次郎 (1965. 2) 心筋の興奮およびその伝導に対する Ca^{++} の効果 日本生理誌 **27** (2), 111
- 12) Mamoru Kumada and Juro Iriuchijima (1965. 8) Cardiac output in carotid sinus reflex. Jap. J. Physiol. **15**, 397-404
- 13) Juro Iriuchijima and Mamoru Kumada (1965. 9) The neural mechanisms of respiratory arrhythmia. Abstracts of Papers Presented at ICPS 118
- 14) 松原一郎 (1965. 10) 血液の構造と流動 —— 血液流動学の新しい局面 日本臨床 **23** (10), 93-104
- 15) Azuma, T., Binia, A. and Visscher, M. B. (1965. 12) Adrenergic mechanisms in the bullfrog and turtle. Amer. J. Physiol. **209**, 1287

東京大学医学部附属脳研究所生理学部門

- 1) Tokizane, T. (1965) Colloques Internationaux du Centre National de la Recherches Scientifique: Aspects Anatomomo-Fonctionnels de la Physiologie du Sommeil: Sleep Mechanism: Hypothalamic Control of Cortical Activity. 151-185
- 2) Kubota, K., Y. Iwamura, and Y. Niimi (1965. 1) Monosynaptic Reflex and Natural Sleep in the Cat. J. Neurophysiol. **28**, 125-138
- 3) Shimazu, H., N. Yanagisawa, and B. Garoutte (1965. 4) Cortico-Pyramidal Influences on Thalamic Somatosensory Transmission in the Cat. Jap. J. Physiol. **15**, 101-124
- 4) Matsushita, A., N. Yanagisawa, and H. Shimazu (1965. 3) A Study of Ataxia and Muscle Spindle Depression Produced in Mammals by a New Unsymmetrical BIS-Methonium Compound. J. pharm. Exp. Therap. **147**, 343-349
- 5) Kubota, K., & K. Takahashi (1965. 2) Recurrent Facilitory Pathway of the Pyramidal Tract Cell. Proc. Japan Acad. **41**, 191-194
- 6) Kubota, K., H. Sakata and K. Takahashi (1965. 2) Location of the Recurrent Inhibitory Synapse on Cat Pyramidal Tract Cell. Proc. Japan Acad. **41**, 195-197
- 7) Takahashi, K. (1965. 9) Slow and Fast Groups of Pyramidal Tract Cells and Their Respective Membrane Properties. J. Neurophysiol. **28**, 908-924
- 8) 大島知一 (1965. 11) 錐体路細胞の機能分化 脳と神経 **17**, 1111-1113
- 9) 柳沢信夫 (1965. 11) 視床の体性感覚伝達に対する錐体路性統御 脳と神経 **17**, 1114-1119

東京大学医学部医用電子研究施設

- 1) 大島正光 (1965. 5) Ergonomics (人間工学) 朝倉書店

- 2) 大島正光 (1965. 3) 企業における人間工学 人間工学会編 p. 1-37
 - 3) 大島正光 (1965) 新生理学 (上巻) 中 航空宇宙医学 医学書院
 - 4) 大島正光 (1965) スポーツと疲労 (スポーツ科学講座) 中 疲労 大修館
 - 5) 大島正光 (1965. 1) 医用エレクトロニクス 科学読売 p. 82-86
 - 6) 大島正光 (1965. 1) 40年代の ME について 医事新報 No. 2125, 27-30
 - 7) 大島正光 (1965. 4) 医用トランスジューサー 医用電子装置研究会
 - 8) 大島正光 (1965) 宇宙医学の分野における医用電子機器 電気学会誌 **85** (No. 12), 45-49
 - 9) 大島正光 (1965. 8) TV の人間工学的条件 テレビジョン学会誌 **19** (No. 8), 539-545
 - 10) 大島正光 (1965. 9) 認識のメカニズム, 視覚の特性 コンタクト **3** (No. 9), 1-9
 - 11) 大島正光 (1965. 11) 宇宙の中, 宇宙医学 東大出版会 p. 199-212
 - 12) 大島正光 (1965) How to judge the results of the Flicker Test. Ergonomics p. 501-505 Proceeding of 2nd I. E. A.
 - 13) 大島正光 (1965. 11) 人間工学と色彩 Color Space No. 34, 5-10
 - 14) 入内島十郎 (1965. 4) 電磁血流量計, トランスジューサーの作り方 医用電子と生体工学 **13**
 - 15) 入内島十郎 (1965. 8) 血管の神経支配 生体の科学 **16**, 162-167
 - 16) 入内島十郎 (1965. 8) Cardiac output in carotid sinus reflex. Jap. J. Physiol. **15**, 397-404
 - 17) 入内島十郎 (1965. 8) Hemodynamic measurements using a blood pressure clamp. Digest of 6th ICMEBE p. 41
 - 18) 入内島十郎 (1965. 9) The neural mechanism of respiratory arrhythmia. XXIII Int. Congress of Physiological Congress p. 118
 - 19) 入内島十郎 (1965. 7) 電磁流量計による心拍出量の連続測定 医用電子と生体工学 **13**, 309-214
 - 20) 入内島十郎 (1965. 12) 流量測定法 生体の科学 **13**, 296-299
 - 21) 入内島十郎 (1965. 10) 血圧クランプ下の血行動態計測 医用電子と生体工学 **13**, 297-306
 - 22) 渥美和彦 (1965. 4) 人工心臓の研究 ——血液ポンプ機構について—— 日本人工臓器学誌 **2** (2), 57-58
 - 23) 渥美和彦 (1965. 5) 電子冷凍の医学的応用 日本人工臓器学誌 **2** (2), 59-61
 - 24) 渥美和彦 (1965. 4) 超音波静脈内ゾンデによる心臓動態観測に関する研究 日本人工臓器学誌 **2** (2), 55-56
 - 25) 渥美和彦 (1965. 4) 心臓同期型ペースメカおよび直接誘導型ペースメカの研究 日本人工臓器学誌 **2** (2), 105-106
 - 26) 渥美和彦 (1965. 7) 人工心臓の digital computer による on-line 制御 第3回日本人工臓器学会にて発表
 - 27) 渥美和彦 (1965. 8) Automatic Control of Artificial Heart with Digital Computer. Digest of 6th ICMEBE 333-335
 - 28) 渥美和彦 (1965. 11) サーモグラフィー 医用電子と生体工学 **3** (4), 281-296
 - 29) 桜井靖久 (1965. 7) Pulse motor を用いた人工心臓の駆動機構について 第3回日本人工臓器学会にて発表
 - 30) 桜井靖久 (1965. 7) 体外式心臓マッサージ機および Cardiac Synchronizer について 第3回日本人工臓器学会にて発表
 - 31) 渡辺 瞭 (1965. 8) Analysis of the symptom space (共) Digest of 6th ICMEBE p. 136
 - 32) 渡辺 瞭 (1965. 8) A queuing simulation program of the outpatient department (共) Digest of 6th ICMEBE p. 358
 - 33) 渡辺 瞭 (1965. 8) 直交複素指数関数による心電図波形の分析 (共) 電気四学会連合大会論文集 p. 2143
 - 34) 渡辺 瞭 (1965. 8) 胸部正面X線像自動読影の基礎研究 (共) 日本 MF 学会全国大会 No. 130
 - 35) 渡辺 瞭 (1965. 10) X線像自動読影の可能性について 東京エックス線技師学誌 No. 137 p. 5
 - 36) 戸川達男 (1965. 1) 直接誘導型ペースメーカーの研究 (共) 医用電子と生体工学 **3** (1), 49
 - 37) 戸川達男 (1965. 10) Double pulse stimulation および洞結節冷却法による心拍数の制御 (共) 医用電子と生体工学 **3** (4), 59
 - 38) 戸川達男 (1965. 8) A study on vibrational flowmeter (共) Digest of 6th ICMEBE p. 48
 - 39) 戸川達男 (1965. 8) Direct induction pacemaker (共) Digest of 6th ICMEBE p. 96
 - 40) 戸川達男 (1965. 8) Susceptibility to D. C. defibrillation of the heart (共) Digest of 6th ICMEBE p. 121
- 東京大学医学部保健学科生理**
- 1) 石河利寛 (1965) スタミナとその限界 からだの科学 1965(1), 2-5
 - 2) 石河利寛 (1965) 東京オリンピック大会と日本人の体力 学校教育研究所年報1965 p. 135-146
 - 3) 石河利寛・伊藤幸子・御子柴紀子・山川 純 (1965. 2) ボート選手の強化に関する運動生理学的支援 日本生理誌 **27** (2)
 - 4) 石河利寛 (1965. 9) Application of a telemeter to the analysis of rowing movement. XXIII Int. Congr. Physiol. Sciences
 - 5) 石河利寛・伊藤幸子・御子柴紀子・山川 純 (1965) テレメーターによる漕艇運動の分析 医用電子と生体工学 **3**, 203-208
 - 6) 神田良生・富木謙治・石河利寛・山川 純 (1965) 早稲田大学における合気道部員の体力についての

- 研究 体育学研究 9, 33-38
- 7) 児玉俊夫・猪飼道夫・黒田善雄・石河利寛 (1965) スポーツ医学入門 南山堂
 - 8) 猪飼道夫・石河利寛・松井秀治・浅川正一 (1965) 近代トレーニング 大修館
 - 9) 朝比奈一男・猪飼道夫・石川利寛 (1965) スポーツと体力 大修館
 - 10) 御子柴紀子 (1965) 僻地児童生徒の発育 保健の科学 7, 110-114
 - 11) 石川利寛・御子柴紀子 (1965. 6) 体力の地域差に関する 2, 3 の問題点 日本民族衛生学会第7回関東地方会

東京大学医学部公衆衛生学教室

- 1) 勝沼晴雄 (1965. 9) A contribution to the knowledge of normal variation in several hematological data. Abstracts of papers XXIII International congress of physiol. sci. 98.

東京大学医学部上田内科

- 1) 上井一男 (1965) 肝循環の調節に関する実験的研究 (第1報) 門脈および肝動脈循環の相互作用 (第2報) 肝循環におよぼすエピネフリン・ノルエピネフリンおよび神経刺激の影響 東京医学誌 73, 32
- 2) Ueda, T., M. Murao, T. Momose, S. Hatano, S. Koike, T. Shiraishi, A. Kuroiwa, T. Sugimoto, T. Uzawa, K. Shimomura, Y. Saito and T. Yamada (1965) Effects of Unilateral Pulmonary Artery and Vein Distension with a Balloon on the Pulmonary and Femoral Arterial Pressures in Anesthetized Dogs. Jap. Heart J. 6, 428
- 3) Ueda, H., T. Koide, M. Iio, A. Nakanishi and I. Ito (1965) Measurement of Coronary Circulation Time with a Catheter Type Micro G-M Counter. Jap. Heart J. 6, 527
- 4) 内田康美 (1965) 実験的高血圧ウサギにおける右鎖骨下動脈圧感受装置の血圧調節機序に関する研究 東京医学誌 73, 377
- 5) Ueda, H., S. Kaihara, K. Ueda, Y. Sugishita, Y. Sasaki and M. Iio (1965) Regional Myocardial Blood Flow Measured by I^{131} Labelled Macroaggregated Albumin (I^{131} -MAA). Jap. Heart J. 6, 534

東京大学医学部吉利内科

- 1)* Carlson, L. D., N. Honda, T. Sasaki and W. V. Judy (1964) A human calorimeter. Proc. Soc. Exptl. Biol. Med. 117, 327
- 2) 吉利 和・織田敏次・久米章司 (1965. 2) 腸管における電解質能動輸送 代謝ならびに副腎皮質ホルモンとの関係について 日本生理誌 27, 98
- 3) 吉利 和・関 清・本田西男・森川昭郎 (1965. 2) 腎静脈圧変化時の腎血行動態 日本生理誌 27, 136
- 4) Yoshitoshi, Y., K. Sekiguchi, K. Machi, et al. (1965. 8) Measurement of the maximal velocity of the mitral valve closure and of anterior ventric-

- ular wall movement by ultrasonic Doppler's method. Digest of 6th ICME & BE p. 35
- 5) Yoshitoshi, Y., T. Maeda, N. Nagasaka, S. Koshikawa, K. Shimizu and K. Suzuki (1965. 8) Simulation of the osmolar regulatory system of body fluid. Digest of 6th ICME & BE p. 389
 - 6) Kume, S., and T. Oda (1965. 9) Cation transport in the intestinal epithelial cells of guinea pig. XXIII Inter. Congr. Physiol. Sci. p. 72.
 - 7) Abe, T. and K. Kazama (1965. 9) Excretion of plasmogen activator from kidney. XXIII Inter. Congr. Physiol. Sci. p. 111
 - 8) Yoshikawa, J., T. Maeda and Y. Yoshitoshi (1965. 9) The effect of mercurial diuretics and thiazide diuretic on $(Na^+ + K^+)$ dependent ATPase and ^{86}Rb uptake on renal cortex of guinea pig. XXIII. Inter. Congr. Physiol. Sci. p. 165
 - 9) Nishio Honda (1965. 9) Precooling of peripheral arterial blood in cold- and warm-adapted rabbits. XXIII Inter. Congr. Physiol. Sci. p. 298.
 - 10) 本田西男 (1965. 10) 腎組織圧と腎血行動態の関係について 脈管学 5, 104
 - 11) 水越 洋 (1965. 10) ^{131}I -Hippuran Kinetics と Renogram の解析. multicompartiment analysis と analogue computer の応用 Jap. J. Nephrology 7, 499
 - 12) Yoshitoshi, Y. K. Seki, N. Honda and A. Morikawa (1965. 11) Effects of increased renal arterial, venous and ureteral pressures on the renal hemodynamics in rabbits. Jap. Circulation J. 29, 1108
 - 13) Nishio Honda (1965. 11) Precooling of peripheral arterial blood in cold-adapted and warm-adapted rabbits. J. Appl. Physiol. 20, 1133
- * 印は前年度脱落分

東京大学教養学部体育研究室

- 1)* Koichi Hirota, Hiroshi Toyota (1964. 10) Effects of Elevation of Intrathracic Pressure upon Circulatory System. Abstracts of papers presented at International Congress of Sports Science, Page 64 (published by The Organizing Committee for the Games of the XVIII Olympiad, The Japanese Union of Sport Science)

* 印は前年度脱落分

東京大学教育学部体育生理学教室

- 1) 猪飼道夫 (1965) 東京オリンピックスポーツ科学研究報告, 陸上競技の部 日本体育協会 1037-110
- 2) 猪飼道夫・石井喜八・中村淳子 (1965) 血流量からみた筋持久力Ⅰ 体育の科学 15 (4), 201-206, 血流量からみた筋持久力Ⅱ 体育の科学 15 (5), 281-287, 血流量からみた筋持久力Ⅲ 体育の科学 15 (6), 334-340, 血流量からみた筋持久力Ⅳ 体育の科学 15 (7), 404-410
- 3) 猪飼道夫・金子公宥 (1965) パワー (瞬発力) の研究

- I 体育の科学 **15** (10), 571-576, パワー (瞬発力) の研究 II 体育の科学 **15** (11), 634-639
- 4) 猪飼道夫 (1965) 体育の科学的基礎 東洋館出版社
- 5) Ikai, M., Ishii, K., & Nakamura, A. (1965) Training effect on the aerobic and anaerobic work capacity. IUPS Tokyo
- 6) Ikai, M. (1965) The maximum working Capacity of Japanese. Kyoto IBP Symposium.
- 7) Ikai, M. (1965) A study of acclimatization in Japanese athletes. (with Asahina, K. Ogawa, S. and Kuroda, Y.) Magglingen, Symposium on medium altitude.
- 慶応義塾大学医学部生理学教室**
- 1)* Okamoto, S., S. Sato, Y. Takada and U. Okamoto (1964. 12) An active stereo-isomer (Trans-form) of AMCHA and its antifibrinolytic (Anti-plasminic) action in vitro and vivo. Keio J. Med. **13** (4), 177-185
- 2)* Takada, A., Y. Takada and U. Okamoto (1964. 12) Fractionation of plasminogen activator and proactivator in tissue and blood by gel filtration. Keio J. Med. **13** (4), 187-194
- 3)* Yamamoto, K., A. Takada and H. Hatano (1964. 12) Determination blood fibrinolytic activity by means of gel filtration in several skin diseases. Keio J. Med. **13** (4), 195-199
- 4) Hayashi, T. (1965. 1) Genesis of excitatory transmitter in the brain of dogs. Essays on Physiological Evolution. 139-143
- 5) Hayashi, T., Y. Karahashi and H. Takeuchi (1965. 3) Seizure action of quaternary ammonium compounds applied into cerebrospinal fluid of dogs. Keio J. Med. **14** (1), 13-18
- 6) Hayashi, T., (1965. 3) Mechanism secretion of resting saliva in men. Keio J. Med. **14** (1), 19-25
- 7) Takada, A., Y. Takada and U. Okamoto (1965. 3) Gel filtration of fibrinolytic components of blood plasma in man and rabbit. Keio J. Med. **14** (1), 37-43
- 8) Hayashi, T., Y. Karahashi and H. Takeuchi (1965. 3) Blocking action of thiamine and its derivatives upon neuromuscular transmission of cold blooded animals. J. Vitaminology **11** (1), 30-36
- 9) Yamamoto, K., A. Takada and K. Yamada (1965. 9) Fibrinolytic enzyme system in infantile eczema. Keio J. Med. **14** (3), 107-111
- 10) Hayashi, T. (1965. 9) Pavlov's sleep theory under a new light. Keio J. Med. **14** (3), 135-144
- 11) Hayashi, T. (1965. 9) Quasi-genetic preservation of epileptic and antiepileptic state in dogs and in men. (Discussion) Proceedings of the International Union of Physiological Sciences Vol. IV XXIII International Congress Tokyo, 1965 Lecture and Symposia
- 12) Okamoto, U., Y. Takada, A. Takada, S. Yamamoto and Y. Nakagawa (1965. 9) An antifibrinolytically active isomer (trans form) of AMCHA and its action of the variation of content of tissue activator of fibrinolysis experimentally produced. Abstracts of Papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences, 216
- 13) Murakami, M., and A. Kaneko (1965. 9) Analysis of PIII in cold-blooded vertebrates. Abstracts of Papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences 836
- 14) Kato, G., H. Itow and S. Sakada (1965. 9) Isolation of the single adrenergic and the single cholinergic fibres in the cardiac, vagus nerve, and also in the cardiac sympathetic nerve. Abstracts of Papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences, 1152
- 15) Takada, Y. A. Takada, U. Okamoto and K. Yamada (1965. 12) The interesting variation of proactivator of plasminogen in an early infant. Keio J. Med. **14** (4), 157-161
- 16) Tomita, T. and A. Kaneko (1965) An intracellular coaxial microelectrode-its construction and application. Medical Electronics & Biological Engineering. **3**, 367-376
- 17) Hayashi, T. (1965) Physiological action of carnitine on nerve cells, nervous pathway, and muscle. Recent Research on Carnitine, its relation to lipid metabolism. 183-191 edited by George Wolf The M. I. T. Press Cambridge Mass. U. S. A.
- 18) 大塚俊郎・渡辺京子・関 園子 (1965. 1) 犬の皮質性間代性痙攣経路に対する Carnitine の作用について 慶応医学 **42**, 69-73
- 19) 柳下雄輔 (1965. 1) の hydroxyfattyacid および諸種制癌剤の中樞神経直接投与による犬電気ショック痙攣の閾値変動について 条件反射 50集 2133-2140
- 20) 中浜 博 (1965. 2) 視床核ニューロン活動に対する体制皮質の統御 日本生理誌 **27**, 62-63
- 21) 林 巖・柳下雄輔・星野 博・大塚俊郎 (1965. 2) Electroshock 電流の重積によるテンカン犬の作成 日本生理誌 **27** (2), 81
- 22) 高垣玄吉郎 (1965. 2) アスパラギン酸の脳皮質グルコース代謝に及ぼす影響 日本生理誌 **27** (2), 82-83
- 23) 岡本歌子・高田明和・高田由美子 (1965. 2) 血漿ゲル河過 (Sephadex) によって分離された新しい線維素分解因子 日本生理誌 **27** (2), 104
- 24) 加藤元一・伊藤秀三郎・坂田三弥・葛西四朗 (1965. 2) 単一交感, 副交感神経線維の heart rate に及ぼす刺激効果ならびに心臓枝の洞房分布について 日本生理誌 **27** (2), 121

- 25) 村上彦彦・金子章道 (1965. 2) 冷血動物 ERG における P III の分析 日本生理誌 **27** (2), 142
- 26) 相川貞男 (1965. 2) Callopeptides の大脳皮質および視床誘発電位におよぼす影響について 条件反射 51集 2157-2162
- 27) 佐々木 優 (1965. 3) 魚類の網膜活動電位発生層について 慶応医学 **42**, 179-189
- 28) 豊田順一・橋本葉子・伊藤寛志 (1965. 3) 逆方向性刺激に対する網膜神経節細胞の応答 慶応医学 **42**, 221-227
- 29) 柳下雄輔 (1965. 3) 犬大脳皮質刺激による痙攣に対する d-GABOB および l-GABOB の抑制作用 条件反射 52集 2189-2191
- 30) 岡本彰祐・高田由美子・岡本歌子 (1965. 4) トランス型 AMCHA の抗プラスミン作用について 日本生理誌 **27**, 207-213
- 31) 荒冷政雄・奥寺恒夫・滝川幸作 (1965. 4) 間代性痙攣に対する 2,4 ジニトロフルオルベンゼンの作用 条件反射 53集 2221-2224
- 32) 原 喜久江・伊藤東洋司・荒冷政雄 (1965. 4) Methionine Sulfoximine と Cystine Sulfoximine との中樞神経に対する作用の比較 条件反射 53集 2225-2228
- 33) 荒冷政雄・三浦きみ (1965. 4) Aconitine 収縮に対する各種物質の影響について 条件反射 53集 2229-2232
- 34) 相川貞男 (1965. 4) Callopeptide 関連物質の大脳皮質誘発電位に及ぼす影響について 条件反射 53集 2237-2241
- 35) 豊田順一 (1965. 5) 色受容機構より見た鯉視神経線維放電様式 慶応医学 **42**, 283-294
- 36) 伊藤寛志 (1965. 5) 鯉網膜における S 電位の分析 慶応医学 **42**, 295-306
- 37) 荒冷政雄・三浦きみ・原喜久江 (1965. 5) EDTA の骨格筋運動神経 および 運動中枢に対する作用 条件反射 54集 2245-2249
- 38) 岡本歌子・高田由美子 (1965. 8) 高張塩化カリ溶液によりウサギの腎実質より抽出したプラスミンノーゲン, アクチペータの性質 日本生理誌 **27**, 403-409
- 39) 豊田順一・伊藤寛志・橋本治雄 (1965. 9) 網膜活動電位 (ERG) と視神経放電との関係について 慶応医学 **42**, 529-536
- 40) 冨田恒男 (1965. 9) 第30回 Cold Spring Harbor Symposium 日本生理誌 **27**, 465
- 41) 高田明和・高田由美子・岡本歌子 (1965. 9) Gel filtration より見た人間と家兎の血液線溶系の差異 日本臨床 **23** (9), 179-181
- 42) 塚田裕三 (1965. 10) 脳の機能 生化学的研究 蛋白質, 核酸, 酵素 **10** (10), 951
- 43) 野口鉄也・塚田裕三 (1965. 10) 脳内アミノ酸代謝に及ぼすフェニアラニンの影響 神経化学 **4** (Supplement), 15
- 44) 塚田裕三・松谷天星丸・植村慶一 (1965. 10) 家兎
摘出網膜でのアミノ酸および核酸の代謝 神経化学 **4** (Supplement), 33
- 45) 永田 豊・横井幸雄・塚田裕三 (1965. 10) 白鼠脳出交感神経節のアミノ酸輸送と活動電位 神経化学 **4** (Supplement), 37
- 46) 中浜 博 (1965. 11) 錐体路系と感覚系の相関 脳と神経 **17**, 1100
- 47) 高田明和・高田由美子・岡本歌子 (1965. 11) 線溶現象における Plasminogen Proactivator の意義とその生後の変動 慶応医学 **42**, 708
- 48) 林 露 (1965. 12) テンカン後の睡眠について 条件反射 61集 104-110
* 印は前年度脱落分

東京慈恵会医科大学第1生理学教室

- 1) 名取礼二・五十島長太郎 (1965. 2) 筋収縮弛緩とイオン分布との関係 日本生理誌 **27**, 130
- 2) 小野三嗣 (1965. 2) 頭髪, 頭垢および鬚消長のリズム性について 日本生理誌 **27**, 147
- 3) 小野三嗣・大和 真・岡田信子・高橋泰光 (1965. 3) 静的 training と動的 training の効果比較 体力科学 **14**, 9-14
- 4) 小野三嗣・大和 真・岡田信子・高橋泰光 (1965. 3) 肘関節角度の変化に伴う上肢筋力の動態 体力科学 **14**, 15-19
- 5) 小野三嗣・本間達二 (1965. 3) 身体発育及び筋力発達の動態研究 (第3報) 体力科学 **14**, 20-26
- 6) 小野三嗣・高橋泰光 (1965. 6) 肘関節角度と上腕伸展, 屈曲力の関係 体力科学 **14**, 62
- 7) 小野三嗣・本間達二 (1965. 6) 修善寺地区青少年の身体各部発育比について 体力科学 **14**, 67
- 8) 小野三嗣・安部勉・岡田信子 (1965. 6) 最近の医大生の体格および筋力発達 体力科学 **14**, 67
- 9) 小野三嗣・大和 真 (1965. 6) 重量挙げ選手の体力および記録の消長 体力科学 **14**, 68
- 10) 小野三嗣 (1965. 6) 筋力の training に関する研究 体力科学 **14**, 77
- 11) 尾谷良行 (1965. 7) 運動負荷の血清 transaminase 活性値乳酸脱水素酵素活性値におよぼす影響について 教育大スポーツ研究所報 **3**, 20
- 12) Natori, R. (1965. 7) Effects of Na and Ca Ions on the excitability of isolated myofibrils. Molecular Biology of Muscular Contraction 190-196
- 13) Isojima, C. (1965. 9) The role of calcium ion in the initiations of the breake of skeletal and smooth muscle immersed in isosmatic potassium solution. Mollcular biology of muscular contraction 344
- 14) Ono, M. (1965. 9) Muscle force of upper limb in the growth patterns of school children and students. Mollcular Biology of muscular contraction 289
- 15) 小野三嗣・岡田信子・坪田修三 (1965. 9) 発育に伴う筋力の変化について 体力科学 **14**, 85-97
- 16) 小野三嗣・大和 真・水村嘉明 (1965. 9) 筋の tra-

ining 効果に関する研究 体力科学 **14**, 98-103

- 17) 小野三嗣・高橋泰光・尾谷良行(1965.9) 体格、体力および運動能力の相互関係についての研究(第1報) 体力科学 **14**, 104-112
- 18) 小野三嗣・本間達二(1965.9) 身体発育および筋力発達の動態研究 体力科学 **14**

東京慈恵会医科大学第2生理学教室

- 1) 小川新吉・勝田 茂・徳久球雄・春山国広・青木純一郎・尾方正矩・田村扇一・杉浦耀子・橋本 勲(1965.7) 登山の体力学的研究 第一報 ——立山大集会における登山者の体力と運動能力について—— 東京教育大体育部スポーツ研究所報 **3**, 1-12
- 2) 小川新吉・勝田 茂・徳久球雄・春山国広・青木純一郎・尾方正矩・田村扇一・杉浦耀子・橋本 勲(1965.7) 登山の体力学的研究 第二報 ——夏山における体力と疲労について—— 東京教育大体育部スポーツ研究所報 **3**, 13-19
- 3) 小川新吉・井川幸雄・勝田 茂・中野昭一・杉浦耀子・小松文英・尾谷良行(1965.7) 運動負荷の血清 transaminase 活性値、乳酸脱水素酵素活性値におよぼす影響について 東京教育大体育部スポーツ研究所報 **3**, 20-30
- 4) 井川幸雄・中野昭一・杉浦耀子(1965) 蛋白分解酵素および Insulin 等の腸管壁通過に関する研究 日本生理誌 **27**, 98
- 5) 酒井敏夫・飯塚恒治(1965) 平滑筋に対する温度効果 日本生理誌 **27**, 133
- 6) Sakai, T. (1965.9) The effects of rapid and retarded cooling on the mechanical properties of the caffeinized muscle fibers. Abstracts of papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences, p. 313
- 7) Ikawa, S., Nakano, S. & Sugiura, Y. (1965.9) Effect of exercise on serum enzyme values. Abstracts of papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences, p. 313
- 8) 井川幸雄・中野昭一・杉浦耀子・山岸由美子・高村直美・宇佐美栄子(1965) セロゲル膜による血清蛋白分画について 生物々理化学 **2**, 63
- 9) 中野昭一(1965) 蛋白質および活性ペプチドの腸管通過 最新医学 **20**, 2963
- 10) Sakai, T. (1965) The effect of temperature caffeine of the contractile mechanism in the striated muscle fibers. J. M. J. **12** (2)
- 11) Sakai, T. (1965) The action of the intracellular calcium on the contractile mechanism. J. M. J. **12** (2)
- 12) Sakai, T. (1965) The effect of anomalous anions on the contractile mechanism of the caffeinized muscle fibers by rapid coolings. J. M. J. **12** (2)

東京慈恵会医科大学第4内科学教室

- 1) 阿部正和・他(1965.1) 糖尿病 内科 **15**, 63

- 2) 阿部正和(1965.2) 代謝とホルモン 治療 **47**, 211
- 3) 阿部正和(1965.2) インスリン阻害物質に関する最近の知見 糖尿病 **7**, 215
- 4) 池田義雄(1965.5) インスリン-in vitro での bio-assay における 2, 3 の問題点について 日本臨床 **23**, 964
- 5) 阿部正和・他(1965.7) 高 γ グロブリン血症 最新医学 **20**, 1659
- 6) 阿部正和(1965.10) 糖代謝とグルカゴン 診療 **18**, 1383
- 7) 阿部正和・他(1965.10) 糖尿病病因の移りかわり 診療 **18**, 1504

東京医科歯科大学医学部第1生理学教室

- 1) Yasuji Katsuki (1965.4) Comparative Neurophysiology of Hearing. Physiological Reviews Vol. **45**, 380-423
- 2) Hotta, T., and S. Terashima (1965.1) Audiovisual interaction and its correlation with cortical stimulation in the lateral thalamus. Experimental Neurology **12**, 146-158
- 3) Yasuji Katsuki, Yasuo Tanaka and Tamotsu Miyoshi (1965.7) Action of acetylcholine on cochlear responses. Nature, Vol. **207**, 32-34
- 4) Shinjiro Oonishi and Yasuji Katsuki (1965.8) Functional organization and integrative mechanism on the auditory cortex of the cat. Jaap. J. Physiol. Vol. **15**, 342-365
- 5) Yasuji Katsuki (1965.9) Action of acetylcholine on cochlear responses. Proceedings of the international union of physiological sciences Vol. **4**, 248
- 6) Hotta, T. (1965.9) Cortical influence on somato visual interaction in lateral thalamus. Abstracts 23rd Int. Cong. Physiol. Sci. p. 392
- 7) Yasuji Katsuki and Takeshi Watanabe (1965.10) Cortical efferent flow influencing responses of geniculate and collicular auditory neurons. Abstracts of IInd extraordinary congress of the International Society of Audiology 12-14
- 8) 勝木保次・神崎 仁・柳沢慧二(1965.10) 有毛細胞部への薬物投与による蝸牛電気現象の変化(第3報) Audiology, Vol. **8**, 95-96

東京医科歯科大学医学部第2生理学教室

- 1) 渡辺 昭・小原昭作・秋山豊宏・湯本勝人(1965.2) シャコ心臓神経節への制御神経の作用 日本生理誌 **27**, 93
- 2) 斎藤 望(1965.2) Blue crab の心臓神経節細胞の electrotonic connection 日本生理誌 **27**, 101
- 3) Tasaki, I.; Singer, I. and Watanabe, A. (1965.9) Excitation of internally perfused squid giant axons in sodium free media. Proc. Nat. Acad. Sci. **54**, 763

東京医科歯科大学歯学部生理学教室

- 1) Ichioka, M., Shimizu, H. und Shimizu, T. (1965.3)

- Elektrische Reaktion einzelner Submandibulardrüsenzellen auf salzigen und sauren Geschmacksreiz bei der Ratte. Zeitschrift f. Biol. **115**(1), 1-8
- 2) Shimazu, H. and Hongo, T. (1965. 7) Centrifugal modifications of discharge rates of primary and secondary ending of muscle spindles in the hind limb of the cat. J. Neurophysiol. **28**, 724-741
- 3) Horiuchi, H. (1965. 8) An electronic device for obtaining random sequences of stimuli of equal step strengths. Digest of the 6th ICME & BE, p 115-116 1965
- 4) 堀内 博・清水賢二・大郷利治 (1965. 9) 猫孤束核の電氣的応答 口腔病学誌 **32** (3), 327
- 5) Ichioka, M. (1965. 9) Some investigations on the mechanism of the initiation of the electric taste sensation. Abstracts of Papers. XXIII International Congress of Physiological Sciences, Tokyo, P. 380 Sept., 1965
- 6) 市岡正道・近藤祐嗣・坂本昌子 (1965. 9) 神経衝撃計数加算装置 医学のあゆみ **54** (10), 609-612
- 7) Horiuchi, H. (1965. 11-12) A study of pulp nerve excitation through a silver wire-electrode. J. Dent. Res. **44** (6), 1257-63
- 東京医科歯科大学心臓血管病研究施設生理**
- 1)* Sano, T, Suzuki, F. and Hiroki, T. (1964. 8) Eigen-vectorcardiography and eigen-electrocardiography. —A basi cstudy for automatic diagnosis of eeg and vcg.— Proceeding III asian pacific congress of cardiology **2**, 1046
- 2)* 佐野豊美・広木忠行・鈴木文男 (1964. 9) 空間速度心電図の研究 第4報 日本循環器誌 **29**, 820
- 3)* 滝川嶂之 (1964. 12) ベクトルu環に関する研究 第2報 お茶の水医誌 **12**, 105-109
- 4)* 佐野豊美・広木忠行 (1964. 12) 心室性期外収縮のベクトル心電図 日本臨床 **23**, 1302-1304
- 5) 佐野豊美 (1965. 1) ベクトル心電図 日本ME誌 **3**, 15-18
- 6) 佐野豊美 (1965. 1) ベクトル心電図の臨床的有用性について 臨床科学 **1**, 49-63
- 7) 佐野豊美・山岸俊一・飯田 豊 (1965. 2) 刺激伝導系における自動と伝導の機序 39年度文部省研究報告集 (医学及び薬学) 126
- 8) 山岸俊一 (1965. 3) 自動興奮性細胞 生物物理 **5**, 1-12
- 9) Sano, T., Hiroki, T. and Suzuki, F. (1965. 3) Vectorcardiographic features of ventricular premature beats. 日本循環器誌 **29**, 1101
- 10) Sano, T., Suzuki, F. and Hiroki, T. (1965. 3) Evaluation of the dipole concept for the cardiac electromotive force according to the intrinsic component theory. 日本循環器誌 **29**, 1105
- 11) 佐野豊美・鈴木文男・佐藤貞之・飯田 豊 (1965. 4) 心房異所性能動性不整脈の発生機序に関する研究 日本内科誌 **54**, 488-489
- 12) 佐野豊美・鈴木文男・広木忠行・二宮理憲 (1965. 4) 心電図自動診断のための基礎的研究 日本ME誌 **3**, 240
- 13) 滝川嶂之 (1965. 4) ベクトルu環に関する研究 第3報 お茶の水医誌 **12**, 105-109
- 14) Sano, T., and Yamagishi, S. (1965. 5) Spread of excitation from the sinus node. Circulat. Res. **16**, 423-430
- 15) 佐野豊美・山岸俊一・飯田 豊 (1965. 5) 洞結節部の興奮伝播に対する K^+ および温度の影響 日本生理誌 **27**, 110-111
- 16) Sano, T., Suzuki, F. and Hiroki, T. (1965. 8) On the spatial velocity electrocardiograph and its clinical application. Digest of the 6th international conference on medical electronics and biological enginerry 1-3
- 17) Sano, T., Suzuki, F., Hiroki, T. and Ninomiya, S. (1965. 8) Automatic point recognition technique of the vectorcardiogram. Digest of the 6th international conference on medical electronics and biological enginerry 180-182
- 18) Sano, T. (1965. 9) Recent advances in clarifying the genesis of cardiac fibrillation. Jap. Heart J. **6**, 387-395
- 19) 佐野豊美 (1965. 9) 迷走神経刺激による温血動物洞房結節細胞電位の変化 医学のあゆみ **54**, 725-726
- 20) 佐野豊美・沢登 徹 (1965. 10) β 遮断剤による抗不整脈作用 医学のあゆみ **55**, 138-141
- 21) 佐野豊美 (1965. 10) 洞結節より心房への興奮伝播 医学のあゆみ **55**, 中付
- 22) 佐野豊美・広木忠行・厚美利行 (1965. 1-10) 心音, 心雑音の鑑別診断 (1-10) エレクトロ・タイムス **7**, 1-10
- 23) 佐野豊美・広木忠行 (1965. 11) 一過性の脚ブロック エレクトロ・タイムス **7**, 289-292
- 24) 広木忠行 (1965. 12) 硬塞周囲性ブロック エレクトロ・タイムス **7**, 328-330
- 25)* Sano, T. and Yamagishi, S. (1964. 8) Spontaneous impulse generation of the sinus node and its propagation, a study by microelectode. Proceedings III asian pacific congress of cardiology 858-862
- 26) Sano, T., Yamagishi, S. and Iida, Y. (1965. 9) The excitation of the sinus node and its spread, especially, their alterations by potassium and calcium. Abstracts of papers presented at XXIII International congress of physiological sciences 131
- 27) Shunichi Yamagishi & Takehiko Azuma (1965) Nervous control mechanism of the renal vascular tone. Angiology **16** (11), 705
- * 印は前年度脱落分
- 東京医科歯科大学医学部第3内科**
- 1) Takio Shimamoto (1965. 1) Edematous Arterial Reaction. An Immediate Response of Arterial

- Wall to Adrenaline or to Animal Fats Including Cholesterol and Kinin as its Chemical Mediator. in 3rd Europ. Conf. Microcirculation. Jerusalem, 1964. *Bibl. Anat.* **7**, 271
- 2) 島本多喜雄・藤田 勉・須永俊明・佐々木俊明・久保田昌良・平本義一・石井恭正・倉井 亮・山下碩也・佐野忠弘・小田倉力・竹内那夫 (1965. 2) 浮腫性動脈反応に関する研究 続報 Kinin の静脈収縮作用とその拮抗物質 B_{23} 日本生理誌 **27**, 152
 - 3) 島本多喜雄・磯兼則子・陳 慧 珍・松崎通子・水川瑛子・小田倉力・柳下 満・佐野忠弘・山崎博男 (1965. 4) 体内炎症物質の血管透過性亢進に関する研究 (第1報) ——Bradykinin の各種動物における血管透過性亢進作用について—— 脈管学 **5**, 207
 - 4) 島本多喜雄・佐野忠弘・小田倉力・山崎博男 (1965. 4) 体内炎症物質の血管透過性亢進に関する研究 (第2報) —— B_{23} のキニン拮抗作用 (Kinin-Antagonistic Effect) について 脈管学 **5**, 208
 - 5) 石岡忠夫・竹内那夫・小田倉力・松村釣男・巨田康祐・厚美利行・前沢秀憲・島本多喜雄 (1965. 8) 血管脆弱性に関する研究 ——Anginin の紫斑・出血防止作用について—— 日本血液学誌 **28**, 467
 - 6) 佐々木俊明・平本義一・須永俊明・島本多喜雄 (1965. 8) Anginin の抗ブラジキニン作用に関する研究 ——Bradykinin の leucotaxine 様作用に対する Anginin の抑制効果—— 日本血液学誌 **28**, 523
 - 7) 島本多喜雄・石岡忠夫・須永俊明・柳下 満・松村釣男・佐々木俊明・玻座真博公 (1965. 9) Bradykinin の静脈収縮作用とその拮抗物質 日本生理誌 **27**, 152
 - 8) 島本多喜雄・山崎博男・石岡忠夫・佐野忠弘・竹内那夫・小田倉力・松村釣男 (1965. 9) 人体におけるアドレナリン負荷または動物脂肪負荷による「血液凝固性亢進及び粘着性血小板減少反応」にたいする Anginin (B_{23}) の予防効果 ——新型血液予防剤の研究—— 日本臨床 **23**, 164
 - 9) 島本多喜雄・藤田 勉・沼野藤夫・山下碩也・久保田昌良 (1965. 9) 抗キニン剤 B_{23} の実験的粥状硬化予防作用について 日本循環器学誌 **29**, 825
- 東京医科歯科大学医学部難聴研究施設生理部門**
- 1) Takeshi Watanabe (1965) Responses of Primary Auditory Neurons to Electro-magnetic Driving of the Ear Drum. *Jap. J. Physiol.* **15**, 92-100
 - 2) 渡辺 武・菅野義信・柳沢慧二・勝木保次 (1965. 2) 内側膝状体ニウロンの皮質刺激による遠心性効果 日本生理誌 **27**, 74
 - 3) 渡辺 武 (1965. 6) 音声認識の生理学的背景 日本音響誌 **21**, 296-297
 - 4) Takeshi Watanaba (1965. 9) Cortical efferent flow influencing unit responses of Medial geniculate body XXIII 国際生理学会抄録集 870
 - 5) 竹中敏文 (1965. 7) 灌流巨大神経線維に於ける興奮性と lyotropic series について 日本生理誌 **27**, 463
 - 6) Takenaka, T., Encabo, H. and Segundo, J. P. (1965) Investigation of the Mechanism underlying the Attenuation of Reticular Responses to Repeated Sensory Stimuli. *The Physiologist* **8**, 286
 - 7) Tasaki, I. Singer, I. and Takenaka, T. (1965) Effects of Internal and External Ionic Environment on Excitability of Squid Giant Axon. *J. Gen. Physiol.* **48**, 1095-1123
 - 8) Walker, F. and Takenaka, T. (1965) Electric Impedance of Neuroglia in Vitro. *Exptl. Neurol.* **11**, 277-287
 - 9) Hild, W., Takenaka, T. and Walker, F. (1965) Electrophysiological properties of Ependymal Cells from the Mammalian Brain in Tissue Culture. *Exptl. Neurol.* **11**, 493-501
- 日本医科大学**
- 1) 戸塚武彦 (1965. 7) 音波の時間軸を逆転したときの聞えについて 日本生理誌 **27**, 370
 - 2) 戸塚武彦 (1965. 9) 心電図の誘導に就いて 日本生理誌 **27**, 464
- 日本医科大学第1生理学教室**
- 1) 雪吹周秀・川崎了二・小西喜久治 (1965. 2) 単一有髄線維動作電位のプラトー 日本生理誌 **27**, 102
 - 2) 戸塚武彦・本山十三生・遠藤昭伸・杉谷正東 (1965. 2) 中間代謝物質の心筋への作用 日本生理誌 **27**, 111
 - 3) 雪吹周秀・川崎了二・小西喜久治 (1965. 8) 有髄神経線維動作電位の軸索内記録 日本生理誌 **27**, 413
 - 4) 小西喜久治 (1965. 12) 神経線維の電気現象 日本医大誌 **32** (6), 228-230
- 日本医科大学第2生理学教室**
- 1) 高橋 恵・浮田忠之進・斎藤 守・外 (1965. 4) アルキル・フェニル及び無機水銀化合物による Hg の体内分布- ^{203}Hg autoradiography による検討 日本病理誌 **54**, 188
 - 2) 高橋 恵・許 承 貴 (1965. 2) Phenyl 水銀化合物に対する生体の適応性 日本生理誌 **27**, 115
 - 3) 高橋 恵・林 秀生・堀内噎子 (1965. 2) 蛙皮膚電位と電気的特性におよぼす代謝阻害剤の効果 日本生理誌 **27**, 100
 - 4) Hayashi, H. and I. Takahashi (1965. 8) Effect of delayed hearing on phonation. Digest of the 6th International conference on medical Electronics and Biological Engineering 1965, Tokyo 427-428
 - 5) Takahashi, I. and H. Hayashi (1965. 9) Effects of current pulse and metabolic inhibitors on the potential and electrical model of frog skin. XXIII International congress of physiological sciences p. 19
 - 6) Takahashi, I., M. Saito and T. Ukita (1965. 9) The adaptability to mercury compounds and urinary Hg excretion. XXIII International congress of

physiological sciences p. 66

- 7) Fujita, Y., J. E. Swett and S. Inoue (1965. 9) Cerebellar evoked responses to low threshold muscle afferents. XXIII International congress of physiological sciences, p. 103

日本医科大学薬理学教室

- 1)* Tsunoo, M., et al. (1963) Cochlear Blood Flow and Function : Effect of Pressor Agents. Acta otolary. **56**, 587-598
 2)* Tsunoo, M., and H. B. Perlman (1964) Venous Obstruction of the Cochlea Blood Flow and Function. Acta otolary **58**, 127-138
 3) Tsunoo, M., and H. B. Perlman (1965) Cochlear Oxygen Tension : Relation to Blood Flow and Function. Acta otolary **59**, 437-450

* 印は前年度脱落分

日本医科大学木村内科学教室

- 1) Kimura, E., et al. (1965) Effects of some coronary vasodilators on the Exercise and Anoxia Tests, with Special Reference on the Genesis of Anginal Attack. Proceedings of III. Asian pacific Congress of Cardiology Vol. II, 745

東京医科大学第1生理学教室

- 1) 若林 勲・佐藤侑子・大住敏子(1965) 神経刺激の時間的布置と効果器の活動(分泌神経の実験) 日本生理誌 **27**, 138
 2) 若林 勲・佐藤侑子・大住敏子・北条太久磨・山内正義・斎藤浩二(1965. 3) 唾液腺の分泌神経支配 東京医大誌 **23**, 90
 3) 高橋日出彦・池田 脩・腰野二千雄・白石武昌(1965. 10) 猫における GABA 誘導体の血圧に対する作用について 日本生理誌 **27**, 479
 4) 白石武昌・大堀哲男・小林邦久・早川近一(1965. 1) N-Trimethyl- γ -aminobutyryl-methylester の腸管に対する作用 最近医学 **20**, 211
 5) 白石武昌・小林邦久・早川近一(1965. 10) Methyl-N-trimethyl- γ -aminobutyrate chloride の発汗作用に就いて 日本生理誌 **27**, 483
 6) 高橋日出彦・白石武昌・大堀哲男・小林春雄(1965) GABA 及び類縁物質に関する研究 日本生理誌 **27**, 79
 7) 白石武昌・木下修三・小林春雄(1965) ガマ心筋におけるコリン作動性及びアドレナリン作動性機構 日本生理誌 **27**, 121
 8) 若林 勲(1965. 3) 神経衝撃パターンに関する研究 東京医大誌 **23**, 71
 9) Takahashi, H., T. Shiraishi & T. Ohbori (1965. 9) Further investigation in the pharmacophysiological activities of γ -aminobutyric acid (GABA), γ -aminobutyrylcholine and their related compounds. XXIII Inter. Cong. of Physiol. Sci. 407
 10) Kobayashi, H. (1965. 9) The action of some cholinergic and adrenergic drugs on the electrical

activity of the atrial muscle fiber of the Japanese toad. XXIII International Congress of Physiological Sciences 480

- 11) Tosaka, T. & B. Libet (1965. 9) Slow postsynaptic potentials recorded intracellularly in sympathetic ganglia of frog. XXIII Internat. Cong. Physiol. Sci. 386

日本大学医学部第2生理学教室

- 1) 遠藤英二・他(1965. 10) 犬の脳脊髄液内に投与された ^{188}Au -Colloid の体内分布について 日大医学誌 **24**
 2) 熊谷祐二・他(1965. 10) オオアワガエリ Phleum Pratense L. の発芽, 発育におよぼす Co^{60} - γ 線照射の影響 日大医学誌 **24**
 3) 矢吹幾哉(1965. 11) 原子炉内で放射線の照射をうけた豚蛔虫卵の発育について 日大医学誌 **24**
 4) Fumio Asano (1965. 3) On the Fate of Reticulocytes in the peripheral Blood in Rats caused by Internal Radiation of Radioisotopes Report I. On the Effect of Beta Radiation Emitted from P^{32} . The Nihon Univ. Journal of Medicine March 1965 No. 1, 65-83
 5) Nobutane Mort (1965. 5) On the Effects of γ -Radiation upon Development of Ascaris Eggs. The Nihon Univ. J. of Rad. Med. & Biology Vol. **2**, 49

日本大学歯学部生理学教室

- 1)* 甲田二郎(1954. 1) 塩齋における滲透圧と塩齋時間との関係条件反射 43集
 2)* 田中政雄(1954. 1) 諸種油における骨格筋の塩齋と痙縮とについて 条件反射 43集
 3)* 野田泰邦・大城 勲・藤岡 弘(1954. 1) 神経線維には Guanidin 発動はない 条件反射 43集
 4)* 丸山忠男(1954. 1) グァニジン収縮について 条件反射 43集
 5)* 三井重宝(1954. 1) Guanidin 痙攣およびその機制について 条件反射 43集
 6)* 栖原六郎・高下弘夫・他(1954. 2) 電氣的唾液分泌速度測定装置について 日本生理誌 **26** (2号)
 7)* 高橋隆雄・小高 薫・島田昌夫(1954. 2) Carnosine および Carnitine の骨格筋 K イオン移出に対する影響 条件反射 44集
 8)* 丸山忠男・難波寿夫(1954. 2) 神経軸内に与えた諸物質の電氣的刺激の閾値に対する影響 条件反射 44集
 9)* 渡辺 昭(1954. 2) 脊髄求心路の刺激による反射運動について 条件反射 44集
 10)* 高下弘夫(1954. 3) 臨床のための基礎歯学——生理学(1)—— 歯界展望 **23** (3号)
 11)* 高下弘夫・難波寿夫・高坂睦年(1954. 3) Carnosine, Homocarnosine 等の髄腔内注入法によるてんかんの治療 脳と神経 **16** (3号)
 12)* 大内広志(1954. 4) 筋および神経に対する電氣的

- 刺激の化学的解明 条件反射 45集
- 13)* 伊東祐光 (1954. 4) 中枢神経運動系の Guanidin による分析 条件反射 45集
- 14)* 清水 清・平井一雄 (1954. 4) Histidin, Histamin, Arginin の塩縮抑制力について 条件反射 45集
- 15)* 栖原六郎・高下弘夫・後藤隆文・本沢 寛 (1954. 4) 家兎生体耳下腺人工灌流に関する基礎的研究 第16回日本大学歯学会総会
- 16)* 栖原六郎・永井甲子四郎・土屋勝人・上り口寛武 (1954. 4) 唾液プラスミン系物質の研究 第16回日本大学歯学会総会
- 17)* 関 園子・荒冷政雄・原喜久江 (1954. 4) MS 痙攣と Metrazole 痙攣との関係について 条件反射 45集
- 18)* 高下弘夫 (1954. 4) 臨床のための基礎歯学 —— 生理学(2) —— 歯界展望 23 (5号)
- 19)* 高下弘夫・森 昭胤・西本 詮 (1964. 4) Treatment of Epilepsy by Intraspinal Injection of γ -Amino β -Hydroxybutyric Acid (GABOB). Folia Psychiatrica et Neurologia, Japonica 17 (4号)
- 20)* 高下弘夫・森 昭胤・西本 詮・他 (1964. 4) G-ABOB 投与による脊髄損傷患者の治療について — 頸髄損傷による四肢不完全麻痺 — 第5回 GABA, GABOB および関連物質研究会
- 21)* 高下弘夫・守本 豊・他 (1964. 4) Aminoxin 投与による吃音の治療について 第5回 GABA, GABOB および関連物質研究会
- 22)* 渡辺京子 (1964. 4) MS 痙攣に対する Ach の影響について 条件反射 45集
- 23)* 高下弘夫 (1964. 5) 臨床のための基礎歯学 —— 生理学(3) —— 歯界展望 23 (6号)
- 24)* 高下弘夫 (1964. 6) 臨床のための基礎歯学 —— 生理学(4) —— 歯界展望 23 (7号)
- 25)* 大内広志 (1964. 6) 骨格筋より抽出した塩縮抑制物質の塩蓄に対する抑制作用について 条件反射 46集
- 26)* 尾沢宏久・田中 喬・芳賀禧夫 (1964. 6) 犬の通電痙攣における脳脊髄内圧変動の実験生理学的研究 条件反射 46集
- 27)* 菊地栄三郎 (1964. 6) 末梢神経に対する電気的刺激および機械的刺激による刺激閾値の生理学的研究 条件反射 46集
- 28)* 小高 薫 (1964. 6) 単一神経線維の機械的刺激について 条件反射 46集
- 29)* 清水三忠 (1964. 6) 諸種物質による塩縮および塩蓄の潜時について 条件反射 46集
- 30)* 関 園子・海堀利重・三浦きみ (1964. 6) 制痙剤アレピアチンの制痙機制について 条件反射 46集
- 31)* 伊東祐光・益山純夫 (1964. 6) 塩酸 Guanidin の静注による致死量について 条件反射 46集
- 32)* 三浦きみ・原喜久江 (1964. 6) ティオフィロールの中中枢神経運動系に対する実験生理学的研究 条件反射 46集
- 33)* 栖原六郎・高下弘夫・関 園子 (1964. 7) An Experimental Physiological Study on Vitamin E. in Connection with Organs Controlling the Autonomic Nervous System in Rabbits. Neurologia medico-chirurgica, vol 5
- 34)* 高下弘夫・高坂陸年・西本 詮・他 (1964. 7) Treatment of Epileptic Patients by the Candidate Substances of the Inhibitory Transmitter in the General Nervous System. Neurologia medico-chirurgica, vol 5
- 35)* 青島 健・山崎勝弘・由井重光・甲田和孝 (1964. 7) 諸種 Betain の中枢神経運動系に対する作用 条件反射 47集
- 36)* 大内広志・根本英男・長田浩一・清水三忠 (1964. 7) Carnosin, Anserin および Carnitin の塩縮に対する作用 条件反射 47集
- 37)* 風間 昭 (1964. 7) 塩縮数に対するカルノシンおよびカルニチンの影響について 条件反射 47集
- 38)* 越川君子 (1964. 7) 塩蓄に対する R および X 物質の研究 条件反射 47集
- 39)* 島田昌夫 (1964. 7) 合成 Carnosin と合成 Carnitin の筋収縮催起性について 条件反射 47集
- 40)* 野田泰邦 (1964. 7) 塩縮に対する R および X 物質の研究 条件反射 47集
- 41)* 渡辺 昭・山田満雄・風間 昭 (1964. 7) 等圧 Halogen Na による塩蓄について 条件反射 47集
- 42)* 山崎勝弘・天野聖造 (1964. 7) 抽出 R および X 物質の髄液投与による運動現象について 条件反射 47集
- 43)* 大内広志・根本英男・高橋隆雄 (1964. 9) 諸種スルファミン剤の塩縮および塩蓄におよぼす影響 条件反射 48集
- 44)* 島田昌夫・野田泰邦・灘波寿夫・越川君子・甲田和孝 (1964. 9) 抽出 R 物質について 条件反射 48集
- 45)* 大内広志 (1964. 9) 諸種動物骨格筋, 脳髄, 末梢神経より塩縮催起物質の抽出およびその催起作用について 条件反射 48集
- 46)* 湯浅辰一郎 (1964. 9) 交代性痙攣に対する小脳の意義について 条件反射 48集
- 47)* 洲 健次郎 (1964. 9) 運動神経終板の伝達中断とその回復について 条件反射 48集
- 48)* 天野 恵 (1964. 12) 部分筋の塩縮に対するウレタン, 硫酸ニコチン, ヒスタジン, アドレナリン, $MgCl_2$ 等の影響について 条件反射 49集
- 49)* 末広力雄 (1964. 12) 塩縮催起物質ならびに塩縮抑制物質の中中枢神経運動系に対する作用 条件反射 49集
- 50)* 高下弘夫・本沢 寛・後藤隆文 (1964. 10) Ethyl-P-nitrophenyl-ethylphosphonate の実験生理的研究 (第2報) 臨床と研究 41 (10号)
- 51)* 高下弘夫・今井貞男・灘波寿夫 (1964. 12) 滲透圧による神経興奮伝導中断に対する Ach の防禦作用 条件反射 49集
- 52)* 長島雄三郎・磯田六合雄 (1964. 12) $CaCl_2$ および $MgCl_2$ の頸動脈注入による痙攣について 条件反

- 射 49集
- 53)* 野田泰邦・大城 昉(1964.12) 剔出臺骨格筋より Carnosin の抽出について 条件反射 49集
- 54)* 山田満雄(1964.12) 諸種呼吸抑制剤の塩蓄に対する作用 条件反射 49集
- 55)* 渡辺 昭・風間 昭(1964.12) カルノシンおよびカルニチン脊髄前角細胞に対する作用について 条件反射 49集
- 56)* 後藤隆文・本沢 寛・緑川嘉信(1964.9) 塩酸ピロカルピンの繰返し投与における家兎耳下腺分泌量の経時的变化 日本歯学 38 (5号)
- 57) 山田満雄(1965.1) 等圧 KCl および MgCl₂ 溶液による塩蓄について 条件反射 50集
- 58) 山田満雄(1965.1) 諸種 Ca 沈澱剤による塩蓄について 条件反射 50集
- 59) 湯浅辰一郎(1965.1) 塩縮および塩蓄に対する臺胆汁の抑制作用 条件反射 50集
- 60) 湯浅辰一郎・南城達也(1965.1) 小脳の化学的刺戟による諸種運動について 条件反射 50集
- 61) 渡辺 昭・湯浅辰一郎(1965.1) 髓脊腔系に投与した痙攣剤の脊髄内拡散運動について 条件反射 50集
- 62) 山田満雄(1965.2) 液体電極の形と神経刺戟閾値 条件反射 51集
- 63) 山田満雄(1965.2) 腹神経の塩蓄について 条件反射 51集
- 64) 山田満雄(1965.2) 諸種痙攣剤の塩蓄に対する作用 条件反射 51集
- 65) 山田満雄(1965.2) 諸種有機酸 Na 溶液による塩蓄について 条件反射 51集
- 66) 栖原六郎・高下弘夫・後藤隆文・本沢 寛(1965.2) 家兎の耳下腺人工灌流による分泌について (第2報) 日本生理誌 27 (2号)
- 67) 菊地栄三郎(1965.2) 骨格筋の室温と人工温度における塩蓄の比較研究 条件反射 51集
- 68) 青島 健・藤岡 弘・芳賀禧夫・奥寺恒夫(1965.3) 運動神経終板に対する NH₄Cl, NH₄OH と Tubocurarine の作用について 条件反射 52集
- 69) 菊地栄三郎・丸山忠男(1965.3) 塩縮に対する Acetylcholin および, Cholinchloride 並びに KCl, Nacitrate の影響について 条件反射 52集
- 70) 甲田二郎(1965.3) 諸種作用物質の皮質投与および頸動脈, 髄液投与の運動現象の比較 条件反射 52集
- 71) 栖原六郎・緑川嘉信・後藤隆文・武笠 晋・斎木 稔(1965.3) 家兎の耳下腺人工灌流による実験的研究 日本歯学 39 (2号)
- 72) 栖原六郎・高下弘夫・林 巖(1965.3) Mechanism of Secretion of Resting Saliva in Men. Keio J. of Medicine 14 (1号)
- 73) 高下弘夫・今井貞男・丸山忠男(1965.3) 脱鞘神経の電氣的刺戟閾値に対する抽出 R および抽出 X の影響 条件反射 52集
- 74) 高下弘夫・川崎 博・本沢 寛・田中 豊・関口益次郎(1965.3) 体温上昇家兎における耳下腺活動についての研究 日本歯学 39 (2号)
- 75) 田口幸逸・青島 健・山崎勝弘・藤岡 弘(1965.3) 塩縮外液の NH₃ 量について 条件反射 52集
- 76) 難波寿夫・大城 昉・野田泰邦(1965.3) 剔出骨格筋の NH₄Cl の収縮に対する Acetylcholin の影響について 条件反射 52集
- 77) 丸山忠男・難波寿夫・中城基裕(1965.3) 筋各部の電氣的刺戟による閾値に対する諸種物質の影響 条件反射 52集
- 78) 三浦きみ・荒冷政雄(1965.4) Aconitine 収縮に対する各種物質の影響について 条件反射 53集
- 79) 原 喜久江・伊藤東洋司・荒冷政雄(1965.4) Methionine Sulfoximine と Cystine Sulfoximine との中枢神経系に対する作用の比較 条件反射 53集
- 80) 高下弘夫(1965.4) 生理 医歯薬出版株式会社 東京
- 81) 関 園子・海堀利重・渡辺京子(1965.4) 諸種色素の催癩作用について (その1) 条件反射 53集
- 82) 栖原六郎・高下弘夫・伊藤東洋司(1965.4) 固有唾液量と反射唾液量とに対する Vitamin B 類の影響 条件反射 53集
- 83) 奥寺恒夫・滝川幸作・荒冷政雄(1965.4) 間代性痙攣に対する 2,4 ジニトロフルオルベンゼンの作用 条件反射 53集
- 84) 海堀利重・田水 汀・伊藤東洋司(1965.5) 諸種色素の催癩作用について (その3) 条件反射 54集
- 85) 栖原六郎・永井甲子四郎・佐野彰信・土屋勝人・矢崎 昌(1965.5) Ehrlich 腹水瘡に対する諸種脂肪酸の瘡抑制作用 第6回 GABA, GABOB および関連物質研究会
- 86) 関 園子・海堀利重・渡辺京子(1965.5) 諸種色素の催癩作用について (その2) 条件反射 54集
- 87) 高下弘夫・西本 詮・難波寿夫・他(1965.5) GABOB および Carnosin 誘導体の脊髄腔内注入によるてんかん治療について (第3報) 第6回 GABA, GABOB および関連物質研究会
- 88) 永井甲子四郎・土屋勝人・上り口寛武・佐野彰信・矢崎 昌(1965.2) 口腔領域における Plasmin 系物質の研究 日本生理誌 27 (2号)
- 89) 三浦きみ・原 喜久江・荒冷政雄(1965.5) EDTA の骨格筋及び, 運動中枢に対する作用 条件反射 54集
- 90) 芳賀禧夫(1965.6) 中枢神経興奮伝達物質の生成とクエン酸廻路との関係 条件反射 55集
- 91) 高下弘夫・本沢 寛・緑川嘉信(1965.6) ウサギの体温上昇に伴なう唾液腺活動にたいするビタミン E の影響 ビタミン 32 (1号)
- 92) 高下弘夫(1965.6) 日本条件反射学会第4回総会を主催して 条件反射 55集
- 93) 甲田和孝(1965.6) 中枢神経系運動系に対する Pyridoxine 並に Pyridoxal の二重作用に就いて 条件反射 55集
- 94) 奥寺恒夫(1965.7) 中枢神経興奮伝達物生成に対するエネルギー供与基質について 条件反射 56集

- 95) 田水 汀(1965. 7) Methionine Sulfoximine 痙攣の特徴とその痙攣機制 条件反射 56集
- 96) 海堀利重(1965. 8) グアニジンおよび二、三の物質の犬中枢神経化学的伝達物質の生成および阻害に対する作用 条件反射 57集
- 97) 青島 健(1965. 8) グルタミン酸ナトリウム痙攣とグルタミン酸痙攣との比較 条件反射 57集
- 98) 山口勝広・渡辺京子(1965. 8) 中枢神経運動系に対する BTMP の作用について 条件反射 57集
- 99) 山口勝広(1965. 9) DL-Methionine-dl-Sulfoximine による臍痛重症症について 条件反射 58集
- 100) 吉原栄之助・海堀利重(1965. 9) モルモット脳髓切片の酸素消費に対する諸種阻害剤の研究 条件反射 58集
- 101) 永井甲子四郎・土屋勝人・上り口寛武・矢崎 昌・佐野彰信・関口益次郎・田中 豊・武笠 晋(1965. 9) 家兎唾液中のプラスミン系物質の生理学的研究 歯科基礎医学誌 7 (1号)
- 102) 本沢 寛・斉木 稔・後藤隆文・高下弘夫・緑川嘉信・栖原六郎・関 園子(1965. 9) 加温による家兎の耳下腺活動に関する研究 歯科基礎医学誌 7 (1号)
- 103) 吉原栄之助(1965. 10) 高等動物脳髓切片の陽性並びに陰性物質生産のための酸素消費について 条件反射 59集
- 104) 山崎勝弘(1965. 10) 塩堯に対する GABA, GABOBおよびその他の ω アミノ酸並びに β hydroxy アミノ酸の抑制作用について 条件反射 59集
- 105) 由井重光(1965. 11) 犬大脳半球における β hydroxy glutamin 酸の存在について 条件反射 60集
- 106) 磯田六合雄・青木誠一(1965. 11) 脳髓腔系投与の酸痙攣およびアルカリ痙攣について 条件反射 60集
- 107) 伊藤東洋司・原喜久江・三浦きみ(1965. 11) 植物油並びに造影剤脳室投与時における通電痙攣の実験的観察 条件反射 60集
- 108) Rokuro Suhara, Hiroo Takashita, Takashi Hayashi and Kiyoshi Ohkame (1965. 3) Mechanism of secretion of resting saliva in men. Keio J. of Medicine 14 (No.1)
- 109) Suhara, R., H. Takashita and S. Yazaki (1965. 9) Study on the parotid salivary secretion due to taste stimuli in rabbits. The II international symposium on olfaction and taste.
- * 印は前年度脱落分
- 昭和大学医学部第1生理学教室**
- 1) 田口 仁(1965. 1) 骨格筋細胞膜の研究 第1報 浸透現象について 昭医会誌 24 (10), 10
- 2) 野口光男(1965. 1) 平滑筋負傷電位の研究 昭医会誌 24 (10), 10
- 3) 野口岩男(1965. 3) 尿管の負傷電位について 昭医会誌 24 (12), 1-4
- 4) 井上清恒・野口岩男(1965. 2) 平滑筋の負傷電位と活動電位について 日本生理誌 27 (2), 133
- 5) 武重千冬(1965. 2) 上頸交感神経節の興奮伝達の抑制と促進 日本生理誌 27 (2), 89
- 6) 野口岩男(1965. 8) 尿管の活動電位と膜電位 第7回平滑筋学会抄録 p28
- 7) 井上一也・安藤幸彦(1965. 8) 尿管の活動電位と収縮について 第7回平滑筋学会抄録 p28
- 8) Chifuyu Takeshige (1965. 9) The effects of Calcium and Barium on sympathetic ganglia. Abstract of Papers Presented at XXIII International Congress of Physiological Science p. 1151
- 9) 野口岩男・大坪芳臣・岡 保人・大石和彦・伊豫亨・田口 仁(1965. 9) 尿管の活動電位波形と負傷電位 昭医会誌 25 (5. 6) 8-10
- 10) 大津瑛子・田口 仁・大石和彦・永富整彦(1965. 10) 骨格筋形質膜の水分透過に関する研究 昭医会誌 25 (7), 7-11
- 11) Koichi Iguchi (1965. 10) Studies on the refractory period in myelinated nerve fibers. Electro-physiology 24, 1-28
- 12) 田口 仁(1965. 10) 骨格筋細胞膜の水浸透性研究 Electro-physiology 24, 29-39
- 13) 金子卯時雨(1965. 10) Tetraethylammonium 神経の興奮性回復過程について Electro-physiology 24, 41-59
- 14) 野口岩男・森 有永・清水弘一・松永 昂(1965. 11) 尿管の膜電位について 昭医会誌 25 (8), 42-45
- 東邦大学医学部第1生理学教室**
- 1) 朝比奈一男・小村京子(1965) The Transient narcotic stage with Inverse Responses to Ischiadic stimulus. APSS
- 2) 朝比奈一男・小村京子(1965. 9) Dissociation between Physiological Functions during Barbiturate narcosis. ICPS 448
- 3) 朝比奈一男・中川功哉・他(1965. 11) ポリグラフによる低圧耐性の研究 第3回日本生気象学会抄録
- 4) 中川功哉・浅野勝己・他(1965. 10) 低圧による諸臓器の変化 第19回日本体力医学会総会抄録 p13
- 5) 朝比奈一男・他(1965. 10) メキシコに於ける日本選手の体力医学的考察 第19回日本体力医学会(特講)抄録
- 6) 朝比奈一男(1965. 11) 睡眠中の機能解離 条件反射 61集
- 7) 大島知一(1965) 錐体路細胞の反回性シナプス電位について 日本生理誌 27, 79-80
- 8) 大島知一(1965) 錐体路細胞における興奮の順応 日本生理誌 27, 80
- 9) 大島知一(1965) 皮質運動領錐体路細胞の機能分化 日本生理誌 27, 62
- 10) 大島知一(1965) 錐体路細胞の機能分化 脳と神経 17, 1111-1113
- 11) 大島知一(1965) Microelectrode studies on two types of pyramidal tract cells in the cat. Abst. 23th Int. Cong-Physiol. Sci. p936

- 12) 大島知一(1965) 中枢神経系について 生体の科学 **16**, 134-135
 13) 朝比奈一男(1965.7) ねむりの生理学 中外医学社出版 東京

東邦大学医学部第2生理学教室

- 1) 塚田裕三(1965.9) 脳のミクロゾーム 蛋白質・核酸・酵素 **10** (4), 60-67
 2) 平野修助・野口鉄也・塚田裕三(1965.9) 白鼠および猿による実験的フェニルケトン尿症の研究 神経研究の進歩 **9** (3), 467-474
 3) 永田 豊・横井幸雄・塚田裕三(1965.9) 白鼠剔出交感神経節のアミノ酸代謝の研究 神経研究の進歩 **9** (3), 548-552
 4) 永田 豊(1965.9) 記憶と核酸 ——記憶の分子仮説 生物々理 **5** (5), 257-272
 5) 塚田裕三・松谷天星丸・植村慶一(1965.9) 家兔摘出網膜でのアミノ酸および核酸の代謝 神経化学 **4** (Suppl.), 33-36
 6) 永田 豊・横井幸雄・塚田裕三(1965.9) 白鼠剔出交感神経節のアミノ酸輸送と活動電位 神経化学 **4** (Suppl.), 37-38

順天堂大学医学部生理学第1講座

- 1) 竹内 昭・竹内宣子(1965.2) ザリガニ骨格筋に及ぼす GABA の作用 日本生理誌 **27**, 128
 2) Takeuchi, A. & N. Takeuchi (1965.3) Localized action of gamma-aminobutyric acid on the crayfish muscle. J. Physiol. **117**, 225

順天堂大学医学部生理学第2講座

- 1) 鷺尾 宏・阿部恒太郎(1965.1) ウサギの網膜血管平滑筋の膜電位 日本生理誌 **27**, 39-40
 2) 真島英信(1965.2) 結腸紐における自発性収縮の性質 日本生理誌 **27**, 68
 3) 真島英信・土屋尚子・鷺尾 宏(1965.2) 交流刺激による骨格筋の収縮 日本生理誌 **27**, 132
 4) 真島英信(1965.5) 筋収縮の物理的性質 新生理学問答・内蘊編 第2版 98-138
 5) 鷺尾 宏・阿部恒太郎(1965.7) 網膜血管筋の膜電位について 日本生理誌 **27**, 371
 6) 真島英信(1965.8) 平滑筋の長さとの関係 日本生理誌 **27**, 414
 7) 真島英信(1965.8) 収縮の大きさに影響を与える要因 医学のあゆみ **54**, 385-391
 8) 真島英信・吉田敏郎(1965.9) Taenia coli の興奮性および収縮性におよぼす伸張の影響 日平滑筋誌 **1**, 129
 9) Mashima, H., Nakayama, Y., Washio, H. and Tsuchiya, H. (1965.9) On the coupling relation between depolarization of membrane and contraction in frog skeletal muscle. Abstracts of Papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences 345
 10) 真島英信(1965.9) 筋収縮の生理学的研究 生物物理学講座 **6**, 25-31

- 11) Mashima, H. and Washio, H. (1965.9) Comparison of the twitch potentiations produced by anions and cations in frog skeletal muscle. Molecular biology of muscular contraction 177-189
 12) Mashima, H. and Yoshida, H. (1965.10) Effect of length on the development of tension in guinea-pig's taenia coli. Jap. J. Physiol. **15**, 463-477

順天堂大学体育学部生理学研究室

- 1) Ayako Ishida & W. W. Douglas (1965) The stimulant effect of cold on vasopressin release from the Neurohypophysis in vitro. J. Physiol. (London) **179**, 185-191

順天堂大学体育学部運動生理学研究室

- 1)* 青木純一郎・池田和夫・喜多 弘・三宅章介(1964.12) インターバル・トレーニングに関する生理学的研究 I. 短距離走における回復過程の酸素摂取量, 心拍数並びに酸素脈について 順天堂大学体育学部紀要 **7**, 1-10
 2) 池田和夫(1965.2) Fibrillar muscle の機能とその神経支配 2. 鞘翅目昆虫の Basalar muscle 日本生理誌 **27**, 131
 3) 青木純一郎・池田和夫・喜多 弘・三宅章介(1965.6) 各種運動負荷における回復過程と酸素脈について 体力科学 **14**, 学58
 4) Kita, H., K. Ikeda, J. Aoki & S. Miyake (1965.9) Oxygen intake, heart rate and oxygen pulse during recovery processes from various distance runnings in relation to interval training. Abstracts of Papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences.
 5) Ikeda, K. (1965.9) The electrical activity of the longitudinal muscle of the fly, *M. domestika*. Abstracts of Papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences
 6) Kazuo Ikeda and Edward G. Boettiger (1965) Studies on the flight mechanism of insects. II. The innervation and electrical activity of the fibrillar muscle of the beetle, *Oryctes rhinoceros*. J. Insect Physiol. **11**, 779-789
 7) Kazuo Ikeda and Edward G. Boettiger (1965) Studies on the flight mechanism of insects. III. The innervation and electrical activity of the fibrillar muscle of the bumble bee. J. Insect Physiol. **11**, 790-802

* 印は前年度脱落分

東京女子医科大学第1生理学教室

- 1) 番 門羅(1965.2) 妊娠中におけるモルモット仔肝, 母肝の酸素代謝について 東女医大誌 **35**, 163
 2) 佐瀬クララ(1965.3) ヒトヘモグロビン溶液の酸素解離曲線に関する研究 第1報 高濃度および低濃度溶液の解離曲線の比較 東女医大誌 **35**, 211
 3) 蓑島 高・草地良作・日高紀子・竹宮 隆・佐瀬

- クララ(1965.3)人工血色素に関する研究Ⅲ.人工血色素溶液の可逆的酸素結合能に関する光電比色的研究 東女医大誌 35, 220
- 4) 簗島 高・竹宮 隆・草地良作・日高紀子(1965.3)人工血色素の応用に関する研究 I. 2種のコバルトヒスチジン調製液がウサギの呼吸循環系に及ぼす影響について 東女医大誌 35, 224
- 5) 簗島 高・草地良作・竹宮 隆・日高紀子・坂本武子・赤沼君江・黒島淳子(1965.3)人工血色素の応用に関する研究 II. ウキギ出血性ショック時の酸素消費よりみた人工血色素溶液の効果について 東女医大誌 35, 230
- 6) 簗島 高・竹宮 隆・日高紀子・草地良作(1965.3)人工血色素の応用に関する研究 III. ガマの摘出心臓標本に対する人工血色素溶液の効果について 東女医大誌 35, 238
- 7) 佐瀬クララ(1965.4)ヒトヘモグロビン溶液の酸素化の可逆性について 東女医大誌 35, 302
- 8) 黒島淳子(1965.4)人胎盤の経月的酸素消費のオキシングラフ的研究 東女医大誌 35, 307
- 9) 黒島淳子(1965.4)妊娠モルモット胎盤の妊娠経過中の酸素消費について 東女医大誌 35, 318
- 10) 潘 門羅・黒島淳子(1965.4)妊娠中におけるモルモット母腎の酸素消費について 東女医大誌 35, 323
- 11) 潘 門羅・黒島淳子(1965.4)妊娠中におけるモルモット子宮の酸素消費について 東女医大誌 35, 328
- 12) 黒島淳子・潘 門羅(1965.4)モルモット胎盤の酸素消費に対するNa, KおよびChlorpromazineの影響について 東女医大誌 33, 332
- 13) 橋本葉子(1965)人工呼吸下における鯉網膜S電位に対する明暗順応の効果 東女医大誌 35, 391
- 14) 竹宮 隆(1965)労作時の無線搬送心電図と体位の問題について 東女医大誌 35, 601
- 15) 竹宮 隆(1965)ヒキガエルおよびカメ灌流心臓に対する酸素化コバルトヒスチジンの酸素運搬能に関する研究 日本生理誌 27, 550
- 16) 豊田順一・橋本葉子・伊藤寛志(1965)逆方向性刺激に対する網膜神経節細胞の応答 慶応医学 42, 221
- 17) Watanabe, K. and Hashimoto, Y. (1965) S-potential in light and dark adaptation of the live carp. Abstracts of XXIII International Congress of Physiological Sciences, 361
- 18) Brown, K. T. and Watanabe, K. (1965) A neural stage of adaptation between receptors and inner nuclear layer of the monkey retina. Science 148, 1113
- 東京女子医科大学第2生理学教室
- 1) 田中一郎・佐々木 優(1965.2)カプトガニ心筋線維の電気的活動について 日本生理誌 27, 111
- 2) 菊地鎌二・植木キク子(1965.2)光受容器活動電位発生部位の検索 日本生理誌 27, 144
- 3) 佐々木 優(1965.3)魚類の網膜活動電位発生層について 慶応医学 42, 179-189
- 4) 植木キク子・菊地鎌二(1965.4)チオニンによるカプトガニ網膜の染色におよぼす要因について 東女医大誌 35, 293-301
- 5) 田中一郎・佐々木 優(1965.6)神経原性心臓の活動機構 東女医大誌 35, 451
- 6) 田中一郎・佐々木 優・新村日出夫(1965.9)神経原生心臓におけるシナプス電位の分析 東女医大誌 35, 525
- 7) Kikuchi, R., Ihnuma, M. & Tachi, S. (1965) Different cellular components in ommatidia of Horseshoe crab, *Tachypleus tridentatus*. Naturwiss., 10, 265
- 8) Kikuchi, R. & Ueki, K. (1965.9) Localization of action potentials arising within single ommatidia of Horseshoe crab, *Tachypleus tridentatus*. Intern. Cong. Physiol. Sci.
- 9) Kikuchi, R., Ihnuma, M., Hokura, S. & Ueki, K. (1965.9) Cellular organization of lateral eye of Horseshoe crab, *Tachypleus tridentatus*. Symp. Comp. Neurophysiol.
- 10) Kikuchi, R. & Ueki, K. (1965) Double-discharges records from single ommatidia of Horseshoe crab, *Tachypleus tridentatus*. Naturwiss., 15, 458
- 11) 菊地鎌二(1965.12)光受容系における情報処理の初期過程 東女医大誌 35, 717
- 東京歯科大学生理学教室
- 1) 野村浩道・坂田三弥(1965.2)蛙舌の水応答について 日本生理誌 27, 95
- 2) 加藤元一・伊藤秀三郎・坂田三弥・葛西四朗(1965.2)単一交感, 副交感神経線維のheart rateにおよぼす刺激効果ならびに心臓枝の洞房分布について 日本生理誌 27, 121
- 3) 坂田三弥・神尾英次・吉住典也・福田 博(1965.3)顔面, 口腔上皮内受容器の自発性放電の特性について 歯科学報 65, 205-206
- 4) 谷本義文・田口真也・相田英孝(1965.3)齶蝕罹患と唾液pHの日変動等における問題点について 歯科学報 65, 206-207
- 5) 谷本義文・相田英孝・田口真也(1965.3)唾液流量より見たる齶蝕との関連性について 歯科学報 65, 207
- 6) 葛西四朗・神尾英次・吉住典也・田口真也(1965.4)Dilantin 短期投与時の白ねずみ歯齶内膠原線維物質の消長について 歯科学報 65, 304-308
- 7) 葛西四朗・相田英孝・福田 博(1965.5)Dilantin 短期投与白ねずみ歯齶における肥満細胞の変動について 歯科学報 65, 328-332
- 8) 野村浩道(1965.6)Potassium Contracture and its Modification by Cations in the Heart Muscle of the Marine Mollusc, *Dolabella Auricula*. Jap. J. Physiol. 15, 253-269
- 9) 野村浩道・坂田三弥(1965.8)カエル舌の“水応答”

- について 歯科学報 **65**, 501-502
- 10) 坂田三弥・神尾英次(1965.9) 顔面, 口腔上皮等における受容器の自発性放電の特性について 歯科基礎医学誌 **7**, 21
 - 11) 葛西四朗・谷本義文・神尾英次・吉住典也・田口真也・相田英孝・福田 博(1965.9) ジランチン短期投与による白ねずみ歯齦の諸変化について 歯科基礎医学誌 **7**, 6
 - 12) 野村浩道・坂田三弥(1965.10) On the "Water Response" of Frog's Tongue. Jap. J. Physiol **15**, 433-443
 - 13) 谷本義文・佐藤久美子・永田義昭・増田進致・坂田三弥(1965.12) PTC に対する味覚について 歯科学報 **65**, 723
 - 14) 谷本義文・佐藤久美子・増田進致・永田義昭・坂田三弥(1965.12) PTC 各閾値群に見られる化学物質感受性について 歯科学報 **65**, 724
 - 15) 野村浩道・坂田三弥(1965.12) 蛙舌の機械的及び化学的受容器の関係について 歯科学報 **65**, 763-764
 - 16) 前田耕道・葛西四朗・坂田三弥(1965.12) 顎骨, 骨膜にかんする深部感覚の特性について (1) 歯科学報 **65**, 764-765
 - 17) Kato, G., H. Itow and S. Sakada(1965.9) Isolation of the Single Adrenergic and the Single Cholinergic Fibers in the Cardiac Vagus Nerve, and also in the Cardiac Sympathetic Nerve. XXIII Intern. Congr. Physiol. Science Abst. No. 1152

東京教育大学理学部動物生理学講座

- 1)* 藍 尚礼(1964.12) フナムシ心筋の細胞内電位について 動物誌 **73**, 357
- 2)* 松井喜三(1964.12) イセエビの心臓神経節細胞に於けるペースト形成について 動物誌 **73**, 357
- 3)* 江原有信(1964.12) マガキ心筋細胞の相互作用, 特に活動の協調について 動物誌 **73**, 360
- 4)* Ebara, A.(1964.12) Effect of restricted conduction pathway on the transmembrane potential of oyster myocardium. Sc. Rep. Tokyo Kyoiku Daigaku, B, **12**, 1-8
- 5)* Ebara, A.(1964.12) Interaction between connected half-ventricles in the oyster. Sc. Rep. Tokyo Kyoiku Daigaku, B, **12**, 9-19
- 6) 藍 尚礼(1965.4) 甲殻類フナムシ心臓の自動性に関する研究 日本生理誌 **27**, 220
- 7) 江原有信(1965.7) カキ心臓の pacemaker 活動について 日本生理誌 **27**, 371

* 印は前年度脱落分

東京教育大学スポーツ研究施設

- 1) 小川新吉・勝田 茂(1965.2) 持久力におよぼす高地トレーニングの効果 体育の科学 **15** (2), 94-100
- 2) 小川新吉・勝田 茂・他7名(1965.7) 登山の体力科学的研究 (第1報) 立山大集会における登山者の体力と運動 東京教育大学スポーツ研究所報 **3**, 1-12
- 3) 小川新吉・勝田 茂・他7名(1965.7) 能力について (第2報) 夏山における体力と疲労 東京教育大学スポーツ研究所報 **3**, 13-19
- 4) 小川新吉・井川幸雄・勝田 茂・他4名(1965.7) 運動負荷の血清 Transaminase 活性値, 乳酸脱水素酵素活性値におよぼす影響について 東京教育大学スポーツ研究所報 **3**, 20-30
- 5) 小川新吉・勝田 茂・太田善久(1965.7) 簡易脈拍測定装置 (Pulse-meter) とその体力測定への応用について 東京教育大学スポーツ研究所報 **3**, 59-64
- 6) 小川新吉(1965.8) 高地トレーニング 医学のあゆみ **56** (6), 368-369

早稲田大学教育学部体育生理

- 1) 伊藤秀三郎・榎本岩司(1965.12) 自律神経緊張状態の簡易判定法に就いて 学術研究 (早大教育学部) **23**-28
- 2) 伊藤秀三郎(1965.12) 唾液分泌様相から見た振動の影響に就いて 大学紀要 (第十輯) (和洋女子大学) **34**-39

国立公衆衛生院生理衛生学部

- 1)* 浅野牧茂・吉田敬一・田多井吉之介(1964.2) Rabbit Ear Chamber 法により観察した微細循環におけるいくつかの周期変化について 日本生理誌 **26** (2), 58
- 2)* 浅野牧茂(1964.2) 暖冷房と生理衛生 暖房 **4** (31), 2-9
- 3)* Osada, Y. and Ogawa, S.(1964.3) Basophilia and eosinophilia in blood and peritoneal cavity produced by intraperitoneal challenging injection in the immunized guinea pig. Bull. Inst. Publ. Health **13** (1), 1-10
- 4)* 田多井吉之介(1964.3) 精神身体医学の進歩 公衆衛生の進歩と展望 第一出版 東京 **227**-229
- 5)* 浅野牧茂・吉田敬一・田多井吉之介(1964.6) Rabbit Ear Chamber 法による微細循環動態の研究法について 生体の科学 **15** (3), 146-150
- 6)* 浅野牧茂・吉田敬一・田多井吉之介(1964.6) Rabbit Ear Chamber 法によって観察した高温環境の微細循環におよぼす影響について 日温気物誌 **28** (1, 2), 82
- 7)* Asano, M.(1964.6) A further modification of rabbit ear chamber for pharmacological research on microcirculation. Jap. J. Pharmacol. **14** (2), 225-226
- 8)* 田多井吉之介(1964.6) ホルモンの科学 光生館, 東京
- 9)* 田多井恭子・小笠原祥子・高根沢晴子・田多井吉之介(1964.7) 紫外線照射による皮膚の黒化に及ぼすビタミン剤内服の影響 治療 **46** (7), 1315-1318
- 10)* 浅野牧茂(1964.9) タバコとビタミンCについて

- 薬局 **15** (9), 1133-1135
- 11)* Asano, M., Yoshida, K. and Tatai, K. (1964. 9) Blood flow rate in the microcirculation as measured by photoelectric plethysmography. *Bull. Inst. Publ. Health* **13** (3), 201-204
- 12)* 浅野牧茂・吉田敬一・田多井吉之介 (1964. 10) Rabbit Ear Chamber 法により観察した高温環境の微細循環におよぼす影響について 生体の科学 **15** (5), 245-251
- 13)* Asano, M., Yoshida, K. and Tatai, K. (1964) The influence of changes of ambient temperature on the microcirculatory vasculature. *Int. J. Biometeor.* **8** (1), 86
- 14) 浅野牧茂・吉田敬一・田多井吉之介・山本通隆・矢井田光一 (1965. 2) 家兎耳末梢循環の周期性に関する実験的研究 日本生理誌 **27** (2), 113
- 15) 田多井吉之介・長田泰公・綱島清三・吉田敬一・小川庄吉・浅野牧茂・広川章子・春田清子 (1965. 3) 騒音の人体影響に関する研究 第1部 騒音の生理機能におよぼす影響に関する研究 騒音振動防止に関する総合研究 研究報告書 (科技厅) I, 84-115
- 16) 小川庄吉・長田泰公・仲野 一・喜多幸一・田多井恭子 (1965. 4) ベンゼン業務従業者の健康管理 健康管理 **130**, 39-42
- 17) 田多井吉之介 (1965. 4) 熱帯の栄養と食糧管理 4. ストレスと栄養 熱帯医学報 **6** (1), 45-46
- 18) 浅野牧茂・吉田敬一・田多井吉之介 (1965. 7) Microphotoelectric plethysmography による微細循環動態の研究法について 医用電子と生体工学 **13** (3), 246
- 19) 浅野牧茂・吉田敬一・田多井吉之介・小林茂樹・清原寿一・立石一真 (1965. 7) 末梢血管における血液量の測定と記録 医用電子と生体工学 **13** (3), 246-247
- 20) 矢井田光一・小林茂樹・山本通隆・立石一真・浅野牧茂・吉田敬一・田多井吉之介 (1965. 7) 周波数応答法による家兎耳末梢循環の周期性に関する実験的研究 医用電子と生体工学 **13** (3), 247
- 21) 長田泰公 (1965. 8) 末梢好酸球数と好塩基球数の季節変動について 日本血液会誌 **28** (4), 465
- 22) 浅野牧茂 (1965. 8) 寒冷と暖房の生理と成人病をめぐって 暖房 **4** (8), 134-145
- 23) Asano, M., K. Yoshida and K. Tatai (1965. 9) Microphotoelectric plethysmography using a rabbit ear chamber. *J. Appl. Physiol.* **20** (5), 1056-1062
- 24) 長田泰公・小川庄吉・春田清子 (1965. 9) 甲状腺ホルモンおよび甲状腺刺激ホルモンのウサギの流血中好酸球数と好塩基球数におよぼす影響 公衆衛生院研究報告 **14** (3), 167-174
- 25) Asano, M., K. Yoshida, K. Tatai, K. Yaida, S. Kobayashi, J. Kiyohara, M. Yamamoto and K. Tateisi (1965. 9) Analytical studies on the rhythmic fluctuation of microcirculation by the rabbit ear chamber technique. *Dig. 6th Int. Conf. ME & BE* 72-73
- 26) Asano, M., K. Yoshida and K. Tatai (1965. 9) Experimental studies on the rhythmic fluctuation of peripheral circulation in rabbit ear chamber. *Abstr. XXIII Int. Congr. Physiol. Sci.* 153
- 27) 浅野牧茂 (1965. 9) Rabbit ear chamber 法による Microcirculation 動態の研究法について 脈管学 **5** (1), 173-175
- 28) 吉田敬一 (1965. 9-11) 空気調和の生理学(1)-(3) 冷凍空調技術 **16** (9), 27-33, **16** (10), 37-42, **16** (11), 41-45
- 29) 小川庄吉・長田泰公・田多井吉之介 (1965. 10) 都市ガス配管工事作業環境の CO 濃度と配管工の血液中 CO 濃度の関係について 健康管理 **136**, 37-42
- 30) 長田泰公 (1965. 11) 騒音の生体機能におよぼす影響 (綜説) 科技厅 p. 35
- 31) Tatai, K. (1965) Adrenal response during acute exposure to low pressure. *Int. J. Biometeor.* **9** (1), 63
- * 印は前年度脱落分

(財) 労働科学研究所

- 1) 飯田裕康 (1965. 1) 連続選択反応時間測定装置の試作 (1) 労働科学 **41** (1), 37-40
- 2) 三浦豊彦・外 (1965. 2) 冷房の至適温度に関する研究 (5) ——筋労作の至適温度について—— 労働科学 **41** (2), 56-85
- 3) Kogi, K. et al. (1965) Die relativ Wirkung isometrischen und dynamischen Trainings auf die Ausdauer bei dynamischer Arbeit. *Int. Z. angew. Physiol.* **20** (6), 465-481
- 4) Kogi, K. et al. (1965) Die Arbeitspulsfrequenz als Indicator für langfristige Muskelermüdung. *Int. Z. angew. Physiol.* **20** (6), 493-497
- 5) 鈴木伊豆美・外 (1965. 4) 長期夜勤継続に関する生化学的研究 (2) 労働科学 **41** (4), 167-174
- 6) Miura, T. et al. (1965. 6) On the Optimum Temperature of Room Cooling for Workers in Summer in relation to Outdoor Temperature. *Rep. of the Institute for Science Labour* **64**, 1-15
- 7) 沼尻幸吉 (1965. 9) エネルギー代謝率の恒常性に関する研究 労働科学 **41** (9), 435-440

国立がんセンター

- 1) 久留 勝 (1965. 7) Nervous control of micturition *Physiol. Reviews* Vol. **45**, 425-494
- 2) 久留 勝・小山崎夫・尾崎秀雄・山本 浩 (1965. 2) 骨盤神経中枢端の電気刺激に対する外尿道括約筋、会陰筋、腹筋、肋間筋、横隔膜等の態度について 日本生理誌 **27**, 123

鉄道労働科学研究所労働生理研究室

- 1) 橋本邦衛・他 (1965. 3) 蒸気機関車乗務員におよぼす急行列車と普通列車の乗務負担の比較 鉄道勞

- 働科学 16, 1-22
- 2) 白井 薫・他 (1965. 3) 貨車の足台と握り棒の位置が構内作業掛の貨車添乗姿勢に与える静的負担 鉄道労働科学 16, 23-36
 - 3) 橋本邦衛・他 (1965. 3) 山間峡谷道路の長時間運転によるバス運転士の作業負担と疲労 鉄道労働科学 16, 37-52
 - 4) 橋本邦衛 (1965. 8) 疲労の測定 計測と制御 4, 555-559
 - 5) 橋本邦衛 (1965. 3) 新幹線電車運転室の人間工学 交通医学 19, 191-194
 - 6) 橋本邦衛 (1965. 4) 生体負担からみた人間機械系の適合条件 工業技術 6 (4), 30-35
 - 7) 橋本邦衛・他 (1965. 10) 環状線における電車運転士の生理的負担と疲労 鉄道労働科学 17, 1-24
 - 8) 白井 薫・他 (1965. 10) 速度差による電車運転の生理的負担 鉄道労働科学 17, 25-46
 - 9) 橋本邦衛・他 (1965. 10) ディーゼル機関車乗務員の運転の生理的負担と折返時間の長短による復路乗務の影響 鉄道労働科学 17, 47-66
 - 10) Hashimoto, K. (1965. 12) Estimation of the driver's work load in high speed electric car operation on the New Tokaido Line in Japan. Ergonomics Special Supplement, 463-469
- 明治生命厚生事業団体力医学研究所**
- 1) Shinji Katsuki (1965. 2) Physical growth and development of children in postwar Japan. 体力研究 No. 4, 1-24
 - 2) Makoto Masuda and Tōru Mihara (1965. 2) Automatic indirect determination of arterial blood pressure during exercise. 体力研究 No. 4, 25-33
 - 3) 増田 允・勝田和枝 (1965. 2) ゴルフスウィングの動作分析 (1) ティンショットスウィング時のクラブシャフトの歪と指圧力の連続記録について 体力研究 No. 4, 42-46
 - 4) 増田 允・芝山秀太郎・江橋 博 (1965. 7) 循環呼吸機能の解析による中高年者の運動至適量の検索 体力研究 No. 6 55-72
 - 5) 堤 達也・黒沢和江・清水由利子 (1965. 7) 中高年者における長期体操の効果 尿電解質構成比の有用性 体力研究 No. 6 73-79
 - 6) 増田 允・芝山秀太郎・竹本 洋 (1965. 7) 体研式腕筋力計, 脚筋力計の試作について 体力研究 No. 6 109-113
 - 7) 増田 允・竹本 洋 (1965. 7) 筋力の性差について 体力研究 No. 6 114-127
- 航空医学実験隊**
- 1) 藤原 弘 (1965. 1) 異常環境下における体温変化に関する研究 (第1報) 夏季においてラットを直射日光下に暴露したさい, ならびに直射日光を遮蔽したさいの体温変化 実験動物 14 (1号)
 - 2) 横堀 栄 (1965. 2) 宇宙環境における生存の生理 日本生理誌 27, 56
 - 3) 藤江善一郎 (1965. 2) テレメーターによる飛行中の生体現象の観察 日本生理誌 27, 102
 - 4) 池上晴夫 (1965. 2) 予備的酸素吸入の窒素負荷による hypoxia に対する予防効果について 日本生理誌 27, 103
 - 5) Ryohei Yurugi, F. W. Zechman, Tr., and M. F. Wilson (1965. 3) Respiratory Fluctuations of Left and Right Ventricular Outflows. Federation Proceedings 24, 706
 - 6) 藤原 弘 (1965. 3) 異常環境下における体温変化に関する研究 (第2報) ウサギ, ハトおよびラットを人工的高温環境に暴露したさいの体温変化 実験動物 14 (2号)
 - 7) 横堀 栄 (1965. 3) 東京オリンピック競技部報告 ホッケーの部 東京オリンピックスポーツ科学研究報告 (日本体育協会) 233
 - 8) 横堀 栄 (1965. 3) スポーツマンの形態について 東京オリンピックスポーツ科学研究報告 (日本体育協会) 561
 - 9) 横堀 栄 (1965. 5) 宇宙環境と健康 学校保健研究 64号, 11
 - 10) 藤江善一郎・後藤 勝 (1965. 6) テレメータによる飛行中の生体現象の観察 (第1報) 飛行中の心搏数の変化 医実報告 6, 5
 - 11) 斎藤一郎・岩根正昭・小野幹雄・宮島英雄 (1965. 6) インピーダンス・ニューモグラフによる機能の測定法について 医実報告 6, 13
 - 12) 斎藤一郎・岩根正昭・小野幹雄・宮島英雄 (1965. 6) コリオリ加速度と動揺病の関係について 医実報告 6, 19
 - 13) 松本 功 (1965. 6) 直線加速度の生体におよぼす影響の実験的研究 (第4報) 圧迫腹帯と体内外傷について 医実報告 6, 31
 - 14) 飯塚道彦・秋山明子 (1965. 6) 低温における生体の機能変化 (第1報) 医実報告 6, 37
 - 15) 藤原 弘 (1965. 6) 低圧馴化に関する研究, とくに漸増高度負荷が家兎血液におよぼす影響 医実報告 6, 47
 - 16) 岩滝典生・神作 博・垣本由紀子・横井清和 (1965. 6) 試作滑走路距離標識の視認性に関する飛行実験, 航空標識の色彩に関する実験的研究 (IV) 医実報告 6, 57
 - 17) 長沢有恒・萩原裕子・荒巻定仁・桜井光臣 (1965. 6) 制御系における指の機能 医実報告 6, 69
 - 18) 藤原 弘 (1965. 6) ラットの血液成分の正常値について 医実報告 6, 77
 - 19) 長沢有恒 (1965. 6) 脳波と心理学の諸問題 医実報告 6, 83
 - 20) 藤原 弘 (1965. 7) マウスの低圧低酸素耐性と系統差について 実験動物 14, 3
 - 21) 横井清和・盛永四郎・野口 薫 (1965. 7) 仮現運動と実際運動の関係に関する研究 日本心理学会第29回大会発表論文集 79
 - 22) 長沢有恒・正田 亘・大川雅司 (1965. 7) 手指に関

- する人間工学的研究 (1) 日本心理学会第29回大会
発表論文集 456
- 23) Saito, I. (1965. 9) Effects of headward acceleration on the cardiac function. Abstract of Papers. XXIII ICPS, Tokyo 121
- 24) Iizuka, M. (1965. 9) Vital function changes under the hypothermic condition. Abstract of Papers. XXIII ICPS, Tokyo 295
- 25) Ikegami, H. (1965. 9) Studies on the post-hypoxic syndrome. Abstract of Papers. XXIII ICPS, Tokyo 318
- 26) 岩滝典生・神作 博・垣本由紀子・横井清和 (1965. 11) 照明光の色温度と視認性 第7回眼と道路交通研究会予稿集 3
- 27) 池上晴夫 (1965. 12) Post-Hypoxic Syndromes に関する研究 航空医心 3, 1
- 28) 横堀 栄 (1965. 12) 宇宙空間における生存の条件 医学上の諸問題 航空医心 3, 39
- 29) 横堀 栄・他7名 (1965. 12) 操縦士の心身・生活状況調査結果 (第1報) 航空医心 3, 24
- 30) 岩根正昭・斎藤一郎・小野幹雄・宮島英雄 (1965. 12) インピーダンス・グラムの検討 航空医心 3, 24
- 31) 藤江善一郎・渡辺隆夫・山崎由久 (1965. 12) 高々度における低酸素負荷時の日本人の有効意識時間 (T. U. C.) と自覚症について 航空医心 3, 24

郵政省保健課医事研究所

- 1) 室川正彦・ほか (1965) 夏季暑熱下の郵便外勤員の労働負担度に関する労働衛生学的調査 通信医学 17, 311
- 2) 金子秀彬 (1965) 郵便作業における精神活動の情報理論的評価 通信医学 17, 655

衆議院歯科附属生理学研究所

- 1) 鎗田健一 (1965) 歯牙に振動を負荷した場合の各種歯牙の振動様相とその生理学的考察について 歯科学報 64 (7), 1000-1014
- 2)* 大久保信一 (1964) 歯科臨床における患者の不安および不快感の分析と解消対策——GSR および Sound Masking Effect を応用して—— 口腔衛生学誌 14 (1-3), 13-111
- 3)* 横山則穂 (1964) Single nerve fiber analysis による迷走および交感神経中に含まれる抑制および促進線維の混在実証について 慶応医学 41 (6), 467-483

* 印は前年度脱落分

金沢大学医学部第1生理学教室

- 1) Honda, Y., T. Natsui and N. Hasumura (1965) Analysis of ventilatory response to CO₂ during hypoxia in dogs. J. Appl. Physiol. 20, 839-843
- 2) Honda, Y. (1965) PO₂-ventilation response curve with normal pH and Pco₂ in the dog (Abstract). XXII Int. Cong. Physiol. Sci. 196
- 3) Kreuzer, F. and Y. Honda (1965) Breath-holding

- in untrained and welltrained subjects at high altitude (Abstract). Int. Symp. on Environ. Physiol.
- 4) Takano, N. (1965) Diffusible SCN in plasma and blood cells determined by centrifugal ultrafiltration. Jap. J. Physiol. 15, 444-454
- 5) Natsui, T. (1965) Effect of Pco₂ on tolerance to severe hypoxia in dogs. Jap. J. Physiol. 15, 405-412

金沢大学医学部第2生理学教室

- 1) Oomura, Y., Ooyama, H. and Sawada, M. (1965. 9) Ionic basis of the effect of ACh on Onchidium D- and H-neurons. XXIII Internat. Congr. Physiol. Sci., No. 913, p. 389
- 2) Ooyama, H., Oomura, Y. and Sawada, M. (1965. 9) Ionic mechanism of the hyperpolarization on an Onchidium neuron induced by glutamate. XXIII Internat. Congr. Physiol. Sci., Symp. on Comp. Neurophysiol., p. 33
- 3) Oomura, Y., Ooyama, H., Sawada, M. and Ozaki, S. (1965. 9) A study on the bullfrog slow muscle fibers. XXIII Internat. Congr. Physiol. Sci., No. 162, p. 91
- 4) 大村 裕・大山 浩・沢田正史・山本鉄郎・中文彦・坪川孝志 (1965. 2) 摂食中枢の電気的活動 日本生理誌 27 (2号), 150
- 5) 大村 裕・大山 浩・沢田正史・尾崎幸男 (1965. 2) イソアワモチ巨大ネウロンの電気的活動について 日本生理誌 27 (2号), 151

名古屋大学医学部第1生理学教室

- 1)** 小川徳雄・寺田栄一・堀 哲郎・高木健太郎 (1963) 汗腺内への溶液の浸入について 天気 10, 308
- 2)* Takagi, K., M. Kosaka and S. Yamamoto (1964. 1) Reflex inhibition of shivering due to pressure applied to the skin. Report 1. Afferent spinal pathway. Int. J. Biometeor. 8, 86-87
- 3)* 高木健太郎 (1964. 7) 半側発汗について 労働の科学 20, 13-17
- 4)* Sasaki, S. (1964. 8) Leucocytotic effect of heparin and heparinoid. The Physiologist 7 (3), 245
- 5)* 高木健太郎 (1964. 8) 研究の根拠としての Homeostasis 生体の科学 15, 153-154
- 6)* Kumazawa, T., S. Nojima, Y. Tamura, K. Koike and K. Takagi (1964. 9) Effect of repeated sonic stimuli on the polygram during sleep. Proc., XII Ann. Meeting, Jap. EEG Soc. p. 48
- 7)* 高木健太郎・小川徳雄・佐藤豊彦 (1964. 9) 睡眠と発汗 第13回日本脳波学会抄録集 p. 47
- 8)* 佐藤豊彦・熊沢孝朗・高木健太郎 (1964. 9) 脊髄内刺激のふるえと脳波への影響 (圧反射の求心路の探究) 第13回日本脳波学会抄録集 p. 78
- 9)* 中山昭雄・堀 哲郎 (1964. 9) 網様体誘発電位に關与する脊髄求心路 第13回日本脳波学会抄録集

- p. 208-209
- 10)* 高木健太郎・山本宗平 (1964. 9) 寒冷ふるえ時の脊髄前、後根線維の活動電位とこれにおよぼす皮膚圧迫の影響 第17回日本筋電図学会抄録 p. 29
- 11)* Sasaki, S., T. Takemoto and S. Oka (1964. 10) Toxicity of heparinoids, with special reference to the precipitation of fibrinogen. *Thrombos. Diathes. Haemorrh.* **12**, 232-261
- 12)* 高木健太郎 (1964. 10) ME 機器のスポーツ医学への応用 医学のあゆみ **5**, 284-287
- 13)* 中山昭雄・堀 哲郎(1964. 10) 迷走神経刺激時の延髄呼吸放電について 日本生理誌 **26**, 520-521
- 14) Nagasaka, T. (1965. 1) Mechanism of finger volume increase during cold immersion. *Int. J. Biometer.* **9**, 65
- 15) Hsieh, A. C. L., L. D. Carlson and T. Nagasaka (1965. 1) Effects of immersion of the hand in cold water on digital blood flow. *J. Appl. Physiol.* **20**, 61-64
- 16) 田沢正敏(1965. 1) 血圧と胃および腸の血管反応との関係について 日本生理誌 **27**, 1-14
- 17) 高木健太郎 (1965. 1) プレチスモグラフィー 医用電子と生体工学 **3**, 3-14
- 18) 高木健太郎 (1965. 2) 皮膚圧反射の求心路 日本生理誌 **27**, 73
- 19) 小川徳雄・佐藤豊彦・高木健太郎(1965. 2) 睡眠時の発汗性 日本生理誌 **27**, 87-88
- 20) 中山昭雄・堀 哲郎(1965. 2) 呼吸放電の促進と抑制 日本生理誌 **27**, 107-108
- 21) 高木健太郎・永坂鉄夫(1965. 2) 位相差血圧計の実験供覧 日本生理誌 **27**, 154
- 22) 高木健太郎 (1965. 3) 皮膚圧反射の脊髄内求心路 脳と神経 **17**, 250
- 23) Nakayama, T. and T. Hori (1965. 3) Spinal pathway mediating reticulopetal volleys. *Folia Psychiat. et Neurol. Japon.* **19**, 69-76
- 24) 高木健太郎(1965. 4) 高所医学の研究構想——ヒマラヤ遠征に際して 医学のあゆみ **58**, 213-215
- 25) Ogawa, T., E. Terada, M. Kobayashi and K. Takagi (1965. 6) Variations of the electric conductivity of the skin in relation to sweating. *Jap. J. Physiol.* **15**, 296-309
- 26) 高木健太郎 (1965. 6) 低圧実験と呼吸運動の記録呼吸と循環 **13**, 407
- 27) Carlson, L. D. and T. Nagasaka (1965. 7) Response of cold-and warm-adapted dogs to infused norepinephrine and acute body cooling. *Amer. J. Physiol.* **209**, 227-230
- 28) 小川徳雄・高木健太郎・山本通隆・矢井田光一・小林茂樹・清原寿一(1965. 7) ベクトル・インピーダンス計によって測定した人体皮膚インピーダンスと発汗との関係について 医用電子と生体工学 **3**, 238
- 29) 高木健太郎・永坂鉄夫・植田一夫(1965. 7) 新原理に基づく人体の間接的血圧測定法 医用電子と生体工学 **3**, 249
- 30) 中山昭雄・堀 哲郎(1965. 7) Flaxédil 非動化における肺の膨縮と呼吸周期 日本生理誌 **27**, 373-374
- 31) Nagasaka, T. (1965. 8) Factors contributing to an increase of finger volume during cold immersion of the hand. *Jap. J. Physiol.* **15**, 423-432
- 32) 高木健太郎 (1965. 8) 皮膚圧反射の神経経路 最新医学 **20**, 2018-2024
- 33) 中山昭雄・堀 哲郎(1965. 8) 脳幹刺激による呼吸の促進と抑制 脳と神経 **16**, 662-669
- 34) 佐藤豊彦・小川徳雄 (1965. 8) 昼間睡眠時の発汗 日本生理誌 **27**, 412
- 35) 権田憲吉・田沢正敏(1965. 8) 血圧と肝臓・脾臓および腎臓の血管反応との関係について 日本生理誌 **27**, 412-413
- 36) Takagi, K., T. Nagasaka, K. Ueda and S. Wakita (1965. 8) A new method for indirect measurement of human blood pressure. *Digest, 6th ICME & BE* p. 38
- 37) Ogawa, T., K. Takagi, M. Yamamoto, K. Yaida, S. K. obayashi & J. Kiyohara (1965. 8) Relationship between skin impedance measured by the Vector-Impedance Meter and sweating. *Digest, 6th ICME & BE* pp. 548-549
- 38) Takagi, K. and S. Kobayashi (1965. 8) Alveolar gas exchange during diving in Funado. *Abstr., Symp. on Physiol. of Breath-hold* pp. 145-155
- 39) 高木健太郎 (1965. 9) 交通災害関係への脳波計等増巾器の応用 医科器械学 **35**, 1-4
- 40) Nakayama, T. and T. Hori (1965. 9) Facilitation and inhibition of the respiratory neuron. *Abstr., XXIII ICPS* p. 194
- 41) Ookawa, T. (1965. 9) Rhythmic, doric and spiky after-discharges in EEG of chicks. *Abstr., XXIII ICPS* p. 441
- 42) Ogawa, T., T. Satoh and K. Takagi (1965. 9) Sweat rate in association with EEG Pattern during sleep. *Abstr., XXIII ICPS* p. 453
- 43) 高木健太郎 (1965. 9) 皮膚圧反射の求心路 日本医事新報 (ジュニア版) 43号, 6-10
- 44) 中山昭雄・堀 哲郎(1965. 9) 皮膚感覚と誘発電位の相関 日本生理誌 **27**, 464
- 45) Satoh, T., T. Ogawa and K. Takagi (1965. 10) Sweating during daytime sleep. *Jap. J. Physiol.* **15**, 523-531
- 46) Takagi, K., T. Ogawa and T. Satoh (1965. 10) Sweating during sleep. *Proc., XIII Ann. Meeting, Jap. EEG Soc.* pp. 180-181
- 47) Satoh, T., T. Kumazawa and K. Takagi (1965. 10) Effect of spinal cord stimulation on EEG and shivering (study on the afferent pathway of the skin-pressure reflex). *Proc., XIII Ann. Meeting, Jap. EEG Soc.* pp. 207

- 48) Nakayama, T. and T. Hori (1965. 10) Spinal pathway mediating reticulopetal volleys. Proc., XIII Ann. Meeting, Jap. EEG Soc. pp. 208-209
- 49) 高木健太郎 (1965. 10) 精神活動とポリグラフ: 脈波その他の自律神経機能 第14回日本脳波学会抄録集 p. 49
- 50) 中山昭雄・堀 哲郎 (1965. 10) 皮膚圧迫効果の中樞機序に関する考察 第14回日本脳波学会抄録集 p. 128
- 51) 佐藤豊彦・小川徳雄・田村好弘 (1965. 10) 逆説睡眠相のポリグラフ-特に発汗について 第14回日本脳波学会抄録集 p. 140
- 52) 権田憲吉 (1965. 10) 血圧と肝臓・脾臓および腎臓の血管反応との関係について 日本生理誌 **27**, 486-499

* 印は前年度脱落分 **印は前々年度脱落分

名古屋大学環境医学研究所航空生理学教室

- 1) 御手洗玄洋・高木貞治 (1965. 4) 低圧低酸素および遠心力負荷時の網膜電位 日本航空医学心理学誌 **2**, 90-95
- 2) 御手洗玄洋 (1965. 2) 航空環境下の感覚に関する2, 3の観察 日本生理誌 **27**, 58
- 3) 御手洗玄洋・渡辺郁緒・新美勝彦・安藤文隆・矢頭仁人・野崎尚志 (1965. 2) S 電位起源の再検討と色光感曲線 日本生理誌 **27**, 143-144
- 4) Mitarai, G. (1965) Glia-neuron interaction in carp retina, Glia potentials revealed by microelectrode with lithium carmine. Intracellular Membraneous Structure, ed. S. Seno and E. V. Cowdry 549-558
- 5) Mitarai, G., Watanabe, I. and Niimi, K. (1965. 9) Further study on the origin of S-potentials and the function of glia cells in the retina. Abstracts at 23rd Int. Congress of Physiol. Sci. Tokyo 361
- 6) Mitarai, G. and Takagi, S. (1965. 11) Effects of hypoxia on the visual pathway in rabbits. Ann. Rep. Res. Inst. Environment. Med. **13**, 1-9

名古屋市立大学医学部第1生理学教室

- 1) 梶江 勇・杉野律朗・丹羽滋郎・猪飼公郎・新田初雄 (1965. 2) 線維素溶解現象の生理的動態に関する研究 自律神経剤投与による線溶現象の動態について 名市大医誌 **15**, 650-656
- 2) 丹羽滋郎・杉野律朗・他 (1965. 2) Empynase (Pronase-P) の抗炎症作用について 名市大医誌 **15**, 683-689
- 3) 新田初雄・猪飼公郎・梶江 勇・丹羽滋郎・杉野律朗 (1965. 5) 自律神経剤投与による Plasmin 系の生理的動態について (抄録) 日本生理誌 **27**, 122
- 4) 杉野律朗 (1965. 2) 線維素溶解現象の生理的動態に関する研究 犬の諸臓器における線溶系の活性および抑制物質について 名市大医誌 **16**, 535-546
- 5) Ikai, K., I. Sugie, R. Sugino, H. Nitta et al. (1965. 6) Cystic fibrosis cases found by reexam-

- ation of histology of pancreas and postmortem protocol in Japanese children and sweat test on the siblings. Acta Paediatrica Japonica **7**, 23-33
- 6) 梶江 勇・杉野律朗 (1965. 6) 血漿および尿中線溶物質の Sephadex による検討 生化学 **37**, 738
- 7) 梶江 勇・杉野律朗・佐藤重孝・森本清治・新田初雄 (1965. 11) 線維素溶解現象の生理的動態に関する研究 人および犬の血漿の線溶物質の Sephadex による検索 名市大医誌 **16**, 845-854

名古屋市立大学医学部第2生理学教室

- 1) 大原孝吉・水野郁枝 (1965. 2) 汗 Cl 濃度測定法の吟味と汗 Cl 濃度に影響する因子について 日本生理誌 **27**, 119
- 2) 堀田 健 (1965. 2) 筋機能の分子レベルと細胞レベルに於ける現象の関係 日本生理誌 **27**, 130
- 3) Hotta, K. and Terai, F. (1965. 7) Studies on Conformation Change of H Meromyosin Induced by Metal Ions. Nagoya M. J. **11**, 43
- 4) Hotta, K. and Terai, F. (1965. 8) Notes on the Role of Sulfhydryl and Imidazol Groups in Myosin NTPase and Conformation of Glycerinated Muscle Fibers. J. Biochem **58**, 176
- 5) Hotta, K. (1965. 9) Structure and Function of Myosin. Mol. Biol. of Muscle Contraction, Igaku Shoin
- 6) Hotta, K. (1965. 9) Relationship between ATP Induced Contractions of Muscle Model and Conformation of Muscle Proteins. Abstract I. U. P. S. 786
- 7) Young, H. L. and Hotta, K. (1965. 10) Electrolyte Content and Uptake of Glucose and Pyruvate in Isolated Rabbit Diaphragm with the Treatment of pCMB. Nagoya M. J. **11**, 91
- 8) 堀田 健・宇佐美悠・寺井 章 (1965. 11) H メロミオシンの構造と機能 生化学 **37**, 515

愛知学院大学歯学部生理学教室

- 1) 伊藤宗之 (1965. 2) 自己刺激と海馬脳波 日本生理誌 **27**, 97

信州大学医学部第2生理学教室

- 1) 宮川 清 (1964. 9) 血圧振動時の末梢抵抗 脈管学 **5**, 41-48
- 2) 宮川 清・村田 章 (1965. 8) 血圧振動現象出現時の腎臓循環動態 日本生理誌 **27**, 413
- 3) 宮川 清・宇治一登 (1965. 2) 嚥下時の上部消化管内圧変化の発生機序について 日本生理誌 **27**, 120
- 4) 宮川 清・竹内 亨・村田 章・宇治一登 (1965. 2) 血圧振動時の血管運動神経の動態 日本生理誌 **27**, 114
- 5) 宮川 清 (1965. 8) 去脳前後の周期性血圧第三級動揺 信州医誌 **14**, 161-173
- 6) 宮川 清・小沢一雄 (1965. 10) 脳血行遮断時の家兔脳電図 信州医誌 **16**, 286-295

- 7) 宮川 清・小沢一雄 (1965. 10) 血圧振動時の脳電図 信州医誌 **16**, 296-303

信州大学医学部順応医学研究施設

- 1)* 宮尾嶽雄・両角徹郎・両角源美・花村 肇・佐藤信吉・赤羽啓榮・酒井秋男 (1963. 5) 本州八ヶ岳のネズミおよび食虫類 (第1報) 亜高山森林帯のネズミおよび食虫類 動物誌 **72** (5), 133-138
- 2)* 宮尾嶽雄・両角徹郎・両角源美・花村 肇・佐藤信吉・赤羽啓榮・酒井秋男 (1963. 7) 本州八ヶ岳のネズミおよび食虫類 (第2報) 亜高山森林帯におけるヒメネズミおよびヤチネズミの性比, 体重組成および繁殖活動 動物誌 **72** (7), 187-193
- 3)* 宮尾嶽雄・赤羽啓榮・酒井秋男・大石康弘・西野武久・柳平坦徳 (1963) 本州志賀高原のネズミおよび食虫類 (予報) 信州大・志賀高原生物研究所研究報告 No. 2, 1-14
- 4)* 宮尾嶽雄・両角徹郎・両角源美・花村 肇・赤羽啓榮・酒井秋男 (1964. 7) 本州八ヶ岳のネズミおよび食虫類 (第3報) 亜高山森林帯のスミスネズミ 動物誌 **73** (7), 189-195
- 5)* 宮尾嶽雄・赤羽啓榮・酒井秋男・大石康弘・西野武久・柳平坦徳 (1964) 本州志賀高原のネズミおよび食虫類 (第1報) ドブネズミの捕獲率, 性比, 体重組成および繁殖活動 信州大・志賀高原生物研究所研究報告 No. 3, 1-10
- 6)* 宮尾嶽雄・赤羽啓榮・酒井秋男・大石康弘・西野武久・柳平坦徳 (1964) 本州志賀高原のネズミおよび食虫類 (第2報) ドブネズミ内臓諸器官の相対成長 信州大・志賀高原生物研究所研究報告 No. 3, 11-22
- 7) 宮尾嶽雄・両角徹郎・両角源美・赤羽啓榮・酒井秋男・花村 肇 (1965. 3) 本州八ヶ岳のネズミおよび食虫類 (第4報) 亜高山森林帯におけるヒメネズミおよびトガリネズミの体重組成および繁殖活動 動物誌 **74** (3), 76-81
- 8) 宮尾嶽雄・赤羽啓榮・酒井秋男・柳平坦徳 (1965. 4) 紀伊半島山地の小哺乳類 哺乳動物誌 **2** (4), 120-123
- 9) 宮尾嶽雄・酒井秋男・柳平坦徳 (1965. 5) 恵那山の小哺乳類 哺乳動物誌 **2** (5), 141-143
- 10) 宮尾嶽雄・柳平坦徳・酒井秋男 (1965. 9) 秋田県乳頭山および山形県蔵王山における小哺乳類の採集結果 哺乳類科学 No. 9, 31-40
- 11)* 酒井秋男・大石康弘・西野武久・柳平坦徳・宮尾嶽雄 (1964) 長野市に棲息するドブネズミの生活 信州大・教育学部松本分校生物学研究会研究報告 No. 12, 21-28
- 12) 上田五雨 (1965. 2) 筋変形の生物物理学的考察 日本生理誌 **27**, 130-131
- 13) 上田五雨 (1965. 7) 筋の力学について 日本生理誌 **27**, 367
- 14) Ueda, G. (1965. 9) On the mechanical properties of frog muscles. Abstracts of papers, XXIII International Congress of Physiological Sciences,

Tokyo, 330

- 15) 上田五雨・酒井秋男・荒井 清 (1965. 10) 人の頭部毛髪の動的粘性について 信州医学誌 **14**, 340-343

* 印は前年度脱落分

岐阜大学医学部第1生理学教室

- 1) Watanabe, S. & O. D. Creutzfeldt (1966. 1) Spontane postsynaptische Potentiale von Nervenzellen d. motor Cortex d. Katze. Experimental Brain Research **1**, 48-64
- 2)* Watanabe, S. et al. (1964) Verhalten postsynaptischer Potentiale corticaler Nervenzellen bei Änderung des membranalpotentials durch direkt zugeführten Strom. Pflügers Archiv **281**, 59
- 3) Ookawa, T. & J. Gotoh (1965) Electroencephalogram of the Chicken recorded from the Skull under various Conditions. J. Comp. Neur. **124**, 1-14
- 4) Ookawa, T. (1965) Rhythmic, Domic and Spiky After-Discharges in EEG of Chickens. Abstracts of Papers presented at XXIII ICPS No. 1049

* 印は前年度脱落分

岐阜大学医学部第2生理学教室

- 1)* 田村喜弘・松岡三良 (1964. 10) 中性子照射による牛血球スクレオチドの増減 日本生理誌 **26**, 507
- 2) Matsuoka, S. (1965. 2) Effects of Gamma-Irradiation on the RNA Content of Euglena Cells. Bulletin of Inst. for Chem. Research, Kyoto Univ. **43**, 17
- 3) Horino, O. (1965. 6) Electron Microscopic Structure of the Conidia of Heminthosporium oryzae. Acta Schol. Med. in Gifu **12**, 230
- 4) 田村喜弘・杉江 律 (1965. 6) 剣道における打撃強度と筋力との関係について 体力科学 **14**, 61
- 5) 田村喜弘・長沢 弘 (1965. 6) O₂ 消費による運動負荷の強度について 体力科学 **14**, 74
- 6) 杉江 律 (1965. 12) 姿勢の相違による足蹠の圧力分布 岐阜医大紀要 **13**, 5・6 合併号
- 7) 長沢 弘 (1965. 12) 2, 3 の運動における呼吸代謝の比較 岐阜医大紀要 **13**, 5・6 合併号
- 8) 長沢 弘 (1965. 12) 運動中における尿および血液中の無機磷酸塩の量的変化 岐阜医大紀要 **13**, 5・6 合併号

* 前年度報告時脱落した分

三重県立大学医学部生理学第2講座

- 1) 平野清孫・勝田 穰 (1965. 7) 打点運動の研究 (その2) 日本生理誌 **27**, 364
- 2) 勝田 穰・伊藤重義・小菅元子 (1965. 8) Ultrasonic insonation による血管透過性増大物質の発見 日本生理誌 **27**, 410

奈良県立医科大学第1生理学教室

- 1) Shoshi Kawashima, Tetsuro Kamakura, Jr., Takahiko Tsuji & Tadao Ueda (1960. 9) Effect of

hypoxia and/or ethylurethane on magnesium concentration in blood plasma of rats. *J. Nara Med. Assoc.* **16**, 353

- 2) 川嶋昭司・上田忠男・安田義弘・手納忠弥 (1965. 12) エチル尿素および類縁麻酔剤の超低圧防弊効果と血漿カリウム *奈良医誌* **16**, 639

奈良県立医科大学第2生理学教室

- 1) Enoki, Y. & Tomita, S. (1965. 1) Recombination of human adult & canine haemoglobins at neutral pH. *J. Mol. Biol.* **11**, 144
- 2) Tyuma, I., Morimoto, Y., Enoki, Y., Onji, Y., Okuda, T. & Ishibashi, T. (1965. 4) Met-hemoglobin formation by a new local anesthetic "L 67". *Far East J. Anaesth.* **5**, 32
- 3) 柴田 健 (1965. 5) ジエチル・エーテルに関する生物化学的研究 II. 気体ジエチル・エーテルの諸種の溶液に対する溶解度とその排出曲線よりの循環血液量の推定 *奈良医誌* **16**, 151
- 4) 小栗顯二 (1965. 5) サイクロプロベイン排出曲線による生体脂肪量の決定に関する基礎的研究 II. サイクロプロベインの排出過程に関するモデル実験 *奈良医誌* **16**, 160
- 5) Suzuki, T., Hayashi, A., Yamamura, Y., Enoki, Y. & Tyuma, I. (1965. 6) Functional abnormality of hemoglobin M Osaka. *Biochem. Biophys. Res. Comm.* **19**, 691
- 6) Onji, Y. & Tyuma, I. (1965. 7) Methemoglobin formation by a local anesthetic and some related compounds. *Acta anaesth. Scandinav. Suppl. XVI*, 151
- 7) 榎 泰義 (1965. 2) ヘモグロビン分子の酸素化と構造変化 *日本生理誌* **27**, 49
- 8) 榎 泰義・富田 晋・中馬一郎 (1965. 2) 重金属塩による異種ヘモグロビン間 hybrid 形成について *日本生理誌* **27**, 105

和歌山県立医科大学第1生理学教室

- 1) 川口 成・川口美代子・辻本 毅・長井音次 (1965. 5) 肝ミトコンドリアの ADP 呼吸調節とアデニレートカイネース 第17回酵素化学シンポジウム予稿集 190
- 2) 高坂広子 (1965. 3) 心筋ミトコンドリアのコハク酸呼吸におよぼす Mg イオンの影響について *日本生理誌* **27**, 291
- 3)* Takeshi Tsujimoto, Paul Bartlett (1964. 8) Observations on Rat Kidney Multiple Cation Activated Adenosine Triphosphatase on CM Sephadex C50. *Arch. Biochem. Biophys.* **100**, 279
- 4) Paul Bartlett, Takeshi Tsujimoto & Heidi Shaefer (1965. 3) Observations on Rat Kidney Mitochondrial Adenosine Triphosphatase activity during Induction of Aminonucleoside Nephrosis. *Life Science* **4**, 1509
- 5) 川口 成 (1965. 8) 肝 Mitochondria の呼吸調節と

Adenylate Kinase *日本生理誌* **27**, 395

- 6) 岩本省司・木村 潔・長井音次 (1965. 9) 脳ミトコンドリアの ADP 呼吸調節およびミトコンドリア内 PN の酸化還元におよぼす Mg イオン等の影響 *神経化学* **4** Suppl. 49
- 7) 岩本省司 (1965. 10) 脳ミトコンドリアの ADP 呼吸調節について —— Mg イオン等の影響 —— *和歌山医学* **16**, 365
- 8) 長井・辻本・川口・西西・高坂・丸山・川口・岩田 (1965. 2) ミトコンドリアの呼吸調節について *日本生理誌* **27**, 153

和歌山医科大学第2生理学教室

- 1) 上岡利春・二沢省二・松下 宏 (1965) 遺伝性肥満高血糖マウスにおける代謝異常 医化学シンポジウム **4**, 37
- 2) 辻 繁勝・土田 忠・上西淳伺・松下 宏 (1965) マウス白血病におけるトランスアミナーゼ活性について *和歌山医学* **15**, 452
- 3) 元木賢三・座間世起子・松下 宏 (1965) マウスのトリプトファンピロラーゼ活性について *和歌山医学* **15**, 453
- 4) 松下 宏・上岡利春 (1965) 肥満高血糖 (NZO系) マウスの糖脂質代謝異常に関する研究 *日本体質学誌* **29**, 38
- 5) 辻 繁勝・西岡 博・上西淳伺・大岡達也・松下 宏 (1965) リンパ性白血病ハツカネズミにおける胸腺の代謝異常について *日本生理誌* **27**, 126
- 6) 二沢省二・土田 忠・小倉一格・谷 英二・松下 宏 (1965) 遺伝性肥満高血糖ハツカネズミにおける糖尿病治療剤投与の影響 *日本生理誌* **27**, 117
- 7) 畠 俊介・上田卓也・山崎順弘・宇山史郎 (1965) 若年性糖尿病の1家系について *和歌山医学* **16**, 280
- 8) 小倉一格 (1965) 遺伝性肥満高血糖マウスの肝ミトコンドリアにおける酸化的燐酸化について *生化学* **37**, 809
- 9) 上岡利春・土田 忠・谷 英二・松下 宏 (1965) 遺伝性肥満高血糖マウス C57BL/6J-ob の血液性状について *実験動物* **14**, 71
- 10) 上岡利春 (1965) 遺伝性肥満高血糖マウスによる糖脂質代謝とその関連ホルモンの研究 I *日本内分泌誌* **41**, 141
- 11) 上岡利春 (1965) 遺伝性肥満高血糖マウスによる糖脂質代謝とその関連ホルモンの研究 II *日本内分泌誌* **41**, 149
- 12) 上岡利春 (1965) 遺伝性肥満高血糖マウスによる糖脂質代謝とその関連ホルモンの研究 III *日本内分泌誌* **41**, 154
- 13) Shigekatsu Tsuji and Hiroshi Matsushita (1965) Effect of 6-mercaptopurine on several enzyme activities in high and low-leukemia strains of mice. *Wakayama Medical Reports* **10**, 1

京都大学医学部第1生理学教室

- 1) 深見 安・荒木辰之助 (1965. 2) 脊髄運動ニューロ

- ンに対する metabolic inhibitor の作用機序について 日本生理誌 **27**, 88
- 2) 松裏修四・荒木辰之助(1965. 2) 脊髄運動ニューロンの巡回性促進作用について 日本生理誌 **27**, 88
 - 3) Araki, T. (1965. 7) The effect of strychnine on the postsynaptic inhibitory action. Proc. Internat. Physiol. Sci. **4**, 96-97
 - 4) Araki, T. & Fukami, Y. (1965. 9) The action of metabolic inhibitors on the electrical activities of the spinal motoneuron. Abstr. paper. XXIII Int. Cong. Physiol. Sci. 396
 - 5) Araki, T. & Matsuura, S. (1965. 9) Electrophysiological studies on the cholinergic transmission in the spinal cord of the toad. Symp. Comp. Neurophysiol. Abstr. (Tokyo, Sept. 1965) 27
- 京都大学医学部生理学教室第2講座**
- 1) Inouye, A., Y. Shinagawa・他4名(1965. 3) Purification and electron microscope observations of ribosomes from beef brain cortex. J. Electron-microscopy **13**, 113-118
 - 2) Inouye, A. and Y. Shinagawa(1965. 3) Cytochrome b5 and related oxidative activities in mammalian brain microsomes. J. Neurochem. **12**, 803-813
 - 3) 井上 章・品川嘉也・品川泰子(1965. 12) 薬理作用と酵素反応の電子状態の理論 生物物理学講座8巻. 307-362
 - 4) 片岡喜由・外5名(1965. 9) 牛脳より抽出された活性ポリペプチド 神経研究の進歩 **9**, 447-452
 - 5) 片岡喜由・堀 清記(1965. 9) 脊髄神経における伝達物質顆粒の分離の試み 神経研究の進歩 **9**, 780-782
 - 6) 品川嘉也(1965. 10) 超遠心機 実験装置ハンドブック(朝倉)
 - 7) 品川嘉也・岡本純子(1965. 10) 生体の裏面 裏面 **3**, 542-547
- 京都府立医科大学第1生理学教室**
- 1) 森本武利(1965. 1) 循環血 pH 及び Pco₂ 連続測定および循環血 pH のテレメタリング 第1報 循環血 pH 用埋込電極の試作 日本生理誌 **27**, 15
 - 2) 森本武利(1965. 1) 循環血 pH および Pco₂ の連続測定及び循環血 pH のテレメタリング 第2報 循環血用 Pco₂ 電極と埋込型 pH および Pco₂ 電極による acidosis, alkalosis の検出 日本生理誌 **27**, 21
 - 3) 森本武利(1965. 1) 循環血 pH および Pco₂ の連続測定および循環血 pH のテレメタリング 第3報 循環血 pH のテレメタリング 日本生理誌 **27**, 27
 - 4) 吉村寿人・藤本 守(1965. 2) 生理面からみた尿管機能(4) アルカリ性尿の生成 最新医学 **20**, 416
 - 5) 吉川邦生(1965. 5) ビタミンB₁ および Thiamine propylsulfide の腸管吸収機構 ビタミン **31**, 401
 - 6) 吉村寿人・吉岡利治・堀川蘭子(1965. 5) 総合アミノ酸剤の栄養効果について 第1製薬報 No.90, 1
 - 7) 今井雄介(1965. 6) 犬顎下腺分泌に関する研究 第1報 顎下腺分泌とその電気生理 日本生理誌 **27**, 304
 - 8) 今井雄介(1965. 6) 犬顎下腺分泌に関する研究 第2報 唾液分泌および分泌電位におよぼす灌流液イオン交換の影響と分泌時の腺組織のイオン出納について 日本生理誌 **27**, 313
 - 9) 蜂須賀弘久(1965. 6) 運動時の呼吸促進の機転に関する研究 日本生理誌 **27**, 325
 - 10) 藤本 守(1965. 8) 膜の物質輸送 臨床科学 **1**, 958
 - 11) 吉村寿人(1965. 8) 蛋白アミノ酸栄養に関する最近の研究 化学と生物 **3**, 28
 - 12) Hisato, Yoshimura(1965. 9) Tissue buffering and control of acid-base balance in body fluid. Excerpta Medica International Congr. Ser. **87**, 189
 - 13) 堀川蘭子(1965. 9) 血清アミノ酸測定による蛋白の栄養効果に関する研究 第2報 医化学シンポジウム p. 189
 - 14) 藤本 守(1965. 11) Active Transport across Biological Membrane 生物々理 No.22, 325
 - 15) 吉村寿人(1965. 12) 基礎医学部の設置を望む 生体の科学 **16**, 261
 - 16) 吉村寿人・山本 豊・吉岡利治・吉村 学・竹田仁・蜂須賀弘久・木村静男・芦田輝子・山田敏男(1965. 7) 基礎代謝の季節的変動(抄録) 日本生理誌 **27**, 376
 - 17) 宮尾賢爾・藤本 守・吉村寿人(1965. 7) DMO 法による細胞内の pH 研究(抄録) 日本生理誌 **27**, 377
 - 18) 吉村寿人・今井雄介(1965. 2) 唾液腺分泌電位の本態について(抄録) 日本生理誌 **27**, 97
 - 19) 吉村寿人・山本 豊・竹田 仁(1965. 2) 寒冷馴化に対する食質の影響(抄録) 日本生理誌 **27**, 114
 - 20) Taro Inoue(1965. 9) Effect of cortisol on active sodium ion transport across isolated bullfrog colon. (Abstract) 23 Internat. Congr. Physiol. Sci. p.73
 - 21) Yusuke Imai & Yutaka Yamamoto(1965. 9) Studies of salivary secretion of the submaxillary gland of dog (Abstract) 23 Internat. Congr. Physiol. Sci. p.77
 - 22) Mamoru Fujimoto & Ko Higaki(1965. 9) Effect of mineral corticoid and aspartate on the renal potential. (Abstract) 23 Internat. Congr. Physiol. Sci. p.166
 - 23) M. Yoshimura, K. Yukiyoishi, T. Yoshioka, Y. Yamamoto & H. Takeda(1965. 9) Climatic adaptation of the basal metabolism. (Abstract) Internat. Symposia on Environmental Physiol. Kyoto, Symp. 2
 - 24) Kuno, Y. & H. Yoshimura(1965. 9) Reviews of Japanese research to heat and cold. (Abstract) Internat. Symposia on Environmental Physiol.

Kyoto, Symp. 1

- 25) 檜垣 鴻・藤本 守(1965.9)腎の組織区分の測定について(抄録)日本腎臓誌 **8**, No.1
- 26) 平位喜七郎・藤本 守(1965.9)イモリの腎尿細管電位の発生について(抄録)日本腎臓誌 **8**, No.1
- 27) 森 勝敬(1965.4)細胞内電位測定による腎尿細管細胞のイオン輸送機転に関する研究 日本腎臓誌 **7**, 183
- 28) 吉村寿人・吉岡利治・堀川蘭子(1965.5)総合アミノ酸剤の栄養効果について Medical Digest No.80
- 29) 吉村寿人・吉岡利治・芦田輝子(1965.3)総合アミノ酸剤の栄養効果に関する研究(抄録)アミノ酸第5回 p.9
- 30) 吉村寿人・行吉哉女・田中典子・吉岡利治・蜂須賀弘久(1965.5)基礎代謝の季節変動(抄録)栄養と食糧 **18**, 20
- 31) Yoshimura, H. (1965.3) Studies on protein metabolism in hard muscular work in relation to its nutritional requirement. 5th Symposium on Arctic Biology and Medicine.
- 32) 吉村寿人(1965.10)国民の体力増強と栄養 1. 蛋白質 第12回日本栄養改善学会
- 33) 吉村寿人・山田敏男・大塚愛子・木村静男(1965.10)運動鍛錬時の運動性貧血発生要因について 第19回日本体力医学会
- 34) 吉村寿人(1965.12)唾液の塩水分分泌機構とその神経支配 第10回日本唾液腺シンポジウム
- 35) Taro Inoue (1965.9) Measurement of evaporation and O₂ uptake in small mammals. Int. J. Biometeor. **9**, 65
- 36) Kuno, Y. (1965.9) The mechanism of human sweat secretion. 23. Internat. Congr. Physiol. Symposia Proc. p.3
- 37) Yoshimura, H. (1965.1) Nervöse Steuerung der Salzkonzentration des Speichels. Umschau 66Jahrgang 43

京都府立医科大学第2生理学教室

- 1) Kitasato, H. (1965.2) The change in the surface negative cortical response during nembutal anesthesia and firing level of neurons in the cortex of rabbit. Jap. J. Physiol. **15**, 71-91
- 2) 岩瀬善彦・内田 孝・村山公一(1965.2)皮質緩電位と体感覚運動ニューロン活動の関係 日本生理誌 **27**(2), 78
- 3) Iwase, Y. and Lisenby, D. (1965.6) Olfactory bulb responses in the turtle, with special reference to the deep negative spike. Jap. J. Physiol. **15**, 331-341
- 4) 田原直広・真銅恒一(1965.7)嗅球の nicotine wave に対する外側嗅索の刺激効果 日本生理誌 **27**, 361-363
- 5) 北里 宏・初田高明(1965.7)C. A. T. を用いて記録された頭皮上光加算誘発電位とα波との関係 日本生理誌 **27**(7), 372

- 6) Kitasato, H. and Hatsuda, T. (1965.10) The degree of contamination of averaged response with alpha waves and alpha-like waves evoked by photic stimulation. Jap. J. Physiol. **15**, 492-504
- 7) 岩瀬善彦・内田悦弘・堀内喜久子(1965.10)加算誘発電位に対する Metoclopramide の作用 日本生理誌 **27**, 514-519

京都府立医科大学同位元素研究室

- 1) Akira Imamura, Hitoshi Takeda and Nagayo Sasaki (1965.10) The Accumulation of Sodium and Calcium in a Specific Layer of Frog Skin. J. Cell. & Comp. Physiol. **66**, 221-226
- 2) 吉村寿人・山本 豊・竹田 仁(1965.2)寒冷馴化に対する食質の影響 日本生理誌 **27**, (No.2), 114

京都学芸大学体育学研究室

- 1) 山岡誠一・蜂須賀弘久(1965.11)児童の長距離歩走に関する研究 京都学芸大学紀要 B No.27, 169
- 2) 山岡誠一(1965.12) Studies on Energy Metabolism in Athletic Sports. 体育学研究 **9**, (No.3) 28
- 3) 山岡誠一・蜂須賀弘久・吉岡利治(1965.6)学童の発育に関する逐年的研究(第1報) 体育学研究 **10**, (No.1) 13

大阪大学医学部第1生理学教室

- 1)* 久保秀雄(1964.4) D-アミノ酸酸化酵素蛋白—物理化学的性質 阪大医誌 **16**, 61-67
- 2)* 芦田和彦(1964.6)還元型フラビン酵素の調製法 阪大医誌 **16**, 241-244
- 3)* Kubo, H., et K. Uozumi (1964) Une propriété physico-chimique de l'apoenzyme de la D-amino acide oxydase. Ann. Report. Research Group. Biophys. Japan, **4**, 69-76
- 4) 魚住光郎(1965.5)キサンチン酸化酵素系の分光分析および電子スピン共鳴による研究 日本生理誌 **27**, 243-269
- 5) Kubo, H., et K. Uozumi (1965) Une propriété physico-chimique de l'apoenzyme de la D-amino acide oxydase. Bull. Soc. Chim. Biol., **47**; 911-918
- 6)* Shiga, T. and L. H. Piette (1964) Triplet state studies of flavins by electron paramagnetic resonance I. Photochem. Photobiology. **3**, 213
- 7)* Shiga, T. and L. H. Piette (1964) Triplet state studies of flavins by electron paramagnetic resonance II. Photochem. Photobiology. **3**, 223
- 8)* Shiga, T. and L. H. Piette (1965) Triplet state studies of flavins by electron paramagnetic resonance III. Photochem. Photobiol. **4**, 769
- 9)* Shiga, T. (1965) EPR study of alcohol oxidation by Fenton's reagent. J. Phys. Chem. **3805**
* 1964年度脱落の分, ▲ 在外研究の分

大阪大学医学部第2生理学教室

- 1) Yoshii, N., T. Ish and T. Ishiwara (1965)

- Further Observations on Juvenile Delinquents with 14 & 6 per second Positive Spikes. XII Annual Meeting of the Japan EEG Society p.13
- 2) Yoshii, N. and S. Suzuki (1965) Experimental Study on 14 & 6 c/sec Positive Spike. XII Annual Meeting of the Japan EEG Society p. 24-26
 - 3) Yoshii, N., Y. Yamaguchi and I. Toyohara (1965) Electroencephalographic Study of Conditioned Reflex Established by Combination of Two Electrical Stimulations to the Brain Stem (Preparatory report). XII Annual Meeting of the Japan EEG Society p. 116-117
 - 4) Yoshii, N., K. Hano, and Y. Suzuki (1965) On the flat EEG and the 14 & 6 per second positive spikes induced by chemical substances. Med. J. of Osaka Univ. **15** (2-3), 155-167
 - 5) Yoshii, N., K. Miyamoto, and M. Shimokochi (1965) Electrophysiological studies on the conditioning of frequency specific waves. Med. J. of Osaka Univ. **15** (4), 321-344
 - 6) Yoshii, N., E. Inaba, and S. Arai (1965) Experimental studies on the minor tremor of body surface in dogs and rabbits. Med. J. of Osaka Univ. **15** (4), 345-358
 - 7) Yoshii, N. (1965) Background activities controlling conditioned reflex and behavior. Excerpta Medica Intern. Congr. Series No.87, p. 554-558
 - 8) Hori, Y. and N. Yoshii (1965) Conditioned change in discharge pattern for single neurons of the medial thalamic nuclei of the cat. Psychological Reports **16**, 241-242
 - 9) Hori, Y. (1965) Unitary Analysis of the Mechanism of Temporary Connection. Abstr. XXIII Intern. Congr. Physiol. Sciences Tokyo, Japan p. 15
 - 10) Okada, K. (1965) Changes of Cortical Excitability the Defenceve Conditioned Reflex. Abstr. XXIII Intern. Congr. Physiol. Sciences Tokyo, Japan p. 463
 - 11) Hori, Y. (1965) Studies on Dominant Focus of Motor Cortex Including Unitary Analysis. Abstr. XXIII Intern. Congr. Physiol. Sciences Tokyo, Japan p. 465
 - 12) 岡田一男 (1965) 条件反射と皮質興奮性との関係に関する実験的研究 日本生理誌 **27**, 341-350
 - 13) 林 泰正 (1965) 海馬脳波の変動について 脳幹刺激および低温の影響 日本生理誌 **27** (7), 533-542
 - 14) 吉井直三郎・岡田一男・豊原 功・加藤昌弘 (1965) S-9 脳幹刺激から見た表面脳波 臨床脳波 **6**, (特別号), 130-141
 - 15) 石原 務・池川三郎・吉井直三郎 (1965) 非行少年と脳波型(4) 脳波から見た殺人犯の考察 臨床脳波 **7** (3), 162-171
- 大阪大学医学部第3解剖学教室**
- 1)* Kurotsu, T. (1963. 4) Experimental studies on the central autonomic system. The Abstr. of Proc. of the 16th General Assembly of Japan Med. Congress (Osaka) p. 177-178
 - 2)* Ban, T. (1963. 4) The hypothalamus and malformations. do. p. 569
 - 3)* Takakusu, A., T. Kozaki and T. Ban (1963. 7) Changes of placenta induced by hypothalamic stimulation or cortisone administration on pregnant rabbits. Proc. of the congenital Anomalies Research Association of Japan **3**, 41-42
 - 4)* Matano, S., K. Zyo and T. Ban (1964. 12) Experimental studies on the medial longitudinal fasciculus in the rabbit. II. The mesencephalic component of FLM and the central tegmental, medial tegmental and rubrospinal tracts. Med. J. Osaka Univ. **15**, 169-191
 - 5)* Shimazu, T. and T. Fujimoto (1964. 12) Hypothalamic factor affecting metabolism of amino-acids in rabbit liver and its neural nature. Proc. Symp. Chem. Physiol. Pathol. **4**, 123-128
 - 6)* Ban, T., K. Zyo and S. Matano (1964) Fiber connections of the vestibular nuclei concerning medial and dorsal longitudinal fasciculi. Neurologia medico-chirurgica **171-172**
 - 7) Ban, T., T. Oki and K. Zyo (1965. 1) An experimental study on the accessory optic system in the rabbit. Okajima Folia Anat. Japonica **40**, 625-645
 - 8) 伴 忠康 (1965. 2) 肝の神経支配 最新医学 **20**, 246-253
 - 9) 大木庸男・城 勝哉・伴 忠康 (1965. 2) 副視神経について 解剖誌 **40** (1), 付録
 - 10) Ban, T. (1965. 3) The hypothalamus and liver metabolism. Med. J. Osaka Univ. **15**, 275-291
 - 11) Matano, S., T. Oki, K. Zyo and T. Ban (1965. 3) Experimental studies on the medial longitudinal fasciculus in the rabbit. III. Descending tectofugal tracts and the FLM. Med. J. Osaka Univ. **15**, 293-307
 - 12) Ban, T. and S. Matano (1965. 3) Some observations on the posterior commissure in the rabbit. Med. J. Osaka Univ. **15**, 311-320
 - 13) 塩谷弥兵衛・城 勝哉・堺 章・伴 忠康 (1965. 4) 視床下部の慢性刺激が内分泌臓器に及ぼす影響について 解剖誌 **40**, 59
 - 14) 伴 忠康・城 勝哉・侯野彰三 (1965. 4) 前庭神経核を中心とする内側および背側縦束について 脳と神経 **17**, 394-395
 - 15) Shimazu, T. (1965. 4) Biological mechanism of the effect of 20-methylcholanthrene on the induction of dimethylaminoazobenzene demethylase activity of rat liver. Gann **56**, 143-149

- 16) 嶋津 孝・塩谷弥兵衛・伴 忠康(1965.2) 視床下部の肝酵素活性調節について 日本生理誌 **27**, 149-150
- 17) 伴 忠康(1965.2) 眼振の線維連絡 日本生理誌 **27**, 55
- 18) 俣野彰三・城 勝哉・堺 章・伴 忠康(1965.8) 上丘から下降する線維群について——特に内側縦束との関係 解剖誌 **40** (4), 付録
- 19) Shimazu, T. (1965.8) Response to 20-methylcholanthrene of hepatic aniline-, and acetanilide 4-hydroxylase of rats with hypothalamic lesions. *Biochim. Biophys. Acta* **105**, 377-380
- 20) Ban, T., S. Matano and K. Zyo (1965.8) Experimental studies on the fiber connections related to the nystagmus. *Int'l Symp. on Vestib. and Oculom. Problems* p. 27-32
- 21) Ban, T. (1965.9) The septo-preoptico-hypothalamic system (SPH-system). *Abstr. of papers presented at XXIII. ICPS (Tokyo)* p. 437
- 22) 嶋津 孝・藤本孝知・福田 葵(1965.9) 肝臓酵素の活性調節と視床下部(Ⅱ) 特にその神経性機構の解析について 神経研究の進歩 **9**, 559-562
- 23) 嶋津 孝・福田 葵(1965.9) 自律神経系と肝の糖質代謝 神経化学 **4**, 67-68
- 24) Shimazu, T. and A. Fukuda (1965.12) Increased activities of glycogenolytic enzymes in liver after splanchnic nerve stimulation. *Science* **150**, 1607-1608

* 印は前年度脱落分

大阪大学医学部高次神経研究施設生理部門

- 1) Kiyono, S. and K. Iwama (1965) Frequency spectra of the cortical EEGs in wakefulness-sleep cycle of cats with special reference to paradoxical phase of sleep. *Jap. J. Physiol.* **15**, 366-377
- 2) Kiyono, S., T. Kawamoto, H. Sakakura and K. Iwama (1965) Effects of sleep deprivation upon the paradoxical phase of sleep in cats. *EEG. clin. Neurophysiol.* **19**, 34-40
- 3) Iwama, K., H. Sakakura and T. Kasamatsu (1965) Presynaptic inhibition in the lateral geniculate body induced by stimulation of the cerebral cortex. *Jap. J. Physiol.* **15**, 310-322
- 4) Iwama, K. and H. Sakakura (1965) Impulse transmission in cat lateral geniculate and so-called deep sleep wave. *Proc. Jap. Acad.* **41**, 499-502
- 5) Sakakura, H. and K. Iwama (1965) Presynaptic inhibition and postsynaptic facilitation in lateral geniculate body and so-called deep sleep wave activity. *Tohoku. J. Exper. Med.* **87**, 40-51
- 6) 岩間吉也 (1965) 賦活睡眠 臨床脳波 **6**, (特別号) 32-39
- 皮質下核間の相互関係について ——その電気生理学的研究 日本生理誌 **27**, 81
- 2) 陣内伝之助・六川二郎・岩田吉一(1965.2) メトラゾール静注によって誘発されるてんかん痙攣に対する脳幹又は皮質下核の破壊効果についての実験的研究 日本生理誌 **27**, 82
- 3) Noda, H. (1965.9) An interrelation between the leticular nuclei of both sides. *Med. J. Osaka Univ.* **16**, 21-43
- 4) Ozawa, T. & Kamikawa, K. (1965.10) Inhibition in a splanchnovagal reflex produced by vesical distension. *Jap. J. Physiol.* **15**, 455-462
- 5) Ioku, M., Ribera, V. A., Cooper, I. S. & Matsuoka, S. (1965.12) Parkinsonism: Electromyographic studies of monosynaptic reflex. *Science* **150**, 1472-1475
- 6) 森 昭胤・芦田 元 (1965.12) Thalidomido をめぐる 2, 3 の問題について 条件反射 **61**集 2409-2410
- 7) 沢井愛次郎・芦田 元・竹内直司・田中一三・森昭胤・陣内伝之助 (1965.12) γ -Guanidinobutyric acid の痙攣について 条件反射 **61**集 2416-2421
- 8) 八坂陽一郎・沢井愛次郎・岩田吉一・六川二郎・森 昭胤・陣内伝之助 (1965.12) γ -Butyrolactone の脳波に及ぼす影響ならびに抗痙攣作用に関する実験的研究 条件反射 **61**集2440-2444

大阪大学歯学部口腔生理学教室

- 1)* 河村洋二郎・船越正也・西山 亨・長沢 亨・釜田彰夫 (1964.10) N-アセチル-L-アスパラギン酸の疲労回復効果に関する研究 体力科学 **14**, 1-8
- 2)* 河村洋二郎・足立 明・小原正美・池田真吾 (1964.10) 化学調味料の味覚作用に関する神経生理学的研究 *Amino Acid and Nucleic Acid 発酵と代謝* **10**, 168-178
- 3)* 船越正也 (1964.11) 味覚刺激と唾液分泌 歯科基礎誌 **6**, 23
- 4) 河村洋二郎 (1965.2) 唾液の酵素 日本歯科医学誌 **17**, 826-827
- 5) 河村洋二郎・船越正也・西山 亨・真島利雄(1965.7) 舌筋活動の自己調節機序について 日本生理誌 **27**, 373
- 6) Kawamura, Y. & Hamada, T. (1965.3) Blood circulation response in orsl soft tissues and its physiological Mechanisms. *J. Dent. Res.* **44**, 448
- 7) 河村洋二郎・西山 亨・船越正也(1965.4) 歯牙神経反応から見た食品の物理的性状分析 日本生理誌 **27**, 204-206
- 8) 河村洋二郎・足立 明(1965.5) 化学調味料に対する反応を利用しての Taste Resceptor Unit の解析 日本生理誌 **27**, 279-284
- 9) 船越正也・河村洋二郎(1965.5) 顎下腺知覚神経の機能に関する研究 日本生理誌 **27**, 138
- 10) 浜田 徹(1965.6) 口腔軟組織の温度上昇反応に関する研究 阪大歯学誌 **10**, 81-94

大阪大学医学部陳内外科

- 1) 最上平太郎・神川喜代男・野田寛治(1965.2) 左右

- 11) 河村洋二郎・釜田彰夫・松田信子 (1965. 6) 各種 aspartates の中枢神経系に対する作用に関する研究 脳と神経 **17**, 554-560
 - 12) 河村洋二郎・西山 亨・船越正也・真島利雄(1965. 6) 歯牙に加える圧と歯神経反応の関係について 阪大歯学誌 **10**, 65-73
 - 13) 窪田隆一 (1965. 6) 歯牙神経反応よりみた裏装剤の効果 阪大歯学誌 **10**, 75-80
 - 14) Kawamura, Y., Nishiyama, T., Funakoshi, M. & Majima, T. (1965. 6) Dental nerve response of the cat induced by pressure on the incisor. J. Osaka Univ. Dent. School **5**, 1-9
 - 15) 河村洋二郎・船越正也・西山 亨・真島利雄(1965. 9) 舌筋活動の筋電図学的研究 日本生理誌 **27**, 429
 - 16) 河村洋二郎・船越正也・西山 亨・真島利雄(1965. 9) 舌筋よりの自己受容性信号とその延髄投射 日本生理誌 **27**, 436-445
 - 17) 西山 亨・船越正也・河村洋二郎 (1965. 10) 歯牙の位置感覚について 日本口腔科学誌 **14**, 352-355
 - 18) 長沢 亨 (1965. 11) 呼吸運動と咀嚼筋活動の機能的相関 歯科基礎誌 **7**, 20
 - 19) 足立 明 河村洋二郎・小原正美・池田真吾 (1965. 12) グアニール酸ソーダの味覚作用に関する神経生理学的研究 Amino Acid and Nucleic Acid 発酵と代謝 **12**, 63-68
- * 印は前年度脱落分

大阪市立大学医学部第1生理学教室

- 1) Fukami, Y., T. Furukawa and Y. Asada (1965, 3) Excitability changes of the Mauthner cell during collateral inhibition. J. Gen. Physiol. **48**, 581-600
- 2) 鶴丸泰男 (1965. 3) Mauthner 細胞の樹状突起性抑制 大阪市大医誌 **13**, 1-11
- 3) 古河太郎・鶴丸泰男・朝田芳男 (1965. 2) Mauthner 細胞に於ける dendritic inhibition 日本生理誌 **27**, 93-94
- 4) 古河太郎・石井義久 (1965. 2) 金魚聴神経の活動電位 日本生理誌 **27**, 144
- 5) 浅沼 広・酒田英夫 (1965. 2) 皮質運動錐体細胞の機能的配列 日本生理誌 **27**, 61-62
- 6) 浅沼 広・酒田英夫 (1965. 11) 錐体路細胞の一般性質およびその機能的配列 脳と神経 **17**, 1094-1099
- 7) Furukawa, T. and Y. Ishii. (1965. 9) The effect of pressure change on auditory action potentials in goldfish. Abstract of XXIII intern. congress, Physiol. p. 371
- 8) Asanuma, H. and H. Sakata (1965. 9) Functional relationship of the cerebral cortex and spinal cord. Abstract of XXIII intern. congress, Physiol. p. 433

大阪市立大学医学部第2生理学教室

- 1) 埴 功・久家 清 (1965. 2) ERG とイオン類お

よび Oscillation との関係 日本生理誌 **27**, 142

- 2) 細谷雄二・木村英一・小野時男・上田晏弘・表野篤・白根恒太郎 (1965. 2) 杆体細胞における光情報処理に関する研究 日本生理誌 **27**, 143
- 3) 木村英一・木下喜博・小野時男・渡辺礼子・巽典之 (1965. 3) 家兎赤血球の生理学的研究 日血会誌 **28**, 46-47
- 4) 伊東洋一郎 (1965) A device of centrifuge with coild sedimentation tube for separating various live cells. Abstracts XXIII International Congress of Physiological Sciences 66
- 5) 木村英一・細谷雄二・白根恒太郎 (1965) Photogalvanic effect of rhodopsin and choline esterase activity of the rod cell. Abstracts XXIII International Congress of Physiological Sciences 357
- 6) 埴 功・久家 清 (1965) Effects of common ions on the trans-retinal D. C. potential and the ERG of the frog. Abstracts XXIII International Congress of Physiological Sciences 360

大阪市立大学家政学部栄養生理学教室

- 1) Koishi, H., and J. H. Leatham (1965. 9) Protein anabolism following hypophysectomy and growth hormone. Abstracts of papers XXIII International Congress of Physiological Sciences 561

大阪医科大学第1生理学教室

- 1) Nakanishi, M., H. Nishinaka, Sh. Sugimoto and F. Ohguchi (1965) On the Origin of the Autonomic Nerves from the Central Nervous System. Bulletin of the Osaka Medical School **11**, (No.1), 1-16

関西医科大学第1生理学教室

- 1) Tashiro, Y. and Siekevitz, P. (1965. 2) Ultracentrifugal studies on the dissociation of hepatic ribosomes. J. Mol. Biol. **11**, 149
- 2) Tashiro, Y. and Siekevitz, P. (1965) Localization of hepatic ribosomes of protein newly synthesized in vivo. J. Mol. Biol. **11**, 166
- 3) Tashiro, Y. and Yphantis, D. A. (1965. 2) Molecular weights of hepatic ribosomes and their subunits. J. Mol. Biol. **11**, 174
- 4) 田代 裕 (1965. 2) 肝細胞におけるタンパク合成と膜系との関連 蛋白質・核酸・酵素 **10**, 151
- 5) 田代 裕 (1965. 2) ミクロソーム (小胞体) の構造と機能 ——特に蛋白質合成と関連して 日本生理誌 **27**, 47
- 6) Morimoto, T., Yamamoto, O., Yamamoto, S. and Shibatani, A. (1965. 5) Isolation of rapidly labelled RNA from calf thymus nuclei. Biochim. Biophys. Acta **103**, 152
- 7) 田代 裕 (1965. 7) 肝細胞リボゾームの物理化学的構造 蛋白質・核酸・酵素 **10**, 902
- 8) 田代 裕・入交昭彦 (1965. 7) 肝細胞リボゾームでの蛋白質合成と膜構造との関係 蛋白質・核酸・

酵素 10, 903

- 9) 加藤千代子・室住恭子・桜井 洸・石川繁子(1965. 9) クロレラの窒素欠乏培地における生理化学的活性生化学 37, 620

関西医科大学第2生理学教室

- 1)* 内藤博江・藤本清一・浅山孝彦(1964. 10) Reserpinized bullfrog における cholinergic sympathetic vasodilator nerve の Reflex activation について——スエーデン学派批判 関西医大誌 16, 194
- 2)* 安原基弘・内藤博江・正野道子・市来京子・渡辺豊子・南 佳洋・内田久子・南 候枝・中西ちゑ子(1964. 12) 核酸誘導物質の中樞活動に及ぼす影響——recruiting response と誘発筋放電を考慮して 関西医大誌 16, 271
- 3)* 安原基弘・内藤博江・市来京子・渡辺豊子・織田三保子・寺内淳子・南 佳洋・藤江幸子(1964. 12) 中樞活動と胃腸運動の関連性について——その方法論と2・3薬物のおよぼす影響 関西医大誌 16, 303
- 4) 安原基弘・林 泰正・吉原マコト・渡辺豊子(1965. 2) 中樞神経系における recruiting response の機能的役割 日本生理誌 27, 76-77
- 5) 安原基弘・内藤博江・吉原マコト・真鍋準子・伊藤純一・田代初恵・後藤滋子・井本慶子・松岡綾子・朝倉須磨子・金井麻子(1965. 3) まぶしきとは——その実験生理学的考察 関西医大誌 17, 1-3
- 6) 安原基弘・内藤博江・市来京子・渡辺豊子・正野道子・穂吉健治・大谷桂子・谷田 恒・山本光男・今村一輝・吉野隆郎・竹村大介(1965. 3) 誘発筋放電におよぼす低周波の影響——中樞活動との関連のもとに 関西医大誌 17, 4-7
- 7) 内藤博江・藤本清一・雨宮 薫・浅山孝彦・生田明子・三村弥生・橋本美枝(1965. 3) カエルの末梢血管におよぼす Duvadilan (Isoxsuprine) の作用について 関西医大誌 17, 8-10
- 8) 半田ふみ子・正野道子・太田寿夫・浜田廉夫・大饗治子(1965. 7) 中樞動態と筋放電の関連性について——薬物および肝障害のおよぼす影響 日本生理誌 27, 367-368
- 9) 安原基弘・林 泰正・吉原マコト・渡辺豊子・市来京子(1965. 7) Spike and Wave の機能的意義に関する研究——特に Wave の働きについて 日本生理誌 27, 368
- 10) 安原基弘・林 泰正・半田ふみ子・正野道子(1965. 7) 視床刺激にともなう誘発筋放電の薬物による分析 日本生理誌 27, 373
- * は昨年度分記録もれ

大阪府立大学教養部生物学教室

- 1) Takagi, S., Masuda, H. and Tagawa, M. (1965. 1) On some physical properties of the Golgi complex in the living cell as revealed by micro-operations under the phase microscope. Okajimas Folia Anatomica Japonica 40, 497-517

大阪学芸大学保健学教室生理

- 1) Fujishita, S. (1965. 1) Non-respiratory Nature of Oxygen Uptake by Rod Outer Segments. Jap. J. Physiol. 14, 551
- 2) 藤下成周(1965. 2) 網膜における光のエネルギーの電気エネルギーへの変換(1) 大阪学芸大学紀要 B. 13, 275

大阪学芸大学生物学教室

- 1) 梁瀬 健(1965. 7) イソアワモチ背眼視細胞の微細構造 動物誌 74 (7号), 238-242

神戸大学医学部第1生理学教室

- 1) 岡本彰祐・高田由美子・岡本歌子(1965. 1) トランス型 AMCHA の抗プラスミン作用について 日本生理誌 27, 207-213
- 2) 岡本彰祐・美原 恒・大柴 進・船原芳範・金城清勝(1965. 3) 抗プラスミン物質 AMCHA から単離されたトランス型異性体の特徴 日本血液学誌 28, 532-533
- 3) 吉良貞伸・岡本彰祐(1965. 3) 線溶系の関節における存在様式 日本血液学誌 28, 531
- 4) 岡本彰祐・金城清勝・美原 恒(1965. 3) プラスミン——その生理化学 代謝 2, 188-194
- 5) Miura, M. (1965. 3) Activators and proactivator of fibrinolytic system in paranasal mucous membrane of man: Two forms of activator of plasminogen and proactivator responsible to streptokinase. Kobe J. Med. Sci. 11, 13-21
- 6) 岡本彰祐(1965. 5) 腎のプラスミン系 抗プラスミン剤研究会報告集 81
- 7) 杉山陽一郎・岡本彰祐(1965. 2) ラットの腎リゾーム及びミクロゾーム両分画に於ける線維素溶解系活性化因子についての実験 日本生理誌 27, 106
- 8) 船原芳範・美原 恒・金城清勝(1965. 2) 腹腔内の水分調節に関する実験(とくに線維素代謝との関係) 日本生理誌 27, 106
- 9) Kira, S., D. Kashiwagi and S. Okamoto (1965. 6) The experimental hyperfibrinolysis of joint fluid in dogs produced by injection of an iodine compound. Kobe J. Med. Sci. 11, 89-95
- 10) Funahara, Y., H. Mihara, and K. Kinjo, (1965. 6) Studies on the fibrinolysis in tumor bearing mice. III. Demonstration of the plasminogen activator in Ehrlich ascites tumor cells. Kobe J. Med. Sci. 11, 73-78
- 11) Funahara, Y. (1965. 6) Studies on the fibrinolysis in tumor bearing mice. IV. Mechanism of ascites retention with special reference to plasmin activity of tumor cell origin. Kobe J. Med. Sci. 11, 79-88
- 12) 岡本彰祐(1965. 6) 線溶系生理学の問題点 日本血液学誌 28, 332-337
- 13) 岡本彰祐(1965. 11) トランサミンについて、その生いたちと特長 Medical Digest No.83, 2-3

- 14) 船原芳範・岡本彰祐(1965.12)出血, 紫斑 病気の生化学 第2巻 主要症状Ⅱ 224-243
- 15) 岡本彰祐(1965.12) プラスミンの研究をするにあたってどんな本を読んだらよいか 生体の科学 **16** (6号), 47-48
- 16) Mihara, H., Y. Funahara, K. Kinjo and S. Okamoto (1965.9) Physiological influence of plasminogen activator of ascitic tumor cells in mice. Fibrinolysis Tokyo Symposium
- 17) Okamoto, S., M. Mihara, Y. Sugiyama, Y. Funahara, S. Kira and K. Kinjo, (1965.9) Origin and releasing of tissue activator of fibrinolysis in subcellular and cellular levels. Abst. papers XXIII Int. Cong. of Physiol. Sci. Tokyo
- 18) Oshiba, S., S. Hata, R. Fukumoto and T. Moriguti (1965.9) Inhibition by bile on the esterolytic activity produced with streptokinase in blood plasma. Abst. papers XXIII Int. Cong. of Physiol. Sci. Tokyo

神戸大学医学部第2生理学教室

- 1) 高比良英輔(1965.2) プルキンエ細胞(小脳)放電の特徴 日本生理誌 **27**, 89
- 2) 大石勝之(1965.2) 小脳皮質に対する放射線およびDDTの作用 日本生理誌 **27**, 80
- 3) Suda, I., K. Kito, C. Adachi (1965, 7) The viability of long-term frozen cat brain in vitro. 23rd International Congress of Physiological Sciences 437
- 4) Takahira, H. and A. C. Nacimiento (1965.7) Properties of the burst response of cerebellar Purkinje cells. 23rd International Congress of Physiological Sciences 125

岡山大学医学部第1生理学教室

- 1) 西田 勇・村上哲英・藤 芳子(1965.2) 生物学的活性ポリペプチド Cornin に関する研究 日本生理誌 **27**, 79
- 2) Nisida, I. & T. H. Murakami (1965.2) Antimitotic action of cornin as a biologically active polypeptide I. Biochemical properties of cornin. Acta Medicinæ Okayama, **19**, 1-9
- 3) Nisida, I. & T. H. Murakami (1965.2) Antimitotic action of cornin as a biologically active polypeptide II. Physiological effects of cornin on dividing cell. Acta medicinae Okayama, **19**, 11-18
- 4) 金尾浩志(1965.3) 筋肉から抽出した Cornin の細胞分裂抑制作用に関する研究 岡山医学会誌 **77**, 631-644
- 5) 西田 勇・村上哲英・金尾浩志・藤 芳子・原田英樹(1965.4) 生物学的活性ポリペプチド Cornin に関する研究 ——Cornin の細胞分裂に及ぼす影響 (4) 日本生理誌 **27**, 227
- 6) Nisida, I. & T. H. Murakami (1965.9) Antimitotic action of cornin as a biologically active polypep-

ptide. XXIII rd Internat. Cong. Physiol. Sci., Tokyo, 247

- 7) 西田 勇・村上哲英・藤 芳子・原田英樹(1965.11) 生物学的活性ポリペプチド "Cornin" の細胞分裂に及ぼす影響 II. 細胞生物学シンポジウム **15**, 225-231

岡山大学医学部第2生理学教室

- 1) 仙波春樹(1965.3) 胃内容排出におよぼす酸およびアルカリの影響について 日本生理誌 **27**, 178-189
- 2) 福原 武・福田博之・椎名 宏(1965.4) イヌの回盲部の神経細胞破壊実験(抄) 日本生理誌 **27**, 227
- 3) 椎名 宏(1965.4) Acetylcholine 生成と壁内神経細胞との関係(抄) 日本生理誌 **27**, 227
- 4) Hukuhara, T. & Fukuda, H. (1965.4) The motility of the isolated guinea-pig small intestine. Jap. J. Physiol. **15**, 125-139
- 5) 椎名 宏(1965.5) 腸壁内神経細胞のアセチルコリン生成にはたす役割について 日本生理誌 **27**, 270-278
- 6) 福原 武・難波良司・椎名 宏(1965.5) Thiamine tetrahydrofuryldisulfide の小腸運動におよぼす影響 ビタミン **31**, 398-400
- 7) Nakayama, S. (1965.6) Effects of stimulation of the vagus nerve on the movements of the small intestine. Jap. J. Physiol. **15**, 243-252
- 8) 福原 武・福田博之(1965.6) Thiamine tetrahydrofuryl disulfide の摘出小腸運動におよぼす作用 ビタミン **31**, 494-499
- 9) 椎名 宏(1965.7) 生体内小腸運動におよぼす麻酔薬の作用機序について 日本生理誌 **27**, 351-360
- 10) Hukuhara, T., Nakayama, S. & Fukuda, H. (1965.12) On the problem whether the intestinal motility is of a neurogenic or myogenic nature. Jap. J. Physiol. **15**, 515
- 11) 福原 武(1965.11) 胃の運動および分泌 最新医学 **20**, 2889-2893
- 12) Hukuhara, T., Nanba, R. & Siina, H. (1965.9) Effects of thiamine tetrahydrofuryldisulfide upon the intestinal motility. J. Vitaminol. **11**, 210-214
- 13) Hukuhara, T. and Fukuda, H. (1965.12) The effects of thiamine tetrahydrofuryl disulfide upon the movement of the isolated small intestine. J. Vitaminol. **11**, 253-260
- 14) Hukuhara, T., Siina, H. & Fukuda, H. (1965.12) Effects of destruction of intramural ganglion cells on the motility of the ileocecolic region. Jap. J. Physiol. **15**, 648-652
- 15) 中山 沃・福田博之(1965.12) Cholecystokinin 標品の胃小腸運動亢進効果について(抄) 日本平滑筋学誌 **1**, 238
- 16) 福田博之(1965.12) 腸管運動の交感神経支配, その cholinergic な機構について(抄) 日本平滑筋学誌

1, 244

広島大学医学部第1生理学教室

- 1) 入沢 宏・盛生倫夫・瀬山一正(1965) The presence of notches on the normal P wave. *Jap. J. Physiol.* **15**, 17-27
- 2) 小林 惇(1965) Effect of Na and Ca on the generation and conduction of excitation in the ureter. *Amer. J. Physiol.* **208**, 715-719
- 3) 入沢 彩・浜 清(1965) Contact of adjacent nerve fibers in the cardiac nerve of mantis shrimp. *Jap. J. Physiol.* **15**, 323-330
- 4) 入沢 宏・浜 清・入沢 彩(1965.7) Mechanism of slow conduction at the bulbo-ventricular junction. *Circulation Research* **17**, 1-10
- 5) 小林 惇(1965.8) 輸尿管の興奮発生とその伝導 医学書院 16巻, 177-185
- 6) 入沢 宏(1965.9) 平滑筋の比較生理学 医学のあゆみ **54**, 613-619

広島大学医学部第2生理学教室

- 1) 藤井一元(1965.3) 視床下部刺激による血圧変動について 広島医学 **18**, 137-144
- 2) 藤井一元(1965.3) 中脳刺激による血圧変動について 広島医学 **18**, 145-152
- 3) 銭場武彦・藤井一元・木村進匡(1965.5) 延髄の刺激による迷走神経性胃抑制 脳と神経 **17**, 485-489
- 4) 藤井一元(1965.9) 橋の刺激による一般血圧の変動について 広島医学 **18**, 838-849
- 5) 銭場武彦・藤井一元(1965.4) 高位脳幹刺激による血圧変動について 日本生理誌 **27**, 223
- 6) 銭場武彦・藤井一元・木村進匡(1965.4) 脾臓の周期的収縮と血流量との関係 日本生理誌 **27**, 223
- 7) 銭場武彦・藤井一元・木村進匡・大屋 悟(1965.2) 迷走神経性胃抑制について 日本生理誌 **27**, 120
- 8) 西田芳郎(1965.2) 発生途上の血液細胞内流動 日本生理誌 **27**, 105
- 9) 銭場武彦・藤井一元・木村進匡(1965.8) 迷走神経性胃運動の抑制について 日本平滑筋誌 **1**, 135
- 10) 銭場武彦・藤井一元・木村進匡(1965.9) 橋の刺激による血圧変動について 自律神経 **2**, 1
- 11) Semba, T., Fujii, K. & Kimura, N. (1965.9) The vagal inhibitory responses of the stomach to stimulation of the dog's medulla oblongata. Abstract of paper of XXIII Internat. Congress of Physiol. Science, 473

広島大学教育学部運動生理学教室

- 1) 萩原 仁(1965.10) 筋力の筋電図学的分析について 広島大学教育学部紀要 14号, 115-125

鳥取大学医学部第1生理学教室

- 1) 山田 守・秋山富三郎・今井 悟(1965.4) 歯牙の感覚について 日本生理誌 **27**, 235
- 2) 岡田五郎・大谷 武・山田 守(1965.4) 膝関節及

びその周囲の知覚 日本生理誌 **27**, 235

- 3) 岡田勝喜(1965.4) 除神経による終板感覚受容性の変化 日本生理誌 **27**, 221
- 4) 大谷 武・岡田五郎・山田 守(1965.4) 膝関節の知覚 日本生理誌 **27**, 221
- 5) 三代一成(1965.4) 象牙質知覚発現に影響を与える諸刺激について 米子医学誌 **16**, 24
- 6) 福嶋泰夫・大谷 武・岡田五郎・山田 守(1965.2) 膝関節及びその周辺の知覚 日本生理誌 **27**, 78
- 7) 岡田勝喜(1965.2) 終板のアセチルコリン感受性に及ぼす除神経の効果 日本生理誌 **27**, 128
- 8) Yamada, M. (1965.9) Excitation mechanisms of toothache due to thermal stimulation. Program XIII IUPS Congress 127
- 9) Yamada, M. & K. Okada (1965.9) Transmission mechanisms of information applied on the tooth. Symposium on Comparative Neurophysiology 36
- 10) 岡田五郎(1965.11) 膝関節及び関節周囲組織中の機械的刺激応答部位について 米子医誌 **16**, 219
- 11) 大谷 武(1965.11) 膝関節の温度感覚に関する電気生理学的研究 米子医誌 **16**, 231
- 12) 岡 迪夫(1965.11) 脊髓損傷及び血流障害時における脊髓反射の電気生理学的研究 米子医誌 **16**, 362
- 13) 秋山富三郎(1965.12) 歯牙に対する圧力の影響 米子医誌 **16**, 473
- 14) 今井 悟(1965.12) 送風, 陰圧刺激時の歯痛の発現機序 米子医誌 **16**, 484

鳥取大学医学部第2生理学教室

- 1)* 及川俊彦・古志 武・藤谷嘉子・上田育子・河原暢(1964.12) S-5' 大脳皮質神経細胞の Spike 放電における同期性と皮質脳波について 臨床脳波 **6**, 52-64
- 2) 及川俊彦(1965.1) 本川弘一・和田正男編「生理学講義」下巻, 改訂版, 南山堂 72-92
- 3) 古志 武(1965.2) 鯉嗅脳の電気活動 米子医誌 **16**, 60-73
- 4) 及川俊彦・藤谷嘉子・上田育子・河原 暢(1965.2) 大脳皮質神経細胞単位放電の同期性と皮質脳波 日本生理誌 **27**, 92
- 5) 岡田博匡・西川睦彦(1965.2) イヌの心臓血管神経の遠心性衝撃に対する静脈内注入の反射効果 (Bainbridge 反射) 日本生理誌 **27**, 113
- 6) Oikawa, T., Koshi, Fujitani, Y., Ueda, I. & Kawahara, N. (1965.2) Synchronism between two trains of spontaneous spike activity in the cat's visual cortex. *Yonago Acta Medica* **9**, 44-55
- 7) Oikawa, T., Fujitani, Y. & Koshi, T. (1965.2) Afterdischarge of carp's optic lobe in response to optic nerve stimulation. *Yonago Acta Medica* **9**, 37-43
- 8) Fujitani, Y. & Koshi, T. (1965.2) The fiber distribution in the optic tract of the carp. *Yonago Acta Medica* **9**, 58

- 9) Fujitani, Y. (1965. 2) Effects of ocular compression upon the activity of the cardiovascular nerves. *Yonago Acta Medica* **9**, 59
- 10) 及川俊彦・古志 武・藤谷嘉子・上田育子・河原暢 (1965. 4) 大脳皮質神経細胞の単位放電における同期性について 日本生理誌 **27**, 221
- 11) 岡田博匡・藤谷嘉子・西川陸彦 (1965. 4) イヌの心臓支配迷走神経の活動に対する頸動脈洞刺激および薬物の効果 日本生理誌 **27**, 222
- 12) 河原 暢 (1965. 8) 大脳皮質酸素濃度と電気活動 米子医誌 **16**, 374-392
- 13) Okada, H. (1965. 9) Effects of venous infusion upon the efferent impulses in the cardiovascular nerves of the dog (Bainbride's reflex). Abstracts of papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences 125
- 14) Oikawa, T. (1965. 9) Synchronism of cortical neuron discharges in relation to brain waves. Abstracts of papers presented at XXIII International Congress of Physiological Sciences 443
- 15) 及川俊彦・古志 武・藤谷嘉子・上田育子 (1965. 10) 2つの皮質神経細胞単位放電間における同期性の検定 第14回日本脳波学会抄録集 126
- 16) Oikawa, T., Koshi, T., Fujitani, Y., Ueda, I. & Kawahara, N. (1965. 10) Synchronism of cortical neuron discharges and its relation to brain waves. The XIIIth annual meeting of the Japan EEG Society 5-6
- 17) 岡田博匡 (1965. 11) イヌの腹部交感神経活動の呼吸性変動 国際自律神経研究会 第18回抄録集 10
- 18) Kawahara, N. (1965. 12) Oxygen concentration and electrical activity of the cerebral cortex. *Yonago Acta Medica* **9**, 253

* 印は前年度脱落分

山口大学医学部第1生理学教室

- 1)* 丹生治夫・大川博通 (1964. 9) 各種陰イオンのモット輸尿管の電気的および機械的活動性におよぼす影響 日平滑筋誌 **1**, 123
- 2)* 丹生治夫・熊本水頼・中島 晃 (1964. 9) マウス子宮筋に於ける興奮の発生と伝播に対する Catecholamine の影響 日平滑筋誌 **1**, 122
- 3) 柴田二郎 (1965. 4) プルキンエ線維の電気生理学的特性について 日本生理誌 **27**, 226
- 4) 柴田二郎 (1965. 4) 水素イオン濃度の Purkinje 線維の活動電位におよぼす影響について 日本生理誌 **27**, 229
- 5)* 丹生治夫・伊藤 稔・高木公三郎・伊藤一生 (1964. 6) ボート選手の体力の発達について 体力科学 **14**, 68
- 6)* 丹生治夫・伊藤 稔 (1964. 6) 身体運動による心電図の変化について 体力科学 **14**, 76
- 7) 丹生治夫 (1965. 2) 平滑筋活動におよぼす各種イオンの影響 昭和39年度文部省研究報告集録 (医学および薬学) p. 159

- 8) 柴田二郎 (1965. 2) プルキンエ線維の前電位および平坦部の発生について 日本生理誌 **27**, 112
- 9) 丹生治夫 (1965. 9) 平滑筋に対するイオン, アドレナリン, 性ホルモンの作用 医学のあゆみ **54**, 740-746

* 印は前年度脱落分

山口大学医学部生理学教室第2講座

- 1) Gorou Kawabata, et al. (1965. 1) On the Henderson's Equation concerning Tip-Potential of Microelectrode. *Bull. Yamaguchi Med. School* **12**, (1)
- 2) 曾我美勝 (1965. 2) 血清アルブミン分子の異性化について(抄) 日本生理誌 **27**, 47
- 3) 川端五郎・他1名 (1965. 2) 静止電位測定時の非生物学的結合電位(抄) 日本生理誌 **27**, 102
- 4) 曾我美勝 (1965. 4) Cyanogum zon-electrophoresis による plasma albumin の oligometric form の研究 日本生理誌 **27**, 225
- 5) 藤本勝喜・他2名 (1965. 4) 曇リンパ嚢筋性漏汁弁の静止膜電位と微小電極法における結合電位 (抄) 日本生理誌 **27**, 230
- 6) 川端五郎・沖 充・他1名 (1965. 8) 胃筋(曇など)の生理学的性質の2, 3 (抄) 日本平滑筋誌 **1**, 124
- 7) 谷国勝美・他2名 (1965. 9) 細胞内電位値の検討 I. 銀塩化銀電極の単極電位差 II. 微小電極の液間起電力 日本生理誌 **27**, 446-453
- 8) 谷国勝美・他2名 (1965. 9) 細胞内電位値の検討 III. 蛋白溶液の液間起電力 日本生理誌 **27**, 454-462
- 9) Itsuro Shiraisi, et al. (1965. 9) On the Liquid Junction Potential. *Bulletin of the Yamaguchi Med. School* **12** (3)

徳島大学医学部第2生理学教室

- 1)* Matsumoto, J. et M. Juvet (1964) Effect de reserpine, DOPA et 5HTP sur les deux états de sommeil. *C. R. Soc. Biol.* **158**, 2137-2140
- 2) 松本淳治 (1965. 2) フェノール誘導体, とくにカテコールの痙攣機序について 四国医学誌 **21**, 322-323
- 3) 松本淳治 (1965) 睡眠逆説相の誘発と睡眠各相における2つの刺激閾 日本生理誌 **27**, 224
- 4) 松本淳治・他 (1965) 自律中枢刺激の条件反射に対する影響 自律神経 **2** (No.1), 4
- 5) Matsumoto, J. and M. Juvet (1965. 9) The effect of reserpine, 5-HTP, DOPA on the two phases of sleep. Abstracts of papers, XXIII Int. Cong. Physiol. Sciences 454
- 6) 松本淳治 (1965. 10) 逆説睡眠の誘発 第14回日本脳波学会総会抄録集 54
- 7) 松本淳治 (1965. 12) 逆説睡眠の誘発と神経ホルモン 条件反射 61集 2482-2485

* 印は前年度脱落分

徳島大学医学部外科学第1講座

- 1) 辻村武文 (1965. 8) 小腸端々吻合術後における興奮

伝播に関する研究 日本平滑筋誌 **1**, 30

九州大学医学部生理学第1講座

- 1) Kuriyama, H. and Tomita, T. (1965) The responses of single smooth muscle cells of guinea-pig taenia coli to intracellularly applied currents, and their effect on the spontaneous electrical activity. *J. Physiol.*, **178**, 270-289
- 2) Casteels, R. and Kuriyama, H. (1965) Membrane potential and ionic content in pregnant and non-pregnant rat myometrium. *J. Physiol.*, **177**, 263-287
- 3) Büllbring, E. and Kuriyama, H. (1965) Excitation and inhibition on the intestine. 23rd Internat. Cong. Physiol. Sci., invitation lecture.
- 4) Büllbring, E., Kuriyama, H. and Tomita, T. (1965) Discrimination between inhibitory potential and electrotonic potential in response to external stimulation of the smooth muscle of Guinea-pig taenia coli. *J. Physiol.*, **181**, 8-10
- 5) Osa, T., Hidaka, T., Kuriyama, H., and Toida, N. (1965) Symposium in comparative neurophysiology membrane activities of the smooth muscle cell in the hypertonic solution. 11A-14. p22
- 6) Toida, N. and Osa, T. (1965) Spike generating mechanism of smooth muscle cell membrane. 23rd Internat. Cong. Physiol. Sci. 94
- 7) Tomita, T. and Wright, E. B. (1965) A study of the crustacean axon repetitive response: I. The effect of membrane potential and resistance. *J. cell. comp. Physiol.* **65** (No.2), 195-210
- 8) Wright, E. B. and Tomita, T. (1965) A study of the crustacean axon repetitive response: II. The effect of cations, sodium, calcium (magnesium), potassium and hydrogen (pH) in the external medium. *J. cell. comp. Physiol.* **65** (No.2), 211-228
- 9)* Tanahashi, Y. and Miyahara, H. (1964) A preliminary report about the effect of mucin on the absorption of the intestine. *Kyushu J. Med. Sci.* **15**, 159-163
- 10) 栗山 熙 (1965. 2) "腸管の自動能" 腸管における興奮と伝導 日本生理誌 **27**, 68-69
- 11) 栗山 熙・富田忠雄 (1965) 平滑筋膜におよぼす刺激電流の効果 日本平滑筋誌 **1**, 131
- 12) 西原英徳・長 琢朗・栗山 熙 (1965) 平滑筋細胞膜の Slow potential 発生機序 日本平滑筋誌 **1**, 240-241
- 13) 日高 徹・長 琢朗 (1965) 平滑筋活動の基本波形 日本平滑筋誌 **1**, 241
- 14) 問田直幹・長 琢朗 (1965) 平滑筋細胞膜の性質 日本平滑筋学誌 **1**, 242
- 15) 栗山 熙 (1965) ネコ子宮筋のイオン含有量と膜電位 日本平滑筋誌 **1**, 255
- 16) 問田直幹・長 琢朗 (1965. 2) 平滑筋膜における Na-運搬機構 日本生理誌 **27**, 99-100
- 17) 宮原ハツヨ・棚橋陽吉 (1965. 2) 腸管吸収における Mucin の効果について 日本生理誌 **27**, 99
- 18) 大木幸介 (1965) 入門分子薬理学 南江堂 1-268
* 印は前年度脱落分

九州大学医学部生理学第2講座

- 1) Masayosi Goto and Tadasi Tamai (1965. 4) Effects of Acetylcholine and Adrenaline on the Atrial Fibrillation. *Jap. J. Physiol.* **15**, 155-168
- 2) 後藤昌義・村瀬良子 (1965. 7) 平滑筋(5) 平滑筋の緊張と静特性 医学のあゆみ **54**, 199-206
- 3) 後藤昌義 (1965. 12) シンポジウム B 主題「心臓刺激伝導系の構造と機能」解剖学誌 **40**, 412-413
- 4) 後藤昌義 (1965. 4) 平滑筋の研究をするにあたってどんな本を読んだらよいか 生体の科学 **16**, 102-104
- 5) Kawata, H. (1965. 3) Der Innenwiderstand des Froschventrikels. *Pflügers Archiv* **285**, 222-228
- 6) Arpad I. Csapo and Hiroshi Takeda (1965. 1) Effect of progesterone on the electric activity and intrauterine pressure of pregnant and parturient rabbits. *Amer. J. Obstetrics and Gynecology.* **91**, 221-231
- 7) Hiroshi Takeda. (1965. 1) Generation and Propagation of Uterine Activity in Situ. *Fertility and Sterility* **16**, 113-119
- 8) Hiroshi Takeda (1965) The Progesterone Block. *Hormonal Steroids, Biochemistry, Pharmacology and Therapeutics* (Academic Press, New York)
- 9) Hironori Nakanishi and Hiroshi Takeda (1965. 6) Electrical Response of Guinea-Pig Seminal Vesicle to Hypogastric Nerve Stimulation in Vivo and Effect of Reserpine. *Jap. J. Pharmacol.* **15**, 199-200
- 10) Hiroshi Takeda and Hironori Nakanishi (1965. 6) Electrical and Mechanical Activity of the Guinea-pig Vas Deferens in situ. *塩野義研究所年報 No. 15*, 163-166
- 11) 武田 寛・中西弘則 (1965. 8) 生体精囊の電気的活動ならびにそれにおよぼす自律神経葉の影響 日本平滑筋誌 **1**, 42-49
- 12) 妹尾康平 (1965. 9) 細胞内電位よりみた心筋細胞におよぼすアセチルコリンおよびアドレナリンの効果 福岡医誌 **56**, 859-870
- 13) 後藤昌義 (1965. 2) 心筋細胞の本体と自律神経毒および諸種イオンの影響 日本生理誌 **27**, 65-66
- 14) 緒方道彦 (1965. 2) 筋細胞質抵抗 (Ri) と収縮-骨格筋の E-C coupling 日本生理誌 **27**, 129-130
- 15) 河田 淳 (1965. 2) 骨格筋及び心筋細胞の内部抵抗 日本生理誌 **27**, 131-132
- 16) Ogata, M. (1965. 9) Behavior of myoplasmic resistance during the activation of muscle. *Abstract Int. Cong. Physiol. Sci. XXIII No. 806*
- 17) Goto, M. (1965. 9) Hysteresis and stress-relaxation of the blood vessels studied by the universal

- tensile testing instrument. Abstract Int. Cong. Physiol. Sci. XXIII No. 302
- 18) Murase, Y. (1965. 9) pH and temperature dependence of the tension on the toad blood vessels. Abstract Int. Cong. Physiol. Sci. XXIII No. 304
- 19) Tamai, T., Y. Kawauchi, and I. Imanaga (1965. 9) Effects of acetylcholine and adrenaline of the membrane potentials of the rabbit myocardium during aconitineinduced fibrillation. Abstract Int. Cong. Physiol. Sci. XXIII No. 259
- 久留米大学医学部生理学教室**
- 1) 後藤賢二・山下良禧・鳥越 光(1965. 2)長時間運転操作と心搏数の関係について 日本生理誌 **27**, 146
- 2) 末永一男・後藤賢二・鳥越 光(1965. 3) 関門トンネル生理衛生学的実態調査報告書 日本道路公団福岡支社版 1-25
- 3) 末永一男・後藤賢二・山下良禧・鳥越 光(1965. 5) 長時間運転時における運転疲労と心機能(心搏数)の関係について 交通医学 **19** (臨時号), 8
- 4) 末永一男・後藤賢二・山下良禧・鳥越 光(1965. 5) 運転時の視力について 交通医学 **19** (臨時号), 8
- 5) 末永一男・後藤賢二・服部好典・鳥越 光(1965. 5) 国道3号線(福岡-門司)におけるスピード運転の心機能におよぼす影響について 交通安全研究資料 第5集 11
- 6) 末永一男・後藤賢二・鳥越 光(1965. 5) 事故防止(疲労防止)の見地より考察した身体変化(特に心搏数)について 交通安全研究資料 第5集 24
- 7) 末永一男・後藤賢二・鳥越 光・服部好典(1965. 5) 飲酒による視野並びに反応時の変化 交通安全研究資料 第5集 28
- 8) 末永一男・立花俊郎(1965. 5) 飲酒と中枢機構に関する実験 交通安全研究資料 第5集 30
- 9) 末永一男・後藤賢二・鳥越 光・山下良禧(1965. 5) 通過車輛飽和状態における関門トンネル内の環境測定と運転者におよぼす影響について 交通安全研究資料 第5集 30
- 10) 山下良禧(1965. 10) 走行時の視力に関する実験的研究 久留米医誌 **28**, 1055-1077
- 11) 末永一男・後藤賢二・鳥越 光・山下良禧・服部好典(1965. 10) 一般路上に於けるスピード運転が運転者の心機能におよぼす影響 久留米医誌 **28**, 1091-1095
- 12) 末永一男・後藤賢二・鳥越 光・山下良禧・服部好典(1965. 10) 車輛飽和状態に於ける“関門トンネル”を通過する場合の運転者の心身反応 久留米医誌 **28**, 1096-1102
- 13) 後藤賢二・山下良禧・鳥越 光(1965. 10) トンネル通過時の視力——中ノ谷道路において—— 久留米医誌 **28**, 1103-1107
- 14) 後藤賢二・山下良禧・鳥越 光・服部好典(1965. 10) 交通疲労に関する研究(その7) “疲労判定のための光識別閾値測定装置について” 久留米医誌 **28**, 1108-1113
- 15) 末永一男・後藤賢二・山下良禧・鳥越 光・服部好典(1965. 10) 交通疲労に関する研究(その8) “長距離自動車運転時の視覚機能について” 久留米医誌 **28**, 1114-1119
- 16) 末永一男・後藤賢二・山下良禧・鳥越 光・副田博之(1965. 10) 鳥原道路に於ける車酔いについて 久留米医誌 **28**, 1120-1126
- 17) 末永一男・後藤賢二・末永英文(1965. 12) 自動車運転時の脳波について 久留米医誌 **28**, 1569
- 18)* 野田憲一(1964) Potassium net efflux in relation to water movement across the membrane of frog sartorius muscle fibers. Kurume Med. J. **11**, 122-132
- 19)* 野田憲一(1964) Net efflux and depolarization efflux of K ions from sartorius muscle in K free Ringer. Kurume Med. J. **11**, 167-176
- 20) 野田憲一(1965) Electrophoretic migration of intracellular cations in the toad sartorius muscle. Kurume Med. J. **12**, 61-71
- 21) 瀬嶺教三(1965) Membrane calcium and bioelectric potentials. Studies in physiology Spring-Verlag Berlin, Heidetberg, New York. 125-133
- 22) 西彰五郎・副田博之・瀬嶺教三(1965) Effect of alkali-earth cations of frog's spinal ganglion cell. J. Neurophysiol. **28**, 457-472
- 23) 副田博之(1965) The origin of spontaneous contractions and changes in neuromuscular transmission in Ba-treated muscle. Kurume Med. J. **12**, 43-60
- 24) 西彰五郎・副田博之・瀬嶺教三(1965) Studies on sympathetic B and C neurons and patterns of preganglionic innervation. J. cell. comp. physiol. **66**, 19-32
- 25) 西彰五郎(1965) 自律神経シナプスの電気生理学のあゆみ **54**, 679-686
- 26) 西彰五郎・副田博之・瀬嶺教三(1965) 交感神経節B, C細胞のシナプス電位および節前線維終末のACh発射量について 日本生理誌 **27**, 89
- 27) 西彰五郎・副田博之(1965) 交感神経に於ける synaptic delay 日本生理誌 **27**, 231
- 28) 副田博之・西彰五郎(1965) 神経細胞膜におよぼすアルカリ土属イオンの作用 日本生理誌 **27**, 231
- 29) 瀬嶺教三(1965) The role of calcium in membrane excitation. Excerpta Med. Inter. Cong. No. 87-527-541
- 30) 立花俊郎・服部好典(1965. 2) 覚醒反応に伴う後視床下部血流変化について 日本生理誌 **27**, 86
- * 印は前年度脱落分
- 長崎大学医学部第1生理学教室**
- 1) Suzuki, T., Yoshio, H., Kurouji, K.-I. and Hirai, K. (1965) Effect of spinal cord transection on adrenal 17-hydroxycorticosteroid secretion in response to insulin hypoglycaemia. Nature (Lond.) **206**, 408

- 2) Sakai, K. (1965) Adrenal medullary secretion in response to hemorrhage in the dog. *Tohoku J. exp. Med.*, **86**, 33-42
- 3) Yamashita, K. (1965) Effect of flavonoid compounds on progesterone in progestational development. *J. Endocrin.*, **32**, 259-260
- 4) Yamashita, K. (1965) Anti-progestational activity of rutin on the rabbit uterus. *Nature (Lond.)*, **207**, 198-199
- 5) Yamashita, K. (1965) Gonadotrophins and testicular 17-ketosteroid secretion. *Tohoku J. exp. Med.*, **87**, 105-109
- 6) Suzuki, T., Yamashita, K., Hirai, K., Kurouji, K-I. and Yoshio, H. (1965) Adrenal 17-hydroxycorticosteroid secretion in response to cyanide anoxia. *Pflügers Arch. ges. Physiol.*, **285**, 119-123
- 7) Suzuki, T. (1965) Effect of non-exhausting and exhausting exercise on adrenal 17-hydroxycorticoid secretion rate in the dog. *Abstr. XXIII Intern. Congr. Physiol. Sci.*, 260
- 8) Yamashita, K. (1965) Some aspects of release of a hypothalamic ICSH releasing factor. *Abstr. XXIII Intern. Congr. Physiol. Sci.*, 277
- 10) 三村珪一・朝長邦男・北島陽夫 (1965. 2) 家兔視覚系活動に關与する特殊および非特殊系要因 *日本生理誌* **27**, 75-76
- 11) 佐田八郎 (1965. 6) 正常脳波の平均的時間経過とスペクトル密度について *精神経誌* **67**, 533-548
- 12) Sato, K. (1965. 8) On the brain masspotential analysis. *Digest of 6th Int. Conf. ME & BE* 458-459
- 13) Sato, K., Mimura, K., Kitajima, H., Hirota, N., Tagawa, Y. & Ochi, N. (1965. 9) Some observations on the cerebral evoked potentials in relation to EEG. *Abstracts of XXIIIth Int. Congr. Physiol. Sci.* 1060
- 14) Mimura, K., Sato, K. & Tomonaga, K. (1965. 9) The specific and nonspecific components in the cortical potential evoked by sensory stimulation and its relationship with the origin of spontaneous EEG. *Abstracts of XXIIIth Int. Congr. Physiol. Sci.* 1062
- 15) 藤山 定 (1965. 9) 家兔小脳の呼吸運動に対する影響 *脳神経* **17**, 925-931
- 16) 佐藤謙助 (1965. 10) 脳の集合電位活動の生体情報処理所見について データ処理用電子計算機 AT AC-401型使用例 No. 3 *日本光電工業* 1-9
- 17) Mimura, K. & Sato, K. (1965. 10) On the frequency responses of retina and cortex in the rabbit. *Jap. J. Physiol.* **15**, 478-491
- 18) Tomonaga, K. (1965. 12) On the effect of heart beat on minor tremor. *Jap. J. Physiol.* **15**, 560-569
- 19) Awazu, T. (1965. 12) Studies on human minor tremor. *Jap. J. Physiol.* **15**, 579-595
- 20) Sato, K. & Kitajima, K. (1965. 12) On the average EEG response activities in relation to the intensity of flicker stimulation. *Jap. J. Physiol.* **15**, 596-622

長崎大学医学部第2生理学教室

- 1)* 佐藤謙助 (1964. 9) 脳波はわれわれに何を教えるか? S-6 脳波分析の立場から *臨床脳波* **6**, 65-76
- 2)* Sato, K. (1964. 9) From the standpoint of data processing. *XIII th Ann. Meet. Jap. EEG Soc.* 7-11
- 3)* Sato, K. and Honda, N. (1964. 9) On the components of human cerebral masspotential in response to intermittent photic stimulation. *XIIIth Ann. Meet. Jap. EEG Soc.* 93-94
- 4)* Mimura, K. & Sato, K. (1964. 9) Frequency responses in the rabbit's visual system. *XIIIth Ann. Meet. Jap. EEG Soc.* 156-158
- 5)* Hirota, N. (1964. 9) On the flash light response activities in the visual cortex of unanesthetized cats. *Acta Med. Nagasaki.* **9**, 186-199
- 6) 朝長邦男・田川安浩・北島陽夫・広田典祥・三村珪一・寺本成美・本多夏生 (1965. 4) MT に対する心拍と中脳網様体の影響について *日本生理誌* **27**, 237-238
- 7) 本多夏生・三村珪一・寺本成美・北島陽夫・朝長邦男・田川安浩・広田典祥 (1965. 4) 人の集合電位反応の構成要素について *日本生理誌* **27**, 238
- 8) 北島陽夫・広田典祥・田川安浩・朝長邦男・三村珪一・寺本成美・本多夏生 (1965. 4) ヒトの集合電位反応に対する強さの影響について *日本生理誌* **27**, 238-239
- 9) 佐藤謙助・広田典祥・田川安浩 (1965. 2) ネコの大脳視覚領, 特殊および非特殊感覚系の活動について *日本生理誌* **27**, 74

* 前年度脱落分

熊本大学医学部第1生理学教室

- 1)* 小玉作治 (1964) 摘出家兔心臓灌流の工夫 *続報 日本生理誌* **26**, 117
- 2)* 田中育郎・古沢末義 (1964) 副腎髓質の機能 *内分泌学* (三宅 儀・山本 清編) 朝倉書店 847
- 3)* 小玉作治 (1964) 摘出灌流家兔心臓呼吸の簡単な測定考案 *日本生理誌* **26**, 328
- 4)* 田中育郎・古沢末義 (1964) アセチルコリンの血管作用について *日本生理誌* **26**, 328
- 5) Higashihara, Y., Hurusawa, S., Simada, Y. and Tanaka, I. (1965) Observations on the axon reflex sweating in the fetus. *Kumamoto Med. J.* **18**, 43
- 6) 古閑睦好 (1965) 肝臓部分切除によるラット肝細胞増殖誘発と血糖との変化について *日本生理誌* **27**, 117
- 7) 田中育郎 (1965) 私の見聞したスウェーデンの医学

教育 日本生理誌 **27**, 190

- 8) 古閑睦好(1965) *in vitro* における肝細胞の生長誘発について 日本生理誌 **27**, 232
- 9) Higashihara, Y., Hurusawa, S., Konaka, K., Sibata, M. and Simada, Y. (1965) Effect of G-strophanthin on gastric acid secretion in toads. *Kumamoto Med. J.* **18**, 110
- 10) Kodama, S. (1965) Some observations on the activities of the isolated heart preserved in a refrigerator. *Kumamoto Med. J.* **18**, 130
- 11) Konaka, K., Matuoka, Y., Sibata, M. and Tanaka, I. (1965) A powerful stimulant of gastric secretion extracted from the pancreas. *Kumamoto Med. J.* **18**, 234

* 前年度脱落分

熊本大学医学部生理学第2講座

- 1) Hashimoto, Y. (1965) The effects of metabolic inhibitors. pH and temperature on Na extrusion and K uptake in Na-loaded amphibian sartorius muscles. *Kumamoto Med. J.* **18**, 11-22
- 2) Hashimoto, Y. (1965) Resting potentials of Na-loaded sartorius muscle fibres of toads during recovery in high K Ringer. *Kumamoto Med. J.* **18**, 23-30
- 3) 佐藤昌康・赤池紀生・山下 智(1965) 核酸関連物質の呈味作用に関する電気生理学的研究 グルタミン酸ソーダとの相乗作用並びに温度効果について 発酵と代謝 **11**, 53-61
- 4) Sato, M. and Akaike, N. (1965) 5'-Ribonucleotides as gustatory stimuli in rats. *Electrophysiological studies.* *Jap. J. Physiol.* **15**, 53-70
- 5) Sato, M. and Yamashita, S. (1965) 5'-Ribonucleotides as gustatory stimuli in rats. Effects of temperature. *Jap. J. Physiol.* **15**, 570-578
- 6) Sato, M. and Yamashita, S. (1965) The effect of temperature on the taste response of rats. *Kumamoto Med. J.* **18**, 41-43
- 7) Yamada, K. (1965) The glossopharyngeal nerve response to taste and thermal stimuli in the rat, rabbit and cat. *Kumamoto Med. J.* **18**, 106-108
- 8) Akaike, N., Hiji, Y. and Yamada, K. (1965) Taste preference and aversion in rats following denervation of the chorda tympani and the IXth nerve. *Kumamoto Med. J.* **18**, 108-109
- 9) Akaike, N. and Yamada, K. (1965) The depressant effect of calcium ions on the taste response of the frog. *Kumamoto Med. J.* **18**, 169-170
- 10) Yamashita, S. and Sato, M. (1965) The effects of temperature on gustatory response of rats. *J. Cell. and Comp. Physiol.* **66**, 1-18
- 11) Ozeki, M. and Sato, M. (1965) Changes in the membrane potential and the membrane conductance associated with a sustained compression of the non-myelinated nerve terminal in Pacinian

corpuscles. *J. Physiol.* **180**, 186-208

- 12) Ishiko, N. and Amatsu, M. (1965) Changes in the chorda tympani nerve responses to taste stimuli associated with movement of the tongue in cat. *Jap. J. Physiol.* **15**, 623-637

熊本大学体質医学研究所生理学研究部

- 1) 緒方維弘(1965.1) 環境低体温 医学のあゆみ **52**, 194-197
- 2) 村上 憲・片山次郎・水上 誠・増田剛志郎・津崎邦英・宮崎正万(1965.2) 頭部冷却の体温調節におよぼす影響 体質医研報 **15**, 152-158
- 3) 佐々木 隆(1965.2) 急速な位置移動に伴う体温の日間リズム 日本生理誌 **27**, 118
- 4) 水上 誠・石原 章・谷口正信(1965.2) 家兔の海馬ならびに扁桃核刺激の対寒体温調節におよぼす影響 日本生理誌 **27**, 118
- 5) 緒方維弘(1965.6) 筋作業の食塩味覚閾におよぼす影響 体力科学 **14**, 57
- 6) Ogata, K. (1965.9) Assessment of cold tolerance in man based on the central activity mechanism of cold impulses. Abstracts of symposia on environmental physiology. Kyōto
- 7) Sasaki, T. (1965.9) Relation of basal metabolism to changes in food composition and body composition. Abstracts of symposia on environmental physiology. Kyōto
- 8) Murakami, N. (1965.9) Neurophysiological studies of thermoregulation. Abstracts of symposia on environmental physiology. Kyōto
- 9) 佐々木 隆・片山次郎・水上 誠・石原 章・谷口正信(1965.10) 熊本における Picardi 化学テストの成績、およびこれに対する電子計算組織による調和解析の試み 体質医研報 **16**, 46-50
- 10) 片山次郎(1965.10) 体温調節における扁桃核の意義に関する研究 第1報 家兔扁桃核電気刺激の直腸温におよぼす影響 体質医研報 **16**, 51-63
- 11) 片山次郎(1965.10) 体温調節における扁桃核の意義に関する研究 第2報 家兔扁桃核破壊の体温調節におよぼす影響 体質医研報 **16**, 64-76
- 12) 片山次郎(1965.10) シアノン系感光色素負荷が高温曝露による浅速呼吸におよぼす影響 体質医研報 **16**, 77-83

鹿児島大学医学部第1生理学教室

- 1) 松本保久・徳満 豊・西村茂人(1965.2) 解糖作用と呼吸作用(各種条件または各種臓器の代謝の比較) 日本生理誌 **27**, 116
- 2) 河田真雄(1965.2) 胸腺抽出物の作用(第XI報) 日本生理誌 **27**, 126
- 3) 上野博紹・藤井富男・岩重和夫(1965.2) 脾臓の組織呼吸に関する実験的研究 鹿大医誌 **16**, 632
- 4) 松本保久・西村茂人・岩重和夫(1965.2) 解糖作用と呼吸作用(大脳皮質、網膜、角膜並びに腎臓皮質についての比較) 鹿大医誌 **16**, 636
- 5) 西村茂人(1965.4) 唾液腺の組織呼吸 日本生理誌

- 27, 232
- 6) 徳満 豊 (1965. 4) 糖代謝について 第Ⅱ報 日本生理誌 **27**, 232
- 7) 河田真雄 (1965. 4) 胸腺抽出物の作用 第Ⅹ報 日本生理誌 **27**, 233
- 8) 西村茂人 (1965. 6) 唾液腺の組織呼吸に関する研究 第1報 glucose 並びに食餌の影響 鹿大医誌 **17**, 18
- 9) 松本保久・西村茂人・藤井富男・上野博紹 (1965. 6) 各種条件下における大脳皮質の解糖作用と呼吸作用について 鹿大医誌 **17**, 28
- 鹿児島大学医学部第2生理学教室**
- 1) 橋村三郎・尾崎幸男・森 陽子・松田鵬輔 (1965) カエル及びガマの後根電位について 日本生理誌 **27**, 89
- 2) Hashimura, S., S. Ozaki, H. Matsuda & Y. Mori. (1965) The dorsal root potential and the ventral root discharge in the toad. Acta Med. Univ. Kagoshima **7**, 19-27
- 3) Maeno, T. & C. Zlwands (1965) An analysis of procavie endplate potential. Fed. Rroc. **24**, 649
- 4) 尾崎幸男 (1965) Slow muscle fiber の神経筋接合部におよぼす Tetraethylammonium (TEA) と BaCl₂ の影響について 鹿大医誌 **17**, 90-105
- 5) Hashimura, S. et al. (1965) The dorsal root potential and the ventral root discharge in the food. Acta. Med. Univ. Kagoshima **7**, 19-27
- 6) 尾崎幸男・森 陽子 (1965) Slow muscle fibre におよぼす B⁺⁺ と Tetraethylammonium の影響 日本生理誌 **27**, 228-229
- 7)* 橋村三郎・長 琢朗 (1964. 2) ガマの後根電位について 日本生理誌 **26**, 40
- * 印は前年度脱落分

〔短報〕

〔会報〕

生理学者を主対象とする「物理学基礎」講習会の経過報告

後援：日本生理学会

世話人：岐阜大学教授 竹中繁雄

大阪大学名誉教授 久保秀雄

会期：昭和41年7月25～30日

会場：岐阜市日本生命岐阜ビル，その他

生理学者を主対象とする「物理学基礎」講習会は7月25日より30日まで6日間にわたって開催された。会員は57名にて教授12名，助教授7名，大学院学生7名，他は助手または研究勤務の方々であったが，薬学部の方が7名であった。招待講演の名大・理・坂田昌一教授は25日10：00から「量子力学」を序論と数学的表現の多い本論との2回に分けて，量子力学の基本的な考え方を説明されたが，26日の第2回目の本論において，量子力学では状態は波動できめられる。量子力学では状態と物理量が切り離されている。物理量は観測の対象となる量である。よって物理量を Dirac は observable (観測可能の量の意) と呼ぶのあたりから講義は益々佳境にはいり，満場水を打ったように静まって聴講した。27日の京大・基礎物理学研究所・牧二郎教授は「相対論的電気力学」を説明されたが，これは電子のスピンを自然に誘導する研究である。新進気鋭の牧教授が特に想を練って4次元のベクトルを使って解りやすく説明されたのでよく判ったとの声を後で聞いた。つづく28日の「素粒子」の講義は非常によい苦心のお講義であった。29日と30日は名大・理・田仲二郎教授の「生体物質の電子スペクトル」の講演で電子スペクトルからX線回折，励起子におよぶ広い範囲の説明であり，化学系の会員のみならず，生理学者に非常に興味を喚びおこした。26日と27日の両日の午後は名大・理・右衛門佐重雄教授の「化学結合」の講演があった。非常に興味のある領域の説明であった。以上は凡べて日本生命岐阜ビルの6階会場で行なわれ，三伏の酷暑を忘れる冷房

の中は快適なものと思われた。27日午前生理学会本部から東大の内菌耕二教授が御出張の途次岐阜に下車，会場を訪問視察されたのは世話人として意を強くした次第である。以上の講演のほか会期中毎日午前8：30から10：00までと25日午後には久保秀雄教授の「生体共鳴」と竹中の「量子力学に応用する数学」とがあった。また28日と29日の午後は2日にわたり講習会内部の催しとして，若林勲教授に司会をお願いして，「生理学研究の方法に関するシンポジウム」を行なった。これには28日には若林教授(東京医大)；大山浩助教授(金沢大学)；久保秀雄名誉教授(阪大)，29日には寿原健吉教授(東京教育大)；岩崎静子博士(東大)；木村英一教授(大阪市大)；御手洗玄洋助教授(名大・環研)の出題があった。急に御出題を御願ひしたに拘わらず，また極く気軽なものとの若林教授の御趣旨ではあったが，いずれも大変有益な面白い御講演であった。28日午後5時からは岐阜名物の鵜飼観光を行なった。ここまでは手がおよばないと思っていたが，岐阜市が本講習会を賛助して歓迎の意を表し，祝辞にそえて鵜飼観覧船2艘を提供し，団扇の土産品を贈られたことは遠来の会員および招待御講演者にとって永き記念となることであった。

理論物理学には古来名著も多いが，本講習会はその書物を読んでいる立派な生理学者が，さらに理論物理学者に面話し，直接はその口から量子力学の理論と応用とを聞こうとしたもので，帰学後さらに勉学を継続せられることと思う。このような虚心坦懐な講習会は必ず御出席の会員相互の心に温かい思い出を残すことであろう。散会に際し会員の皆様から親切なお言葉を賜ったことは，深く感謝いたします。また散会後は講師の御接待がありましたので，皆様を一々岐阜駅または新岐阜駅に今回御見送りできませんでした。欠礼の次第を御寛恕願ひあげます。

理科の講師の諸先生，御出席の会員各位，御手伝い下さった皆様および久保秀雄名誉教授に御好意を厚く御礼申しあげます。

昭和41年8月8日

岐阜大学医学部生理学教室 竹中繁雄

〔会員移動〕(1966年8月)

田崎京二君

本川弘一教授の後任として、東北大学医学部第2生理学講座の教授に昇任しました。

入会

金東俊君 韓国ソウル・梨花女子大学校生理

転任

駒村千太君 東京医科歯科大学歯学部保存学教室

(前・同大学歯学部生理)

斎藤望君 昭和大学医学部第2生理学教室

(前・東京医歯大医学部第2生理)

堀川郁英君 北海道岩見沢市鳩が丘病院

(前・北大応用電研生理)

改姓

木元良子君 九州大学医学部第2生理学教室

(前・村瀬良子君)

〔編集後記〕

先号の学会号に次いで今回は論文表題集を主に行いました。これは1月末に締切った原稿を成るべく早く出したかったためです。それと、も一つの大きな理由は原著原稿の集まりが非常に悪いからです。学会号を見ると非常な量の研究がなされていますが、その結果はどこに行ってしまうのでしょうか。

同じ発表するなら世界に共通する言葉でと思われのも無理のないことです。私の親友S氏が、2, 3英文で発表し、それを恩師に謹呈したところ、日本語で書かれた方が私にはよく分かりました。日本語で書くことも必要なことです。という返事を貰ったそうです。この挿話は大きな意味もっている様に思いますが……。Native languageは実に根強いものです。どうか本誌にもどしどし御投稿下さい。紙質が悪くて申し訳ありませんが、掲載料もなるべく安くなる様、検討していますが意にまかせられません。

学会号は如何でしたでしょうか。当番幹事の方の苦勞談、学会のウラ話しを記念写真と一緒に巻

頭に出しました。生きている我々の写真が本誌に出たのは始めてだと思います。質疑応答も主だったものを出しました。これで学会号が我々の身近にあって生きているような感じがしますが、論文表題集はどうでしょうか。どの様に利用されているか。これは大変なことですが教室別でなく、研究の種類別に分類した方が利用度も高くなるのではないかとも思っています。

本誌の性格は Am. J. P. や J. Appl. Physiol. のような性格と、Physiologist のような性格とを合わせたものです。つまり学術雑誌であり学会誌であるわけですから実習や教育について、その他種々の御意見や、主催されました会合の経過などを御寄せ下さい。短報は原則として一頁刷上りとなっていますが、少し位長くなってもかまいません。

綜説は、御陰で少し宛集まって来ております。今月は大阪大学の山野教授から頂いたものです。生理学のみならず他の分野でも大きな問題の一つになっているミクロゾームについて解説して頂きました。(市河三太)

正誤表 (28巻7号)

頁	行	誤	正
302	英文抄録 2	clinical uses were examined.	clinical uses.
302	英文抄録 3	with the tambour	were examined with tambour
304	Fig. 5.	(本号末尾に添付の図をお貼り下さい)	
308	4	methabolism	metabolism
311	右 9	V/cm ²	V/cm
314	右 27	szent-Györgyi	Szent-Györgyi
314	右下 7	xanthin	xanthine

▶ 朝倉書店の新刊医学書 ◀

実験腫瘍学

宮川正澄・佐藤春郎・螺良義彦 編 [最新刊発売中]
最近未だ数多い未知の分野を含んだ腫瘍による疾病がクローズアップされ、基礎医学領域はもちろん臨床医家もこの未知への実験を志す研究者が増大しているが、本書は癌の実験的研究の広範な事項を実際に則してわかりやすく解説した待望の集大成。

★B5判 740頁 価 8000円

放射線治療学

宮川 正・山下久雄・梅垣洋一郎 監修 [好評発売中]
放射線治療装置の最近の進歩はめざましく、各地にぞくぞくと設置されつつある現状にかんがみ、放射線治療医およびこれを志す人々ならびに放射線科医以外の癌治療医に対して放射線治療を理解してもらうために放射線治療の最新の知見を網羅した。

★B5判 488頁 価 5000円

酸-塩基平衡の臨床

東大教授 山 村 秀 夫 編 [最新刊発売中]
「酸-塩基平衡」が外科・麻酔の領域のみでなく、各科臨床で注目されている現状にかんがみ、基礎・臨床をとわず広く医学領域の研究者、学生、臨床医家のために編集された。〔基礎編〕〔臨床編〕麻酔とA. B. B. 開胸手術とA. B. B. 低体温とA. B. B他

★A5判 274頁 価 2000円

公衆衛生検査

辺野喜正夫・児玉 威 編 [最新刊発売中]
地方衛生研究所や各保健所などの衛生検査技術者や食品衛生監視員・環境衛生監視員および各病院の衛生検査員が日常直面する各分野の検査法について実際に則しすぐ活用できるよう編集された最新の実務必携書！

★A5判 552頁 価 2500円

脳の生理学

東大教授 時 実 利 彦 編 [好評発売中]
広く世界的視野の上にならって、わが国の最高権威12氏が執筆した最新の脳生理学書。〔内容〕中枢神経の構造・ニューロンの働き・背髄反射・脳幹の機能の概観・感覚の機序・運動の機序・自律系の機序・結合の機序・条件反射。

★A5判 480頁 価 3000円

医学実験装置ハンドブック

東 昇・中垣 正幸 編 価 3800円

医学・生物学のための数学

デファレス スネッドン 一男・他3氏訳 価 2500円

ウイール・ス学

東 昇・石田名香雄 編 価 8500円

臨 床 酵 素 学

赤堀 四郎・沖中 重雄 監修 価 5500円

酵 素 ハ ン ド ブ ッ ク

赤堀 四郎 監修 価 3500円

血 液 化 学

吉川・脇坂・黒田・中尾 編 価 4800円

免 疫 化 学

山村 雄一・石坂 公成 編 価 4800円

内 分 泌 学 [全II巻]

三宅 儀・山本 清 編 各巻価 8500円

腫 瘍 生 化 学

久留 勝・三浦 義彰 編 価 4300円

生 化 学 の 構 造 式

片桐 正之 著 価 1200円

人 体 寄 生 虫 ハ ン ド ブ ッ ク

松林 久吉 編 価 3300円

物理測定 電 気 的 測 定

技術 4 飯田・大野・神前・熊谷・沢田 編 価 1800円

新 細 胞 学

妹尾左知丸・高木 康敬 編 価 4000円

脂 質 の 生 化 学

今井 陽・坂上 利夫 著 価 1800円

微 生 物 学 入 門

小笠原・松本・阿多 著 価 1500円

新 栄 養 学

中川一郎・二国二郎・吉川春寿 編 価 3600円

タンパク質・アミノ酸の栄養学

中川 一郎・島菌 順雄 編 価 5000円

ポリカール 細 胞 - その動的構造 -

山田英智監訳・今井昌雄訳 価 1000円

一最新「医学図書目録」進呈一

東京都新宿区
東五軒町 55
振替口座 東京 8673

朝 倉 書 店

編集 都立大教授 岡 小天・大阪大学教授 久保秀雄・一橋大教授 杉田元宜

生命現象の 物理面

A5判 350頁 図表200 ¥2,000

FISHES OF JAPAN

理博 岡田弥一郎著 ¥3,200
A5判 400頁 380図 特上製本

保健体育科指導辞典

文部省教科書調査官 植村・石橋著
A5判 600頁 7ポ2段組 ¥2,200

宇野書店

東京・新宿・若葉1-19 (351) 5961
振替東京51816 (353) 4307

〔I〕生体を組立てている高分子物質とその働き
(都立大学教授 岡小天編集) I 生体高分子 (都立大教授 岡 小天・早大教授 斉藤信房) II 生体膜 (都立大助教授 山本三三三) III 生体内の水 (上智大教授 押田勇雄・農工大助教授 伊藤礼吉) IV 筋肉の物理 V 刺激と興奮 (慈恵医大教授 名取礼二) VI 高分子電解質 (名古屋大教授 大沢文夫・名古屋大学助教授 池上 明)
〔II〕量子物理学, 量子化学は生体現象をどう説明するか (大阪大学教授 久保秀雄編集)
I 生物発光 (大阪大学助教授 磯本昭夫) II 光量子数でみた視覚の絶対閾値 (広島大教授 山本純恭) III 生体酸化還元 (大阪大学教授 山野俊雄) IV フラビン酵素における電子移動 (大阪大学教授 久保秀雄)
〔III〕生体の流動平衡とメカニズムの物理 (一橋大学教授 杉田元宜編集) I 細胞化学における電動能 (大阪大教授 久保秀雄) II 生体開放系と流動平衡 (一橋大学教授 杉田元宜) III 物質代謝 (東京医科歯科大教授 島尾和男) VI 生体の制御機能と人工内臓 (東大助教授 石井威望 東大助教授 渥美 清)

〈完結〉
全10巻

生物物理学講座

日本生物物理学会編集

新しき時代の基礎科学として、急速に発展しつつある生物物理学を、各分野、第一線研究者が総力を結集した、無類の集大成である。基礎事項から、最新の成果までをきわめて理解しやすく解説され、生物物理学の入門書としても最適のものである。

〈各巻 A5判/特製クロス・ケース入〉

- | | |
|--|---|
| <p>1. 遺 伝 情 報 I ¥ 1,800
376頁
執筆 飯野徹雄・永田俊夫・木下清一郎・酒井彦一・寺島東洋三・天野実、直良博人・山田正篤・石川辰夫</p> <p>2. 遺 伝 情 報 II ¥ 2,000
432頁
執筆 富沢純一・近藤泰平・亀山忠典・木方行郎・堀内忠郎・鈴木秀穂・萩原淳嘉</p> <p>3. 遺 伝 情 報 III ¥ 2,000
426頁
執筆 小関治男・広田幸歌・渡辺春美・永田親義・増井祐夫・佐藤英美、井上信也・青木一郎、福留秀雄、川出由巳・次田 皓</p> <p>4. 生 体 高 分 子 I ¥ 1,800
384頁
執筆 和田昭九・斎藤信彦、郷通子・中島章夫・伊勢村寿三、浜口浩三・大井唯夫・野田春彦、船越浩海・吉岡甲子郎</p> <p>5. 生 体 高 分 子 II ¥ 2,200
440頁
執筆 今堀和友・船越浩海・坪井正道・宮沢辰雄・寺本英・和田英一、岡野光治・永沢満・倉田道夫、藤田博・塚田栄一</p> | <p>6. 生 体 機 能 の 分 子 論 ¥ 2,400
466頁
執筆 名取礼二・真島英信・芳賀達也、浜浩子、野田春彦・丸山工作・江藤節郎・大沢文夫・原富之・西村光雄、加藤 崇、榎井英博、藤茂宏</p> <p>7. 量 子 生 物 学 I ¥ 1,400
302頁
執筆 右衛門佐重雄・富田義一・伊藤礼吉・鈴木英雄・近藤宗平</p> <p>8. 量 子 生 物 学 II ¥ 2,000
386頁
執筆 右衛門佐重雄・永田親義・小谷正雄・今村 隆・田仲二朗・野信広・井上章、品川嘉也、品川泰子</p> <p>9. 膜 の 生 物 物 理 ¥ 2,000
392頁
執筆 中須正章・押田勇雄・渡辺昭・吉川寿寿、中尾真・小倉 光夫、品川嘉也・本陣良平・藤本守</p> <p>10. 神 經 の 生 物 物 理 ¥ 2,800
560頁
執筆 渡槽・竹内昭・吉岡太郎・荒木辰之助・伊藤正男・勝木 保次・柴川弘一・富田恒男・鈴木良次、南塚仁一・福留 秀雄、田村博</p> |
|--|---|

発売元 東京 (M) 丸善

東京都中央区田中門前町 株式会社 吉岡書店
電話 第 4 6 2 4

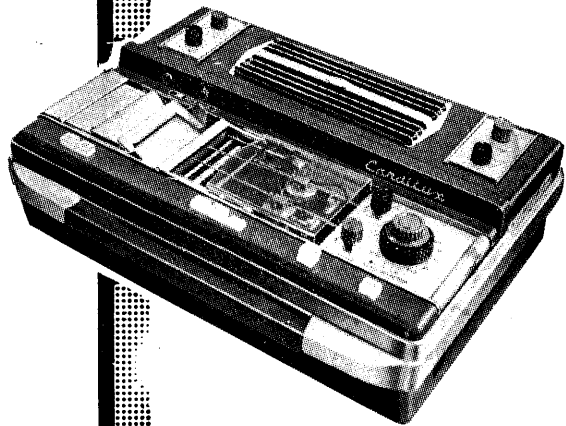


豊富な経験から生 れた最新の心電計

二要素同時記録式 心電計RS-200A型

心電図に心音・脈波・血圧・呼吸波などを併記して総合診断を行うことが新しい心電計の在り方になりました。本器はこの目的に副うよう凡ゆる便宜を考慮して製作された二要素同時記録式心電計の最新型であります。

優れた電気的特性 / 極性切換装置による交流障害の防除 / 連続長時間使用に耐えるファンモータ / 研究実験に便利な記録紙残量指示機構 / 使い易く能率的な複式誘導選択装置と自動インスト装置 / 長時間監視用にブラウン管出力端子の装備 / 心電図以外の生体電気現象の記録に必要なプリアンプ及びマイクアンプ用入力端子の装備



福田エレクトロ株式会社

東京都文京区本郷 2-35-8

電話 (814) 1211 (大代表)

札幌 / 旭川 / 釧路 / 函館 / 弘前 / 秋田 / 盛岡 / 仙台 / 山形 / 福島 / 立川 / 埼玉 / 神奈川 / 金沢 / 静岡 / 名古屋 / 京都 / 大阪 / 神戸 / 岡山 / 米子 / 広島 / 宇部 / 高松 / 徳島 / 松山 / 高知 / 福岡 / 佐賀 / 長崎 / 熊本 / 宮崎 / 鹿児島 / 久留米 / ニューヨーク / ハンブルグ / 台中

J. Physiol. Soc. Japan Vol. 28, No. 9 (1966)

Review

Toshio Yamano : Electron transport system and physiological function of microsomes.....469

編集兼
 発行人

東京都文京区本郷七丁目三の一号
 東京大学医学部生理学教室内
 戸塚武彦

印刷者
 印刷所

山形県鶴岡市馬場町甲三
 中村作右衛門
 鶴岡印刷株式会社

発行所

東京都文京区本郷七丁目三の一号
 東京大学医学部生理学教室内
 日本生理学会

定価
 振替東京八六四三〇
 百五拾円



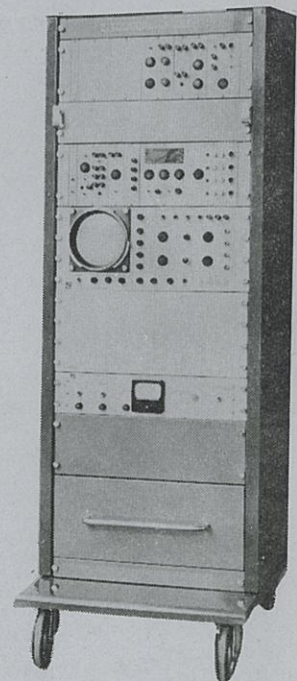
ME機器総合メーカーが誇る

光電の

データ処理用電子計算機

ATAC-402型

- ・デジタル型ON-LINE処理方式
- ・4現象の平均値化解析
- ・時間及び振幅についてのヒストグラム解析
- ・アナログデジタル両出力方式
- ・諸アクセサリーの完備



日本光電工業株式会社

東京都新宿区西落合1~31~4 (953) 1181
 札幌・弘前・仙台・福島・新潟・前橋・千葉・東京・横浜・松本・名古屋・金沢
 大阪・徳島・岡山・広島・福岡・長崎・熊本・鹿児島